改訂：2014/5/26

Web Fairy Paradise

第71号

今月のフェアリー詰将棋
- 第 62 回 WFP フェアリー作品展（再掲）
- 第 63 回 WFP フェアリー作品展
- WFP 作品展特別出題（再掲）
- 第 77 回推理将棋出題
- 第 78 回推理将棋出題

結果発表
- 第 61 回 WFP フェアリー作品展
- 第 76 回推理将棋出題
- Fairy of the Forest#39

読み物
- Fairy TopⅨ2013 お気に入り投票結果
- 推理将棋番外編（神無七郎）
- Andernach の紹介（変寝夢）

2014/5

はじめに

環水平アーク

今年のゴーデンウィークに松山へ移動中窓から不思議な光景が見れました。運転手はちょーえりですので私は助手席。真横に伸びる虹で人生で初体験でした。早速帰って調べてみますと、「環水平アーク」なるものでした。

「環水平アーク」とは、大気中の氷粒に、太陽光が屈折し、ほぼ水平な虹が見える光学現象である。虹などと同じ大気光象の一種で、水平弧、水平環 とも呼ばれる。日本国内では年に数十回観測される。(ウィキペディアより)

そんなに珍しいものでは無いようですが人生初でちょっと興奮しました。また地震の前兆という話もあるようで東日本大震災の数日前に見られたという事実もあるようです。そして5日に東京で大きな地震があったようで、ちょっとびっくりしています。本当に前兆なんでしょうか？見たら数日間気を付けないといけないかも。

さて今月号はFairy TopIX2013の発表です。どのような結果になったでしょうか？初めての方は盤に並べてその素晴らしさを是非味わってほしいと思います。

【募集】

作品

フェアリー作品、PG、推理将棋はそれぞれの投稿先へ投稿下さい。

読み物

フェアリー詰将棋に関するものに限らず日常のことでも研究物でも４コマ漫画からパロディ、イラスト、マイベスト１０、自己紹介、何でもOKです。

感想

第７１号の感想、今後の要望、ご意見等なんでも結構です。是非メールにて私まで

皆様の反応が私の意欲に成りますので是非ご協力をお願いします。

読み物、感想の投稿はこちらまで

たくぼん：takuji@dokidoki.ne.jp

協力いただいている方々のHPアドレス

*ご協力感謝します

妖精都市

http://www.geocities.jp/cavesfairy/

詰将棋メモ

http://toybox.tea-nifty.com/

詰将棋おもちゃ箱

http://www.ne.jp/asahi/tetsu/toybox/

Onsite Fairy Mate

http://www.abz.jp/~k7ro/

K.Komine's Home Page

http://19900504.web.fc2.com/index.html

第62回WFP作品展(再掲)及び第63回WFP作品展　　担当：神無七郎

今回は第 62 回出題分の再掲と、第 63 回の新規出題です。このところコンスタントに２桁出題が続いていますが、第 63 回は全 20 題（ツインがあるので実質 21 題）という WFP 作品展始まって以来の大量出題です。一部を次回に回すことも考えましたが、６月が半期に一度のお休みで、先に回すと２ヶ月待っていただくことになってしまうので､一挙出題に踏み切りました。本誌初登場の作者の方もいらっしゃいますし、解答期間も長いので、多くの解答が寄せられることを期待しています。

〔第 62 回作品展各題への補足説明〕（再掲）

第 62 回の出題は 13 題。複数解物が２題あるので、実質 15 題でしょうか。更に、特別出題として 2 題を別枠で出題しているので、こちらの解答もお忘れなく。

62-1 は時風瑞季氏による新ルール「共振」です。簡単に言えば、２つ以上の問題で、同じ駒種を同じ順番で用いて詰めよというルールですが、以下に作者自身によるルール説明をご覧いただきます。

【共振】

①共振ルールにおいては、必ず複数の盤面を同時に出題します。
②同時に出題された複数の盤面においては、同一手数目に着手出来る駒は同種の駒のみです。駒の「成」「不成」は区別しません。
③受方は、条件②を満たす着手が存在しない場合に限り、全ての合法手から自由に着手を選択することが出来ます。攻め方は、条件②を満たす王手が存在しない場合に限り、全ての王手の中から自由に着手を選択することが出来ます。
④共振ルールにおいては、一般的な協力詰における「詰み」の状態のみを詰みであるとみなします。(例えば、62-1a)においては、事実上龍は動くことの出来ない駒ですが、龍が動けない事を利用して、玉が自分から龍の利きに移動する手は非合法です。)
⑤解答者は同時に出題された全ての盤面の作意を答えます。片方のみが詰む順は不正解です。

62-2 と **62-3** は変寝夢氏による中立駒作品。本誌でも中立駒はかなりお馴染になりましたが、受方の持駒には気をつけてください。**62-2** は受方の持駒として通常の「残り駒全部」に「中立香」が１枚加わっています。**62-3** では受方持駒は通常の「残り駒全部」、つまり角以外は全部受方の持駒にあるわけです。中立駒はフェアリー駒と同様、付け加えられた駒なのです。(通常の駒が「中立」に変化するわけではありません。)また、**62-3** には２つの解があるので、両方の解を求めてください。

62-4 は変寝夢氏による Princess というフェアリー駒を使った作品。ここでは「姫」と表記します。性能は角＋騎（八方桂)。「Queen（女王)」よりは弱そうですが、騎の動きができるのは脅威です。この作品でも受方持駒は通常の「残り駒全部」です。

62-5～62-10 は神無太郎氏の AndernachIsardam 作品です。これは文字通り Andernach と Isardam（タイプＡ）の両方を適用するルールです。この２つが同居するとどうなるか。以下の例題をご覧ください。

〔例題〕神無七郎作

AndernachIsardam協力詰 7手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
								王	五
								香	六
							飛	香	七
									八
									九

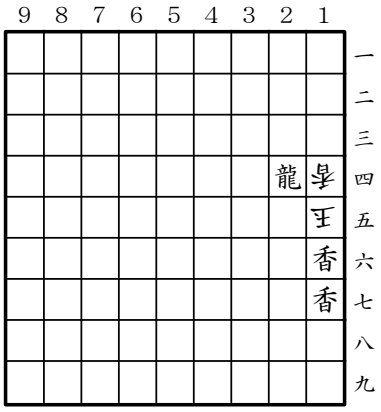
持駒　なし

何だかいきなり王手が掛かっているように見えますが、そうではありません。仮に 16 香で 15 玉を取ると Andernach により受方 15 香となります。すると Isardam の「同種の駒の利きに入ってはいけない」という禁則が適用され

るのです。ではどうやって詰めるのか。以下の手順をご覧ください。

25 飛 14 玉 23 飛成 15 玉 13 龍 14 香
24 龍 まで 7 手

（詰上り）



持駒 なし

初手 25 飛はやむを得ない所。この後 14 玉とできるのは初形で王手が掛かっていないのと同じ理由です。以下、龍を作って香合を発生させ玉を攻守の香の利きに挟むのが Isardam らしい手筋。この形を作れば、24 龍に対し同玉とできません（14 香と 16 香が互いの利きに入るため）。更に 16 玉ともできません。16 玉とすると今度は 17 香に取られてしまいます。17 香は玉を取った後に反転して受方の駒となるので Isardam の禁則が適用されないのです。

今回出題された 6 題の AndernachIsardam はこの例題より難しいと思いますが、何とかこの独特の感覚に対処してください。なお **62-6** は２つ解があるので､両方の解を求めてください。

62-11 と **62-12** は橘圭伍氏の推理将棋です。氏の推理将棋は条件の箇条書きがないのが通例になっていましたが、**62-12** は条件がやや多いので、今回は箇条書きを添えて戴きました。

62-13 は **61-11** の続編にあたる一乗谷酔象氏の「非王手連続ステイルメイト」作品。駒を成らず、王手も掛けずに、ステイルメイトにせよという問題です。もちろん、付加された条件を満たすこともお忘れなく。

〔第 63 回作品展各題への補足説明〕

第 63 回の出題は全 20 題。ツインが 1 題あるので実質 21 題です。個々に見れば極端な難解作はないと思いますが、何しろ出題数が多いので、計画的な解図が必要です。本作品展に初登場の作者の方もいらっしゃいますので、ぜひ多くの解答をお寄せください。

63-1 及び **63-2** はＤＤ++氏による「持駒推理」です。持駒推理は時風瑞季氏が考案したルールですが、一種の作図問題ですので、特別な知識は必要ありません。攻方の持駒を適切に設定して、出題図を完全作にしてください。

63-3 は上谷直希氏の「キルケ」作品。ある有名手筋がキルケならではの手順で表現されます。

63-4 は本誌初登場の御堂和柾氏の作品。ルールは（筆者個人にとっては）ちょっと懐かしい「アンチキルケ」です。このルールは初めてとか、ルールを忘れたという方は、たくぼん氏の「アンチキルケ入門」（http://www.dokidoki.ne.jp/home2/takuji/AntiCirce.html）をご覧になってください。

63-5 及び **63-6** は橘圭伍氏お得意の「キルケ」の協力自玉詰。どちらもある「元ネタ」を応用したもので、表現の仕方に違いがあります。**63-6** には受方持駒制限があるので、こちらの方が易しいかもしれません。

63-7 は改めて上谷直希氏の登場。こちらは氏が得意としている複合マドラシです。複合マドラシでは、相互的ではなく一方のみが石化されるという状況が起こります。手数は短くても手ごわいかもしれません。

63-8 及び **63-9** はたくぼん氏の Andernach 作品。作者自身がルールに慣れるために作った作品ということですが、解答者にとってもこれはルールに慣れるチャンスだと思います。

63-10～63-13 は小林看空氏の AndernachIsardam シリーズ。ただでさえ慣れない Andernach に Isardam が加わって、かなりとっつきにくいと思いますが、前回の神無太郎氏のシリーズ及び例題などを参考に解図をお願いします。

63-14 と **63-15** も AndernachIsardam ですが、作者はいつも解答の方で活躍されている占魚亭氏です。まずは **63-14** で肩慣らしをして **63-15** に挑戦、ですね。

63-16～63-18 はフェアリー駒と中立駒を使った作品。こう聞けば、もう作者は変寝夢氏だと分かるでしょう。**63-16** で使われているフェアリー駒は Empress（后）。飛と騎が合わさった利きを持つ駒です。前回 **62-4** で Princess（姫）という角と騎が合わさった利きを持つ駒が登場しましたが、やはりチェスの世界でも、駒の力関係は「飛＞角」なのでしょうか。また **63-17** では中国象棋の馬（Mao）という駒が登場します。これは性能としては騎とほとんど同じ八方

桂なのですが、騎と異なり障害物によってその動きを止めることが可能です。(これは「塞馬脚」と呼ばれます。) つまり、合駒が可能ということで、日本の詰将棋でも結構使えそうな駒です。そして、**63-18** は中立駒を使ったツイン。受方の持駒の設定が a)b)で少し異なっており、a)は単に残り全部（中立駒は数に入れません)、b)は攻方持駒の香が減っている代わりに、受方の持駒に中立駒の角が加わっています。この違いが手順の違いにどう影響するか注目ですね。

63-19 と **63-20** は「透明人間の逆襲」の記事で「透明駒」を詰パラデビューさせたご本人、會場健大氏の作品。もちろん本作品展では初登場です。**63-19** では「連続王手の千日手の禁止」という指し将棋のルールが適用され、同一局面４回となる手を指すことができません。ちょっとネタばらし的になってしまいますが、本作品展では「連続王手の千日手の禁止」はローカルルール扱いなので、常にそのルールの使用と適用条件を明示して出題します。今後、この規定を利用した作品を投稿される方も、その点については予め念頭に置いてください。**63-20** には「成禁」の条件が付いていますが、これは手順中の「成」を禁止するだけで、初形に成駒がある可能性を排除しません。

解答要項

第 62 回分解答締切：2014 年 6 月 15 日（日）
第 63 回分解答締切：2014 年 8 月 15 日（金）
宛先：janacek789@ybb.ne.jp（メールの件名に「解答」の語句を入れてください。）

作品投稿について

作品投稿は随時受け付けます。(原則として毎月 15 日の投稿まで当月号に掲載します。)
宛先は解答と同じ janacek789@ybb.ne.jp へ。メールの件名に「作品投稿」の語句を入れてください。添付ファイルも可。ｆｍ検討済みなら.fmo 形式のファイル添付を推奨します。

WFP 作品展：今後の予定

来月は「氾濫」結果稿の作成と重なるため、WFP 作品展の新規出題はお休みさせていただきます。今後の予定は以下のようになっていますので、あらかじめご承知ください。

	5 月	6 月	7 月	8 月
第 62 回＆特別出題	再掲	結果		
第 63 回	出題	再掲	再掲	結果
第 64 回			出題	再掲

ルール説明

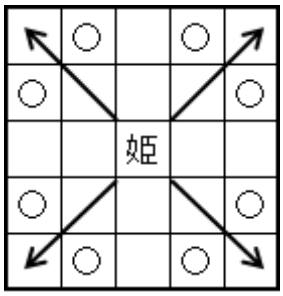
【協力詰】
先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【共振】
複数の図で同一手数目に着手出来る駒は同種の駒のみとする。

【協力自玉詰】
先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

【中立駒】(「𠮷」あるいは「n 駒」)
どちらの手番でも動かせる駒。
横向きの字か横に n を付加して表記。
→詳細は WFP61 号の「中立駒の紹介」の記事を参照してください。

【Princess】(姫)
フェアリーチェスの Princess。
角とナイトを合わせた利きを持つ。



（○に着手する、または矢印の方向に走ることができる。）

【Andernach】
駒取りを行った駒（玉を除く）は、その場で相手の駒となる。
（補足）
・取ると二歩になる場合相手の駒にならない
・駒の向きの転換は成生の選択の後に行われ、成生の選択権は駒を取った側にある
・駒取りの場合に限り、８段目への桂の不成、９段目への桂香歩の不成が可能（二歩の例外を除く）

【Isardam】
同種の敵駒の利きに入る手を禁止する。
玉を取ると同種の敵駒の利きに入る場合は王手とみなさない。(タイプＡ)

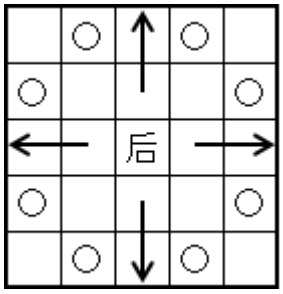
【AndernachIsardam】
Andernach 及び Isardam を両方適用する。

【推理将棋】
将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元する。

【非王手】
王手を掛けてはいけない。

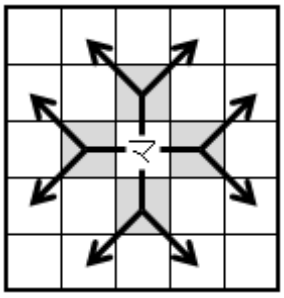
【連続ステイルメイト】
片方の手番のみが連続して指しステイルメイトにする。(**62-13** では先手のみ指す)

【ステイルメイト】
王手は掛かっていないが合法手のない状態。
【持駒推理】
図が与えられた手数で完全作となるように攻方の持駒を設定する。
【キルケ】
駒取りがあったとき取られた駒が、最も近い将棋での指し始め位置に戻される
戻り方等は以下の細則に従う
1) 成駒は生駒になって戻る。
2) 戻り位置が埋まっていたり、二歩や行き所の無い駒になったりする場合は戻れない。
3) 駒取り時、駒が戻るまでを一手と見なす。
4) 金銀桂香（成駒も含む）が５筋で取られ、複数の戻り先候補がある場合、戻る位置を選択できる。
【アンチキルケ】
駒取りがあったとき取った方の駒が、最も近い将棋での指し始め位置に戻される。
戻り方等は以下の細則に従う
1)成駒は成ったまま戻る。
2)戻り位置に駒があったり、自玉に王手が掛かったりするため、戻れない場合は戻らない。
3)駒取り時、駒が戻るまでを一手と見なす。
4)金銀桂香（成駒も含む）が５筋で駒取りを行い、複数の戻り先候補がある場合、戻る位置を選択できる。片方にのみ戻れる場合は強制的にそちらに戻る。
【安北】
味方の駒が縦に並ぶと、下の駒の利きは上の駒の利きになる。
【マドラシ】
同種の敵駒の利きに入ると、利きがなくなる。
【安北マドラシ】
安北とマドラシを両方適用する。
順序は安北、マドラシの順。
【背面】
敵駒と背中合わせになったとき、互いに利きが入れ替わる。
【成禁】
手順中に成る手があってはならない。
【Empress】（后）
フェアリーチェスの Empress。
飛とナイトを合わせた利きを持つ。



（○に着手する、または矢印の方向に走ることができる。）

【Mao】（マ）
中国象棋の馬（Mao）。合駒の利く八方桂。



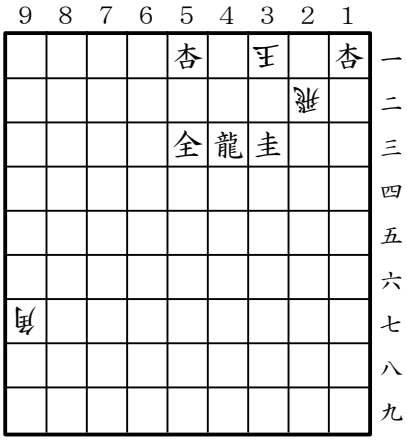
（一旦前後左右に一マス進み、次いで斜めに一マス進んだ場所に着地する。
網掛けで示した所に駒があると、その先のマスに進めない。）

【透明駒】
位置・種類が不明の駒。
着手の合法性、攻方王手義務を満たせる可能性があれば、それを満たしているものとして手順を進めることができる。
→透明駒の詳細及び例題は詰将棋パラダイス 2013 年 11 月号の「透明人間の逆襲」または「詰将棋における透明駒の説明」（http://tsumesyogi.blogspot.jp/2014/03/blog-post.html）を参照してください。

≪第 62 回 WFP 作品展≫
解答締切：2014 年 6 月 15 日（日）

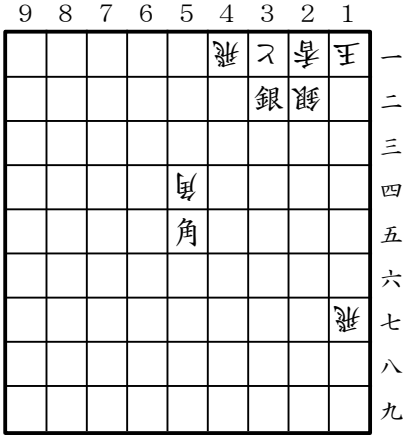
■ 62-1　時風瑞季氏作

共振協力詰 5手 a)



持駒　なし

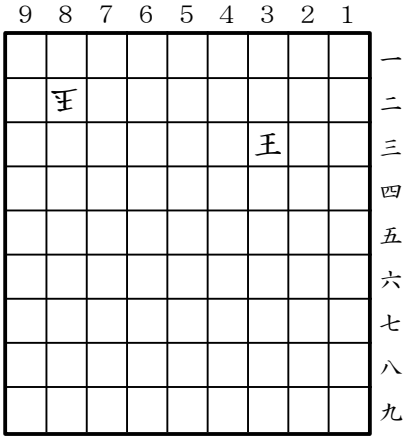
共振協力詰 5手 b)



持駒　桂

■ 62-2　変寝夢氏作

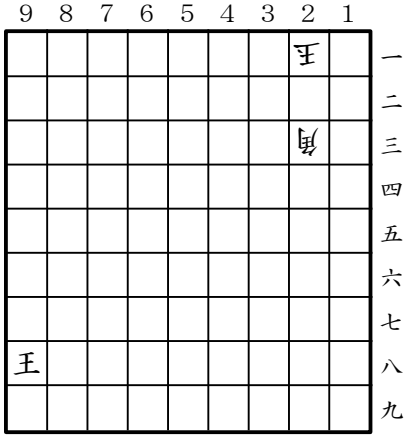
協力自玉詰 4手



持駒　n飛
受方持駒は残り全部＋n香

■ 62-3　変寝夢氏作

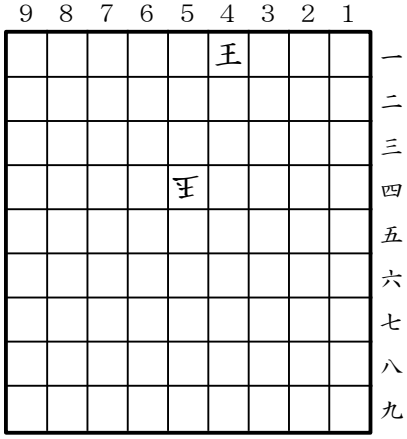
協力自玉詰 6手 ※2解



持駒　角 n飛 n角
受方持駒は残り全部

■ 62-4　変寝夢氏作

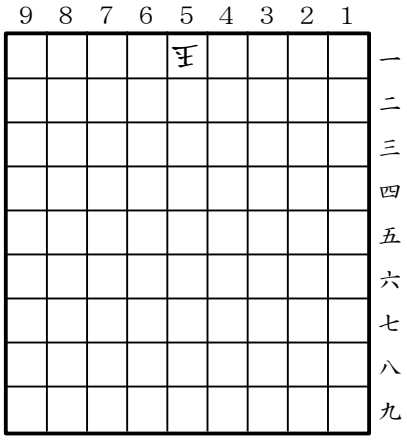
協力自玉詰 6手



持駒　姫
（※姫＝Princess：角＋騎）

■ 62-5　神無太郎氏作

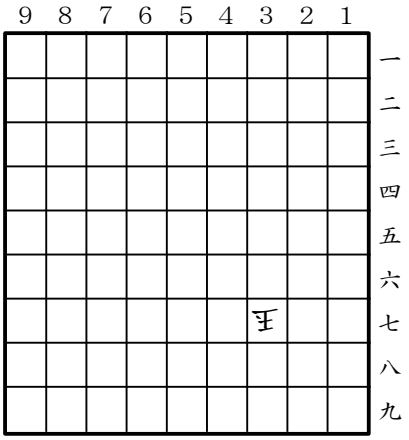
AndernachIsardam協力詰 7手



持駒　金3

■ 62-6　神無太郎氏作

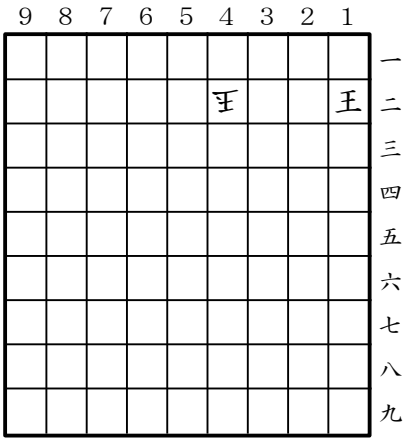
AndernachIsardam協力詰 11手 ※2解



持駒 香3

■ 62-7　神無太郎氏作

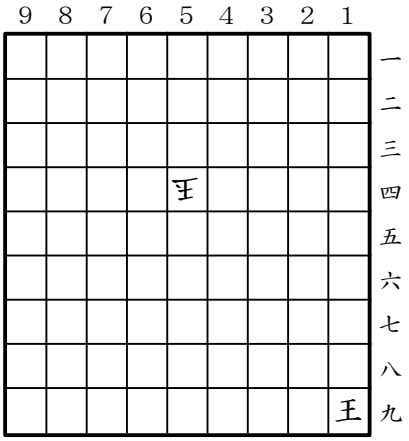
AndernachIsardam協力自玉詰 4手



持駒 角2

■ 62-8　神無太郎氏作

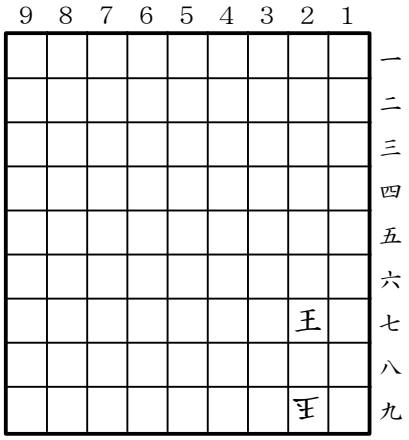
AndernachIsardam協力自玉詰 6手



持駒 角2

■ 62-9　神無太郎氏作

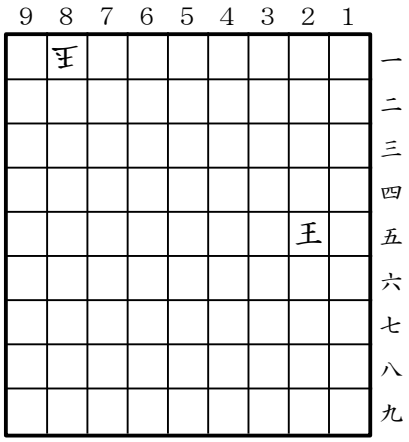
AndernachIsardam協力自玉詰 8手



持駒 飛 角

■ 62-10　神無太郎氏作

AndernachIsardam協力自玉詰 8手



持駒 飛 角

■ 62-11　橘圭伍氏作

推理将棋『Duplex』

A　「9 手の壁が高いと聞いたけど諦めないの？」

後手「うん。今回は 2 回目の王手の 9 手で詰まされたよ。それまでに、相手は飛車の利きがある地点へ 2 回馬を動かしたよ。」

A　「君は抵抗しなかったの？」

後手「自分は馬の利きがある地点へ 2 回飛車を動かして抵抗したよ。」

A　「うーん、他には？」

後手「歩の着手が 2 回あったよ」

さて、どんな将棋だったのでしょうか？

■ 62-12　橘圭伍氏作

推理将棋『night walker』

A　「初手から 36 歩 14 歩と進んだ局面から指し継いだ将棋はどうなったの？」

後手B　「自分が桂のみを 4 ヶ所に着手してたら相手が詰んだよ。これが 3 手目からの棋譜だよ。」

～　鑑賞中　～

A　「3 手目から 28 手も掛かっているのに、成る手も金の着手も一回もないとは珍しいね。」

後手B　「他にも特徴があってね。何と、歩を除く取られた駒は、全て同〇という着手で取られているんだ。」

A　「駒取りに関して言われたから気付いたけど、後手が先手の桂を取ったのは一ヶ所だけなんだね。」

さて、どんな将棋だったのでしょうか？

〔条件〕
1. 36 歩 14 歩以下 28 手で詰んだ(合計 30 手)
2. 後手は桂のみを 4 ヶ所に着手した
3. 歩以外で取られた駒は全て同〇で取られた
4. 先手の桂が取られた地点は 1 ヶ所のみ
5. 成る手・金の着手はなかった

■ 62-13　一乗谷酔象氏作

非王手連続ステイルメイト 26手 ※条件付

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	一
	飛						角		二
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	三
									四
									五
									六
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
	角						飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒　なし

〔条件〕
・26手目は20回目の不成の着手
・一つの駒を8連続で着手し、
　その直後に別の一つの駒を8連続で着手
・一つの筋に9回着手

≪第 63 回 WFP 作品展≫
解答締切：2014 年 8 月 15 日（金）

■ 63-1　ＤＤ++氏作

持駒推理協力詰 7手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
						王			三
									四
					桂		銀		五
						王	桂		六
									七
									八
						桂		歩	九

持駒　？

■ 63-2　ＤＤ++氏作

持駒推理協力詰 9手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
					歩	歩	歩		四
						王	桂	銀	五
								飛	六
				桂	歩	歩	王		七
									八
									九

持駒　？

■ 63-3　上谷直希氏作

キルケ協力詰 9手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
	角								三
	飛								四
王		王							五
		歩							六
									七
									八
									九

持駒　歩

■ 63-4　御堂和柾氏作

アンチキルケ協力詰 9手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
		王	角						三
		飛							四
			と		と				五
				と					六
									七
									八
									九

持駒　なし

■ 63-5　橘圭伍氏作

キルケ協力自玉詰 12手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			龍						一
王	馬		香						二
	香		歩						三
	歩	王							四
									五
									六
									七
									八
			龍						九

持駒　なし

■ 63-6　橘圭伍氏作

キルケ協力自玉詰 16手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
	と							王	一
王		金							二
				馬			香		三
									四
									五
									六
								龍	七
									八
と									九

攻方持駒 なし
受方持駒 なし

■ 63-7　上谷直希氏作

安北マドラシ協力詰 5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
							歩		六
				銀	馬	王			七
									八
								飛	九

持駒　銀 香

■ 63-8　たくぼん氏作

Andernach協力詰 9手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
					王				六
					金				七
					銀				八
				香					九

持駒　桂2

■ 63-9　たくぼん氏作

Andernach協力詰 21手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
			金	金		飛			三
		金	王		金				四
		銀		角					五
									六
				歩					七
									八
									九

持駒　角

■ 63-10　小林看空氏作

AndernachIsardam協力詰 5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
			歩			歩			四
					龍				五
			桂		王				六
					歩	香			七
									八
									九

持駒　角2

■ 63-11　小林看空氏作

AndernachIsardam協力詰 5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
馬			馬		香				一
									二
		歩					桂		三
									四
					王				五
						龍			六
			銀						七
									八
									九

持駒　飛

■ 63-12　小林看空氏作

AndernachIsardam協力詰 7手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
					香				三
									四
					王				五
									六
									七
		角							八
	角				王				九

持駒　なし

■ 63-13　小林看空氏作

AndernachIsardam協力詰 13手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
						王			二
									三
								王	四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒　飛

■ 63-14　占魚亭氏作

AndernachIsardam協力自玉詰 4手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								王	一
									二
									三
								王	四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒　飛 角

■ 63-15　占魚亭氏作

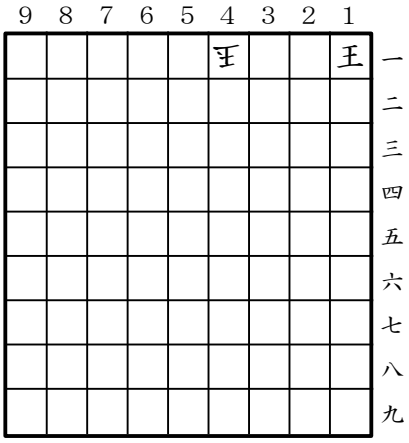
AndernachIsardam協力自玉詰 12手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				龍					一
									二
		王			角	圭			三
									四
									五
	歩				王				六
						飛			七
									八
								角	九

持駒　なし

■ 63-16　変寝夢氏作

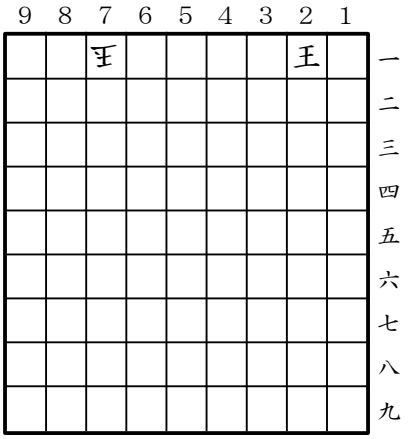
協力自玉詰 6手



持駒 后
（后＝Empress：飛＋騎）

■ 63-17　変寝夢氏作

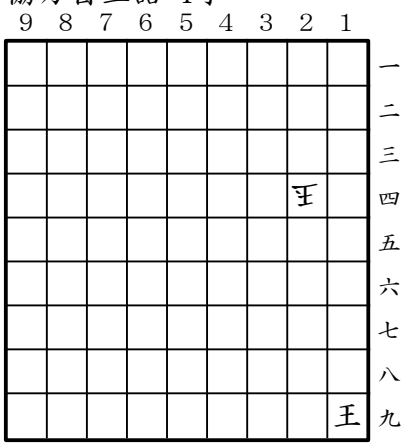
協力自玉詰 6手



持駒 マ2
（マ＝Mao）

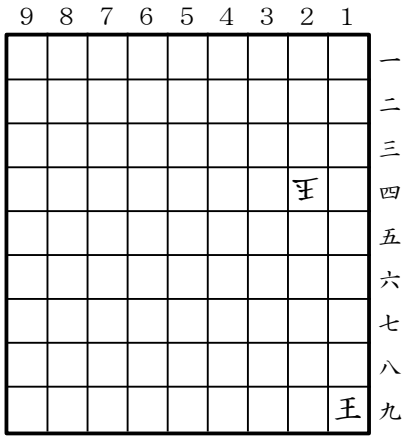
■ 63-18　変寝夢氏作

a)　協力自玉詰 4手



持駒 n飛 香

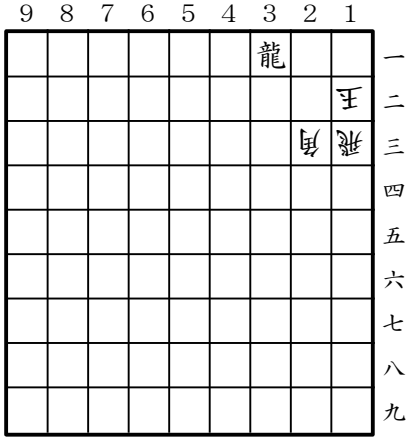
b)　協力自玉詰 4手



攻方持駒n飛
受方持駒 残り駒全部、n角

■ 63-19　會場健大氏作

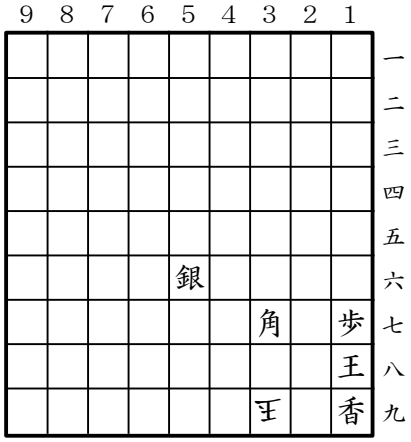
詰将棋 13手



攻方持駒 なし
受方持駒 なし
透明駒 攻方１枚、受方０枚
連続王手の千日手禁止

■ 63-20　會場健大氏作

成禁協力詰 7手



持駒 なし
透明駒 攻方１枚、受方１枚

以上

WFP作品展特別出題　担当：神無七郎

WFP 作品展向けに、soga 氏より拡大盤を使用した作品が投稿されました。その規模と内容から、通常の作品展内で扱うのは適切でないと判断し、ここに特別出題します。出題作品は２題。１題は 15×15 の盤を使った作品で、もう１題は 57×23 の盤を使用しています。
拡大盤を使う理由について作者はこう述べています。

> 内容は、Onsite Fairy Mate 第 92 回出題の出題コメントで言及されている「詰将棋コンピュータ」のミニチュアです。最近、禁欲ルールを使うと実現できることに気付きました。

Onsite Fairy Mate 第 92 回出題（http://k_7ro.abz.jp/solve/solution18.html#第 92 回）の出題時コメントで、筆者は超巨大盤を使えば詰将棋でコンピュータが実現可能ではないかと書いたのですが、これが実際に可能であること、及び具体的な設計指針を示したのが今回の作品です。この文章は 2004 年 12 月に書いたものですが、まさか 10 年以内にこれが現実の「図」として示されるとは思いませんでした。

今回の投稿には投稿作自体の説明に加え、それを拡張して汎用性を持たせる方法や、基礎となる理論についての説明があります。この「論文」については結果発表時にご紹介しますので、まずは今回の出題作を解いて「この仕組みを使えば詰将棋でコンピュータができる」ことを実感してください。

今回の出題には盤が通常のサイズより大きいことの他に、使う駒や枚数の設定に珍しい特徴があります。その他の補足も含め、以下に説明を行います。

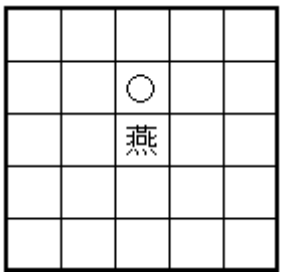
１．　今回使用されるフェアリー駒等

1.1　●（不可侵領域）

●は不透過・不可侵の領域を表します。取ることも通過することもできません。(駒と言うより、マスの性質です。)

1.2　燕

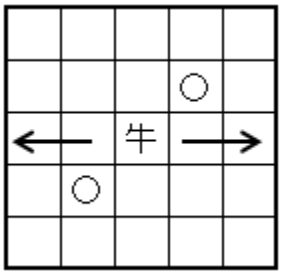
「燕」は禽将棋の「燕」です。動きは歩と同じですが、二歩禁の代わりに三燕禁のルールが適用されます。つまり、同じ筋に三つの燕が存在することはできません。また打歩詰同様、打燕詰も禁手です。



（○が燕の利き。同じ筋に三つ以上の燕は存在できない。）

1.3　横牛

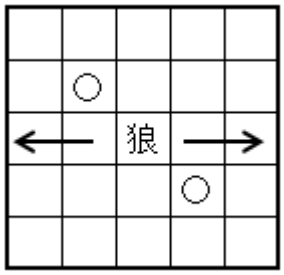
「牛」は大局将棋の「横牛」です。横には自由に走ることができ、斜め右上と斜め左下に一つ動けます。左右非対称の利きが特徴です。



（○の地点及び左右へ横牛が動ける。）

1.4　横狼

「狼」は大局将棋の「横狼」です。横には自由に走ることができ、斜め左上と斜め右下に一つ動けます。「横牛」とは左右逆の利きです。



（○の地点及び左右へ横狼が動ける。）

1.5　歩Ａ～歩Ｄ

第２問で使われている、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄはいずれも「歩」と同じ性能で、同じ筋に２つ以上の同種の駒が存在できず、打歩詰の禁則も適用されます。「歩」と同じ性質を持つ異種の駒であり、第１問の「燕」と本質的に同じ役割を与えられています。

1.6　複数の王

第２問では攻方に複数の「王」が使われています。利きも、自玉への王手が禁手という性質も「玉」と同じです。ただし、受方の玉は 5618 地点にいる１枚だけです。

２．　変数による駒数・手数指定

第１問の「燕」の枚数、第２問の「歩Ａ」の枚数には具体的な数値ではなく、変数ｎが指定され、それに伴って手数も変数ｎによって表されています。

変数で解答するのが嫌だという方は具体的な数で解答しても構いません。ただし、作品の仕組みが分かりやすいよう、ｎを３以上の整数値にして解答してください。

また、受方持駒の枚数には「∞」が指定されています。これは、その駒を何枚使っても良いことを表しています。

３．　その他の補足

第２問は「駒余り可」の設定です。余った駒の枚数と最初の持駒を比べれば、このルール設定にした意味が分かると思います。

解答要項

解答締切：2014 年 6 月 15 日（日）

宛先：janacek789@ybb.ne.jp（メールの件名に「解答」の語句を入れてください。）

ルール説明

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【禁欲】

駒を取らない手を優先して着手を選ぶ。

【成禁】

詰手順中に駒を成る手があってはいけない。

【駒余り可】

詰上りに攻方持駒が余っても良い。

【多玉】

複数の玉を使用する。どの玉に対しても王手放置は禁手。

■第１問　soga 氏作

多玉禁欲成禁協力詰 42n＋33手詰

15	14	13	12	11	10	09	08	07	06	05	04	03	02	01	
燕	燕	燕	燕	燕	燕	燕	燕	燕	燕	燕	燕		燕	燕	01
燕	燕	燕	燕	燕	燕	燕	燕	燕	燕	燕	燕	燕	燕	燕	02
歩	歩	歩		歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	03
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩		04
燕	燕	燕	燕	燕	燕	燕	燕	燕	燕	燕	燕	燕	燕	燕	05
燕	燕	燕	燕	燕	燕	燕	燕		燕	燕		燕		燕	06
	●	●	●	●	●							銀	●	●	07
	●				●	●	●						桂		08
●	●		狼	●		牛	●	●				●	●		09
●	王	●	●	●				●	●		●	●			10
●			●	●	●	●	●		●	●	●	狼	燕	●	11
●				●	●		●	燕	●	●				●	12
●						●	角	●				●	王	●	13
●					●		●	●			●	●			14
飛				龍	王					龍	飛				15

攻方持駒：燕n

受方持駒：燕∞ 歩∞

■ 第２問 soga 氏作（※盤が大きいため２つに分けています）

多玉禁欲成禁協力詰（駒余り可） 66ｎ^2+224ｎ+51 手詰

57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31
▽D	▽D	▽D	▽D	▽D	▽D	▽D	▽D	▽D	▽D	▽D	▽D	▽D	▽D	▽D	▽D	▽D	▽D	▽D	▽D	▽D	▽D	▽D	▽D	▽D	▽D	▽D
▽C	▽C	▽C		▽C	▽C	▽C	▽C	▽C	▽C	▽C	▽C	▽C	▽C	▽C	▽C	▽C	▽C	▽C	▽C		▽C	▽C	▽C	▽C	▽C	▽C
▽B	▽B	▽B	▽B	▽B		▽B	▽B	▽B	▽B	▽B	▽B	▽B	▽B	▽B	▽B	▽B	▽B	▽B	▽B	▽B	▽B	▽B	▽B	▽B	▽B	▽B
▽A	▽A	▽A	▽A	▽A	▽A	▽A	▽A	▽A	▽A	▽A	▽A		▽A	▽A	▽A	▽A	▽A	▽A	▽A	▽A	▽A	▽A	▽A	▽A	▽A	▽A
A	A	A	A	A	A	A	A		A	A		A		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
▽B	▽B	▽B	▽B	▽B	▽B	▽B	▽B	▽B	▽B	▽B	▽B	▽B	▽B	▽B	▽B	▽B	▽B	▽B	▽B	▽B	▽B	▽B	▽B	▽B	▽B	▽B
▽C	▽C	▽C	▽C	▽C	▽C	▽C	▽C	▽C	▽C	▽C	▽C	▽C	▽C	▽C	▽C	▽C	▽C	▽C				▽C	▽C	▽C	▽C	▽C
▽D	▽D	▽D	▽D	▽D	▽D	▽D	▽D	▽D	▽D	▽D	▽D	▽D	▽D	▽D	▽D	▽D	▽D	▽D	▽D	▽D	▽D	▽D	▽D	▽D	▽D	▽D
													▽飛		▽飛											
													●													
													●					●	●	●	●	●	●	●	●	●
													●				●		●	●	●			●		
													●			●			●	●		●		●	●	●
													●			●		●	●	狼	C	●	香	と	●	王
	●	●	●	●	●								●			●	●	●				●			●	
	●				●	●	●						●			●	●			●	王	●	●	●	●	●
●	●		狼	●		牛	●	●				●	●			●			●	飛				飛	王	●
●	王	●	●	●				●	●		●	●		●	●				●	●					●	●
●			●	●	●	●	●		●	●	●	狼	A	●	●				●		●	●	●		●	
●				●	●		●	A	●	●				●	●				●	C	●	角	●	●		
●						●	角	●				●	王	●	●					●	銀			●		
●					●		●	●			●	●			●				●					●		
飛				龍	王					龍	飛				飛			龍	王				●	飛		

攻方持駒：An
受方持駒：A∞ B∞ C∞ D∞

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	09	08	07	06	05	04	03	02	01	
D	D	D	D		D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D		D	D	01
C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	02
B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B		B	B	B	B	B	B	B		B	B	B	B	B	B	B	B	03
A	A	A	A	A	A	A		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	04
A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	05
B	B	B	B	B	B	B	B	B		B	B		B		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	06
C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	07
D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D		D	D		D		D	08
																													王	09
																													●	10
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			●	11
																										●			●	12
●	●	●	●																							●			●	13
	飛	飛	●										●	●	●	●	●	●	●	●	●					●			●	14
		●	●	●	●	●							●	王			飛			飛	●					●			●	15
		●				●	●	●					●							●	●	●				●			●	16
		●		狼	●		牛	●	●				●	●				●	●		牛	●	●			●		●	●	17
	●		●	●	●				●	●		●	●		●			●	●				●	●		●	●		●	18
●	●			●	●	●	●	●		●	●	●	狼	B	●	●		●	●	●	●	●		●	●	●	狼	D	●	19
●	●				●	●		●	B	●	●				●	●	●		●	●		●	D	●	●				●	20
●	●						●	角	●				●	王	●		●				●	角	●				●	王	●	21
●	●					●		●	●			●	●				●			●		●	●			●				22
					龍	王					龍	飛	●				飛		龍	王					龍	飛				23

推理将棋第７７回出題

担当：DD++

　将棋についての話をヒントに将棋の指し手を復元するパズル、推理将棋の第７７回出題です。はじめての方は　どんな将棋だったの？ -推理将棋入門　をごらんください。

解答、感想はメールで２０１４年５月２０日までに TETSU まで　（omochabako@nifty.com）メールの題名は「推理将棋第７７回解答」でお願いします。解答者全員の中から抽選で１名に賞品リストからどれでも一つご希望のものをプレゼント！　１題でも解けたらぜひご解答ください。

このところ精力的に問題投稿してくださっている Pontamon さんが中級で初登場。今回は比較的おとなしめの 11 手桂馬問題ですが、投稿の中には目を見張るようなアイデアの作品もあり、今後もどんな作品が飛び出すか非常に楽しみです。

初級は、はなさかしろうさんが易問として作ってくださった作品。手数が２桁になるとそれだけでなんとなく難しく見えるので普段は初級は９手以下としているのですが、今回は先手の手がほぼ全部見えているので例外的に２桁手数の初級です。上級はチャンプさんから、11 手ですが単純に考えていると正解に近づくこともままなりません、がんばってください。

■練習問題

「さっきの将棋、▲76 歩△74 歩▲33 角不成△62 玉▲22 角不成△73 玉まで見てたけどどうなった？」

「８筋の手があって９手で詰んだよ、って言えば残りの３手は分かるよね」

さて､残りの３手はどんな手だったでしょうか。

■本出題

７７-１　初級　はなさかしろうさん作

ささやかな軍議　　10 手

先手の順に捻りはありませんので先に決めてしまいましょう。

７７-２　中級　Pontamon さん作

桂馬の駒を５手　　11 手

詰み形はいくつか考えられますが、さてどれが正解？

７７-３　上級　チャンプさん作

金縛りの歩　　11 手

打った飛車の活用法をよく考えて。

■締め切り前ヒント　（５月１３日コメント欄に掲載予定　DD++）

７７-１　初級　はなさかしろうさん作

ささやかな軍議　　10 手

「殿、御味方の動きが鈍うござるが、本日のいくさはいかがあいなりましょうや」

「うむ、やはりな。されど五助よ、いまさら言うまい。我らは前進あるのみぞ」

「喜んで先駆けつかまつる。殿を玉、私を歩に見立てて、交互に直進させまする」

「とはいえ彼奴らめ、きっと裏切り成り上がるであろうよ。それ、この通り」

「南無三、10 手目の成で詰まされるとは。なれど、ならばこそ最後までお供しますぞ」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

（条件）

・10 手で詰んだ

・先手は玉と歩を交互に真っ直ぐ前に進めた

・最終手は成

７７-２　中級　Pontamon さん作

桂馬の駒を５手　　11 手

A「11 手で勝ったよ。」

B「どんな将棋だったの？」

A「２手目は歩以外の駒だった。後手玉の着手は２回だったね。」

B「先手の君は？」

A「着手した筋は２つの筋だけで、王手は２回だったよ。」

B「やたらと「２」ばかりだね。」

A「そんなことないよ、ぼくは桂馬の駒を５回指したよ。」※

さて、どんな将棋だったのだろうか？

（条件）

・11 手で詰んだ

・（後手）２手目は歩以外の駒の着手で、玉の着手は２回。

・（先手）王手は２回で、着手は２つの筋のみ。

・先手は、桂馬の駒を５回指した。※

※「桂馬の駒」とは桂馬の駒を使う手、つまり桂または成桂の着手という意味です。

７７-３　上級　チャンプさん作

金縛りの歩　　11 手

半　蔵「拙者が先手のようだな、では初手はこうだ。」

十兵衛「そうきたか、では儂はこうするとするか。」

半　蔵「忍奥義、歩不動金縛りの術！！」

十兵衛「なっ、なぬ！？」

半　蔵「さあ、これで互いに歩を動かすことも取ることも出来なくなった。」

十兵衛「くそっ、お主このような場でも忍術を使うとは・・・。」

半　蔵「それでは続けるとするか、次は３手目だったな。」

十兵衛「まだ勝負は始まったばかりだ、儂は負けん！」

半　蔵「これでどうだ？どうやら 11 手で詰みのようだな。」

十兵衛「唯一の駒打ちが五段目の飛打ちとは・・・無念。」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

（条件）

・11 手で詰み

・３手目以降、歩は動くことも取られることも無かった

・五段目への飛打ちが唯一の駒打ち

詰みは「忍術を解かせてから歩を指す」応手も存在しないようにしてください。

■練習問題解答

問題以下、▲88 角打△64 玉▲55 角引成まで。

このように、短手数でも稀に玉がとんでもないところで詰む場合があります。大抵は角の利きの制御がポイントなので頭を柔らかくして考えてみてください。

詰上り図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
香	桂	銀	金		金	銀	桂	香	一
	飛								二
歩	歩		歩	歩	歩		歩	歩	三
		歩	王						四
				馬					五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
	角						飛		八
香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	九

持駒 歩

推理将棋第７８回出題

担当：DD++

将棋についての話をヒントに将棋の指し手を復元するパズル、推理将棋の第７８回出題です。はじめての方は　どんな将棋だったの？ - 推理将棋入門　をごらんください。

解答、感想はメールで２０１４年６月２０日までに TETSU まで　（omochabako@nifty.com）メールの題名は「推理将棋第７８回解答」でお願いします。解答者全員の中から抽選で１名に賞品リストからどれでも一つご希望のものをプレゼント！　１題でも解けたらぜひご解答ください。
はるか昔、第 34 回や第 35 回の初級で私が「手順の半分をまるっと全部明かすことで難度を下げる」という実験をしていました。これが今の練習問題の原点なのですが、これをより長い手数でやるとどうなるか。最終的には、注目して欲しいところ以外をこの手法でスムーズに解かせることで長編くるくる推理将棋が作れるかもしれませんね。
今回の初級は拙作 12 手ですが、後手の６手を予め９択まで絞ってあります。この手法の威力を御覧ください。中級は Pontamon さんから、11 手の二歩反則問題。こちらもまた後手の数手を必然の手とすることで難度を下げてありますが、慣れない解図となることが予想されるので中級としました。上級はチャンプさんから、先月と同じく駒打ちは飛打ちのみ、今度はどんな詰み形でしょう？

■練習問題
「さっきの将棋、▲76 歩△64 歩▲33 角成△62 玉▲77 桂△63 玉まで見てたけどどうなった？」
「９手で詰んだよ、って言えば残りの３手は分かるよね」

さて､残りの３手はどんな手だったでしょうか。

■本出題

７８-１　初級　DD++作
無気力試合　12 手
後手の手は９択、さてどの歩でしょう。

７８-２　中級　Pontamon さん作
駒台の駒を摘み間違えた結果は？　11 手
詰みでの終了ではないのでいつもの常識は捨てましょう。

７８-３　上級　チャンプさん作
超一流のスイーパー　13 手
スイーパーというのもちょっとしたヒント？

７８-１　初級　DD++作
無気力試合　12 手

「この前、とってもやる気のない指し手と対局してさ」
「へえ、どんな感じだったの？」
「１枚の歩を突き続けるだけで他は何もしてこないんだ」
「12 手目に最奥で強制的に成って、14 手目はどうしたの？」
「さあね。こっちもさっさと終わらせようと 12 手で自玉が詰むように指したから」
「ひどい勝負だな」
「おいおい、相手の意図に気づいてとっさに端歩を突いた５手目を褒めてくれよ」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

（条件）

・12 手で詰んだ
・後手は１枚の歩を最奥まで突いた
・５手目は端歩を突いた

７８-２　中級　Pontamon さん作
駒台の駒を摘み間違えた結果は？　11 手

A「この前の対局、後手は２筋の駒（初形で２筋にあった駒）だけしか指さない、変な指し方の相手だったよ。」
B「で、何手で勝負がついたの？」
A「11 手だよ。」
B「じゃ、勝ったんだ。」
A「いや、負けたんだよ。10 手目の初王手の時、駒台に３つ駒があって、合い駒に歩以外の駒を摘んだつもりだったけど実は歩で、それを合い駒の場所の 68 に打ったから二歩反則負けだったんだ。」
B「でも、最後の二歩の手を除けば、５回の着手で駒を３つ取ったんだ。大駒が成って大活躍だったのかい？」
A「いや、駒成りはなかったよ。」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

（条件）

・初王手に対して、合い駒として打った 11 手目の▲68 歩で二歩反則負け
・後手の着手は２筋の駒（初形で２筋にあった駒）のみ
・終局時、先手の駒台には２つ駒があり、少なくとも１つは歩以外の駒
・駒成りはなかった

７７-３　上級　チャンプさん作
超一流のスイーパー　　13 手

女「貴方の腕を見込んである男と対決して欲しいの。」
男「美女の頼みを断るほど俺は野暮じゃないぜ。」（おっ！すげぇもっこりちゃん！）
女「将棋のルールは知ってるかしら？」
男「玉に狙いを定めて撃ち抜けばいいんだろ？」（え？なに？将棋で対決なの？）

女「まぁそうね、お願いできるかしら？」
男「任せておきな・・・これでどうだい？」（えーい、こうなったらヤケクソだ！）
女「流石ね、13 手目▲51 角不成、初王手で見事に詰みに討ち取ったわ。」
男「美女との約束は必ず守る主義でね。」（え？なにがどうなった？）

女「７手目の飛打ちが唯一の駒打ちとは無駄がないわね。」
男「どんな敵でも一撃で仕留めるのが俺の流儀さ。」（ひょっとして上手くいった？）
女「８手目の小駒の手に対して９手目に同じ筋への小駒の手で合わせたところが素敵だったわ。」
男「照準を合わせた時点で俺の勝ちは決まっていたな。」（それっぽく言っておこう）

女「ありがとうおかげで助かったわ、ところで報酬はいくらかしら？」
男「金なんて要らないさ、報酬は君の身体で・・・。」（それでは、いっただきまーす）

？「この、もっこり男がぁあぁぁああ～～天誅ぅぅうう～～【100t ハンマー発動】」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

（条件）

・13 手目の▲51 角不成が初王手で詰んだ
・７手目の飛打ちが唯一の駒打ち
・８手目と９手目は同筋への小駒の着手

■練習問題解答

問題以下、▲22 馬△54 玉▲36 角まで。

詰上り図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
香	桂	銀	金		金	銀	桂	香	一
	飛						馬		二
歩	歩	歩		歩	歩		歩	歩	三
			歩	玉					四
									五
		歩				角			六
歩	歩	桂	歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香		銀	金	王	金	銀	桂	香	九

持駒 歩

ベテランにはお馴染みの手順ですが、知らないとなかなか気づかない順です。推理将棋を始めたころにこの形を出題されて衝撃を受けた方も多いことでしょう。

第61回WFP作品展結果　担当：神無七郎

今回は第 61 回 WFP 作品展の結果を報告します。出題は全 11 題。解答者は 6 名でした。以下に今月の解答成績をまとめます。

〔第 61 回 WFP 作品展成績〕（敬称略）

○：正解　－：無解　×：誤解

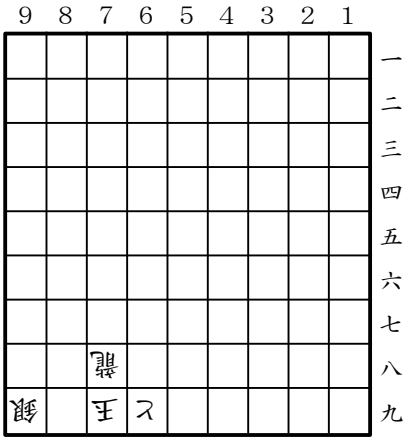
解答者名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	計
たくぼん	×	○	×	○	○	○	×	○	○	○	－	7
一乗谷酔象	－	－	－	○	－	○	○	○	○	○	○	7
変寝夢	○	○	○	○	－	○	×	－	○	－	－	6
ＤＤ++	－	－	×	－	－	○	○	○	○	○	○	6
會場健大	－	○	×	○	○	○	○	－	－	－	－	5
占魚亭	－	－	－	○	○	○	－	○	－	－	－	4

今回は會場健大氏が初解答。WFP 作品展は解答者不足が続いているので、新しい方の参入は大歓迎です。會場氏からは投稿もいただいているので、こちらも期待大です。

また、上の表から分かるように、今回は正答の分布が比較的ばらけています。いつもなら、多くの正解が集まる作品と、無解・誤解の集中する作品がはっきりと分かれるので、これは珍しい結果です。全題正解者もいません。新ルールや珍しいルールが多かったことが影響しているようですね。また **61-8** に残念ながら余詰がありました。本作品展では担当は原則として検討作業を行わないので、投稿される皆さんは投稿前に充分に自作の検討を行ってください。

■ 61-1　変寝夢氏作（正解１名※実質正解者なし）

協力詰 3手



持駒 鷲2

（※鷲＝Eagle）

【ルール】

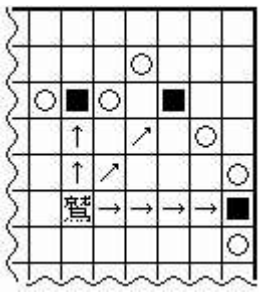
• **協力詰**

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

• **Eagle**（鷲）

フェアリーチェスの Eagle（鷲）。

グラスホッパーの変種で、クイーンの利きの方向にある駒に到達した後、進行方向に対し 90°曲がった場所に着地する。

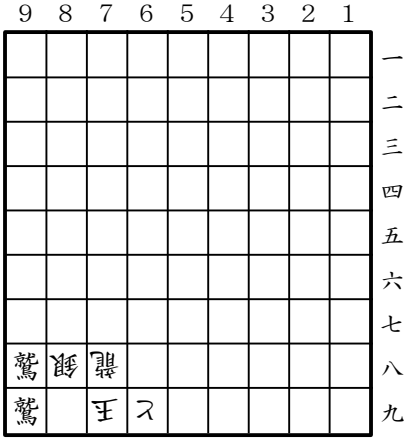


（○が鷲の利き。■は敵または味方の駒。）

【解答】

98 鷲　88 銀生　99 鷲　まで　3 手

（詰上り）



持駒　なし

【作者のコメント】

ホッパー系の接近戦での威力が伝わればいいんですが。

紛れ等

• ２手目の生がポイント。
  成ると最終手に９８全が利いてしまう
• 最終手は８８銀が移動すると９８Ea が７８→７９で玉に利いている
• ６８玉は９９Ea が６９→６８で玉に利いている

【解説】

駒を飛び越えてその先に進む性質を持つ駒を「ホッパー」と呼びますが、今回の「鷲」（作者の投稿では「Ea」で表されていました）は跳

び越えた後に方向を変える、ちょっと捻くれたホッパーです。この性能を利用して、不成移動合という大技をあっさりと実現したのが、本局の特徴です。以下、手順に沿って「鷲」の働きを確認していきましょう。

まず初手、98 鷲は 78 龍を台駒（跳び越える対象となる駒）として 79 玉に王手を掛けています。反対側、例えば 58 鷲などと王手を掛ける手は後の手順がうまくいきません。

２手目 88 銀生の不成移動が本局の眼目となる手筋です。この手は台駒を 88 に移すことにより利きをずらす手であり、利きを遮断する「合駒」とは異なるのですが、これがなくなると自玉への王手になるという性質は同じです。つまり、88 銀は 98 鷲によってピン留めされています。

この手が「移動」で且つ「不成」である理由は最終手 99 鷲で明らかになります。「移動」は 99 を空けるためであり、「不成」は 98 鷲を取る手を防ぐためだったのです。仮に、２手目が 88 銀成だと、最終手に対して「98 全」が 99 鷲による王手を避けつつ、98 鷲の利きの復活を避ける一石二鳥の手となってしまい、詰みません。

更にこの 99 鷲に対して玉が 68 に逃げることもできません。99 鷲の利きが「69 と」を経由して 68 に届くからです。「69 と」は 69 玉も妨げていますし、二重の意味で玉にとっては邪魔な駒になっているわけですね。99 と 88 の間には空きマスがないので、駒を打って受けることもできません。慣れないと分かりにくいかもしれませんが、確かにこれで詰んでいます。

本局のように「ピン留めしている駒を取らないための不成」は普通の駒ではなかなか実現できません。グラスホッパーを使っても結構難しいでしょう。本局はそれを「不動玉」「３手」であっさり実現しており、「鷲」という駒の威力をまざまざと見せつけられますね。

本局を解いた方、あるいは解答を見て理解した方はぜひこの応用にも挑んでください。例えば「不動玉では〇〇できない」という命題を考え、次にこれを「不動玉でも〇〇できる」ような方法を考えるのです。「鷲」の別の使い方を考える、例えば「一つの駒を２つ以上の鷲でピン留めする」などという方面からのアプローチも良いでしょう。作品から要素や構造を取り出し、別の肉付けを与えるのは創作の常道ですが、フェアリーでもこれは変わりません。

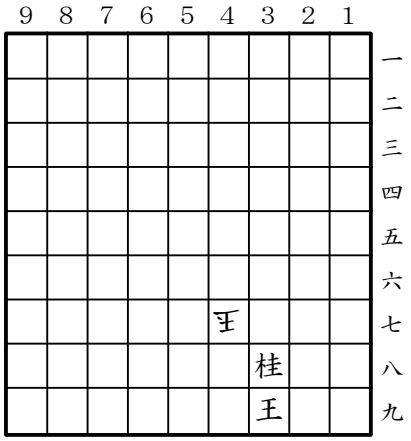
【短評】

たくぼんさん（※誤解）
う～む。正解かどうかの自信が持てない。

☆ たくぼんさんは「65 鷲 89 玉 96 鷲 迄 3 手」の解答でした。この手順は最終手に対し、98 玉や 87 龍など、様々な手順で逃れていると思います。
作者以外の解答はこの１通のみだったため、結局正解者実質ゼロとなってしまいました。作意が難解だとは思えないので、「鷲」の性能が理解されなかったのが原因なのでしょうね。

■ 61-2　変寝夢氏作（正解３名）

協力自玉詰 4手



持駒 n飛2
（※n 飛は中立駒）

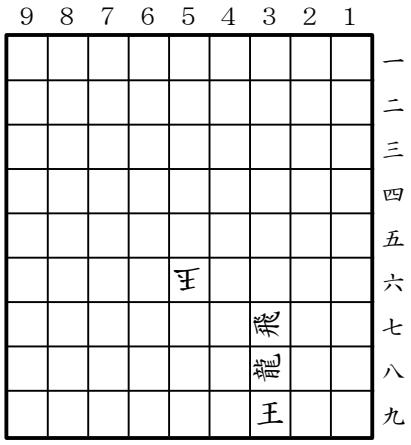
【ルール】

• **協力自玉詰**
先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

• **中立駒**（「𪜈」あるいは「n 駒」）
どちらの手番でも動かせる駒。
横向きの字か横に n を付加して表記。
→詳細は WFP61 号の「中立駒の紹介」の記事を参照してください。

【解答】

37n 飛 56 玉 58n 飛 38n 飛寄成 まで 4 手（詰上り）



持駒　なし

【作者のコメント】

最終手中立駒だと元に戻る手があるので詰まない、ということはないんです。

【解説】

中立駒でトドメを刺すにはどうするか。その難しさと、具体的な対策を示す作品。

中立駒はどちらの手番でも動かせるので、トドメの駒には適しません。中立駒で王手を掛けても、次の手番でその駒を動かせるからです。しかし、本局は手数わずか４手。普通の駒を合駒させて、それを動かして自玉を詰めるという悠長なことはできません。持駒の中立駒の飛でなんとか詰めるしかないのです。

先ほど中立駒はトドメの駒には適さないと書きましたが、それがまったく不可能なわけではありません。元の局面に戻れない「不可逆な手」を指し、且つ中立駒が動いても王手が消えない状態を作れば良いのです。それが作意手順の中立飛を同じ筋に重ねる手順です。詰上りを見てください。王手を掛けているのは 38n 龍ですが、これが移動しても 37n 飛が王手を掛けています。いくら中立駒でも２枚いっぺんには動かせないので、二段構えの王手で詰めるのです。

ただし双方の玉が接近している本局のような構図では、二段構えの態勢を作る時に逆王手に気を付けなければいけません。例えば次のような手順は失敗です。

27n 飛　37 飛　48n 飛　38n 飛寄成　まで　4 手

最終手の後、38n 龍は攻方の駒として 47 玉を取ってしまう、つまり上の「38n 飛寄成」は逆王手になっているわけです。「中立」は「無害」のようなイメージを持たれやすい言葉ですが、中立駒は先手にとっても後手にとっても敵だと考えた方が理解しやすいと思います。

作意はこの逆王手を避けるため２手目玉を逃げるという単純な手段を使います。ここは合駒や、中立駒を動かすような気の利いた手を考えるところなので、こんな単純な手は却って盲点になりそうです。38 の駒が歩でなく桂なのは、この時に玉の逃げ方を限定するためなのです。

【短評】

<u>たくぼん</u>さん

担当者の言葉を信じて飛合を読んで時間がかかった。逆王手にならない 46 玉が見えなかった。

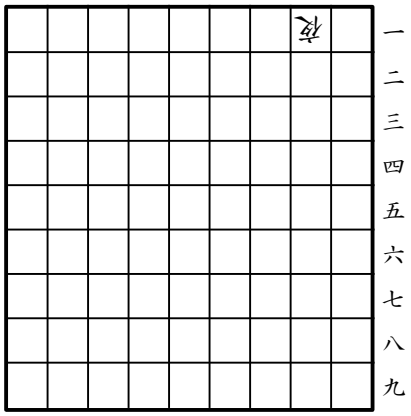
☆ たくぼんさんの解答やコメントでは「46 玉」と書かれていましたが、「逆王手にならない」とあるので、単なる誤記と判断しました。

<u>會場健大</u>さん

物足りないなあと思ったが、38 桂の配置が作意の成立と限定にうまく働いていることに気づいて味がいいなと思った。

■ 61-3　変寝夢氏作（正解１名※実質正解者なし）

縦シリンダー盤マキシ打歩
ナイトライダー王協力詰５手



持駒　角2 歩
（※夜＝ナイトライダー）

【ルール】

•縦シリンダー盤

一段目と九段目の同じ筋同士が繋がった盤。

•マキシ

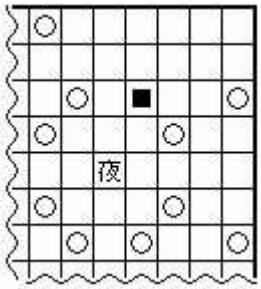
受方は最長距離の着手を選ぶ。（攻方は任意）

（補足）

・縦シリンダー盤でも、通常の距離で測る。例えばナイトライダーが 21 から 18 へ跳ん

だ場合、距離は桂馬跳びの距離（ルート 5）ではなく、21 と 18 の距離（ルート 50）と計算する。

- **ナイトライダー**（夜）
  フェアリーチェスのナイトライダー。
  ナイトの利きの方向に連続飛びができる。



（○がナイトライダーの利き。■に駒があるとそこから先には利かない。）

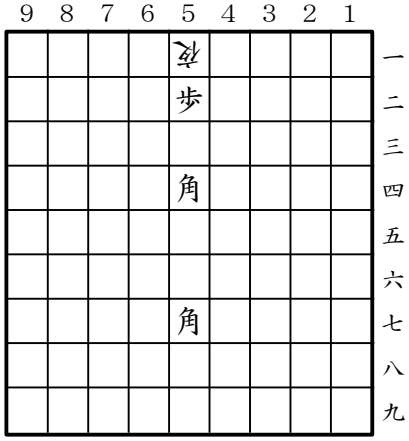
- **ナイトライダー王**
  玉がナイトライダーの性能になる

- **打歩**
  打歩詰以外の詰手を失敗とする。(単純打歩)

【解答】

57 角 87 夜 54 角 51 夜 52 歩 まで 5 手

（詰上り）



持駒 なし

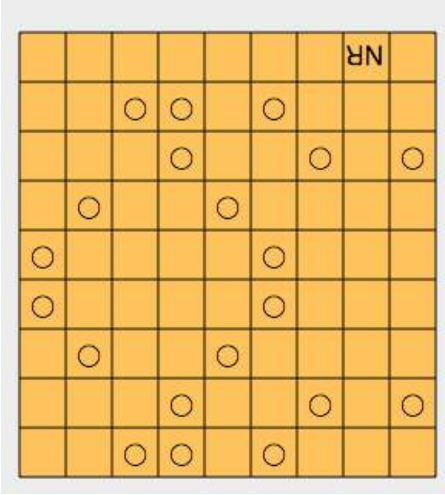
【作者のコメント】

１１～５５まで絨毯爆撃をした中から抽出。マキシ距離を変えるための初手がポイント（でないと７９まで行ってしまい不詰）。

【解説】

ナイトライダーの利きを角２枚で覆う被覆問題。

斜めに利きが走る駒は、シリンダー盤上で威力が倍増します。ただでさえ強いナイトライダーが「縦シリンダー盤」でどうなるか…まずはその利きをご覧戴きましょう。

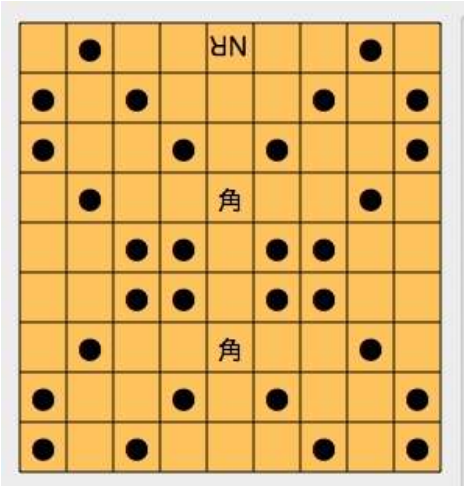


これは変寝夢氏の作成されたソフト「VM」による画面出力です。本局の初形でナイトライダーが利いている場所が、○で示されています。

こんな駒をどうやって捕まえるのか途方に暮れますが、４筋から７筋あたりの利きの分布を見てください。何だか斜めになっていますね。

幸い、持駒には角が２枚あります。縦シリンダー盤でパワーアップするのはナイトライダーだけではありません。当然、角もパワーアップします。ナイトライダーをうまく誘導して、その利きを角の利きで覆うことを考えれば良いのです。

そしてこれが４手目の局面で角の利きを●で表示した図です。ナイトライダーの利きと（平行移動して）比較して、●が○を覆い尽くしていることを確かめてください。



作者自身も仰っていますが、手順のポイントは初手 57 角。ナイトライダーの初期位置からもっとも遠い場所は 97 地点ですが、この筋を途中で塞ぐことによって、最遠位置を変更する手筋です。57 角は盤を一周して後ろから王手を

掛ける手ですが、縦シリンダー盤では常にこういう手があることを意識してください。

ただ、本局は利き場所の確認や距離の比較でミスしやすく、解答者は手順がどうのこうのという以前に、反則を指さないだけで精いっぱいという状態になってしまいました。手順を求めさせる通常の出題形式ではなく、「縦シリンダー盤上に角角香を配置してナイトライダーが詰んだ形を作れ」という、パズル形式で出題した方が良かったかもしれません。

作者はこの作品を絨毯爆撃で見つけたそうですが、投稿時にその資料を送ってくださいました。見やすいように若干編集したので、その完全作一覧をご覧いただきましょう。この出力ではナイトライダーは NR で表されています。

縦シリンダーマキシ打歩協力詰 5 手
先手配置:なし
先手 持ち駒　角 2 歩
後手 持ち駒　飛 2 香 4 金 4 銀 4 桂 4 歩 17
（以上の設定は共通）

後手配置:11NR
38 角 98NR(11) 35 角 32NR(98) 33 歩 まで 5 手

後手配置:21NR
57 角 87NR(21) 54 角 51NR(87) 52 歩 まで 5 手

後手配置:22NR
67 角 97NR(22) 64 角 61NR(97) 62 歩 まで 5 手

後手配置:31NR
67 角 97NR(31) 64 角 61NR(97) 62 歩 まで 5 手

後手配置:34NR
67 角 97NR(34) 64 角 61NR(97) 62 歩 まで 5 手

後手配置:41NR
77 角 29NR(41) 74 角 71NR(29) 72 歩 まで 5 手

後手配置:54NR
27 角 79NR(54) 24 角 21NR(79) 22 歩 まで 5 手

ほとんど図で角は４・７段目に配置されますが、11NR の図だけ５・８段目にずれているのが目を惹きますね。単なる縦シリンダー盤だと、図を縦に平行移動しても（成・不成が絡まなければ）同じ図になるはずですが、「マキシ」の設定のおかげで、段がずれると違う手順になる組（例えば 21NR と 22NR では、段の違いが筋の違いになって現れる）も出てきています。皆さんはこの結果から何を読み取りますか？

【短評】

一乗谷酔象さん（※61-1～3 へのコメント）
変寝無さんの作品は全く思考の外側にあって解けません(泣)。

☆ 変寝夢さんの作品群は、解図の前にルールの把握から入らないといけないので、無解もある程度やむを得ませんね。
ただ本局に関しては、たとえルールを把握できたとしても、ミスなく正解に辿り着くのは極めて困難だった模様です。以下は、この問題にチャレンジした果敢な挑戦者の苦闘の跡をご覧ください。

ＤＤ++さん（※誤解）
縦シリンダーで角を同じ段３筋おきの３点または同じ筋三段おきの３点におくと利きが綺麗な格子ができること、このどれかを夜王に変えると夜が動ける先は９筋以上遠くになること、その形だと最終夜位置から角の利きにある点は３マスごと以外全部セーフであるのでマキシで一段目へ行かないような角位置が非常に限られること、初手 57 角が失敗するので２手目は 79 角か 69 角しかないこと、あたりを順に証明していってようやく何とか。

☆ ＤＤ++さんは「19 角、79 夜、16 角、13 夜、14 歩 まで」の解答ですが、４手目 31 夜の方が距離が大きいため 13 夜はできません。なお、この解で４手目 21 夜の方が距離が大きく見えますが、そこには角が利いています。（ここは筆者も勘違いしていました。）

たくぼんさん（※誤解）
EXCEL 解図です。それにしても一般の人ならルールを聞いただけで逃げ出しそうだ。

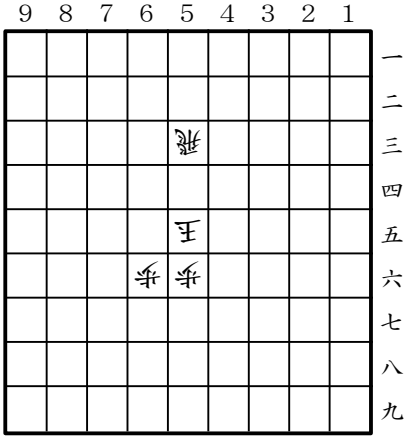
☆ たくぼんさんは「43 角 95 夜 73 角 13 玉 14 歩 迄 5 手」の解答ですが、４手目に問題あり。確かに経路に沿った距離は 95→13 が最長ですが、盤上の距離では 95→11 が最大になります。

會場健大さん（※誤解）
手をつけてみると意外と易しい。
ちゃんと調べたわけではないが、マキシは易しくするための追加だったり？

☆ 會場さんは「54 角、69 夜、58 角、51 夜、52 歩まで」の解答ですが、４手目 51 夜が変ですね。どこかで筋がずれたのでしょうか？マキシは非限定を消すための条件と考えるのが普通ですが、他にも目的があるかもしれません。作者のコメントを待ちましょう。

■ 61-4　上谷直希氏作（正解５名）

背面協力詰 7手



持駒 金 歩

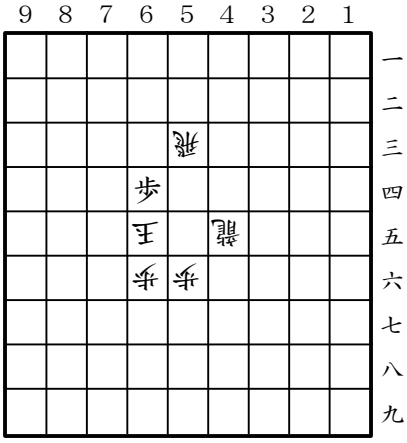
【ルール】

• 背面
敵駒と背中合わせになったとき、互いに利きが入れ替わる。

【解答】

46 金 47 飛 45 金 同飛成 44 歩 65 玉 64 歩 まで 7 手

（詰上り）



持駒 なし

【作者のコメント】

フェアリー版森田手筋風？

それ以外の配置はそのままに、忽然と現れた駒によって打歩を打開するのが狙いだというのはわかりやすいかと思います。
森田手筋ではないのですが、この作をつくろうと思いついたのが盤上のファンタジア 54 番であることを考えれば、作者としては森田手筋風と言いたくなりますね。
狙いを表現する場合、個人的には対面より背面の方が使い勝手がいいと感じています。
ただこの狙いならもっと配置を切り詰めても表現できたはず。意外にも効率のいい筋が見つかりませんでした。

先打動歩詰らしさとしての純度は低め。

【解説】

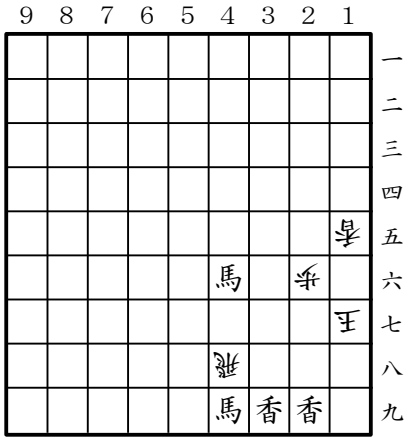
「先打動歩詰」に「歩を動かすための駒の発生」という一工夫を加えた作品。
将棋では「打歩詰」は禁止されていますが、「突歩詰」は禁止されていません。フェアリーになると、歩が前に進むとは限らないので、「突歩詰」は「動歩詰」に一般化されます。そのため「先打突歩詰」の構想も「先打動歩詰」に拡張されます。
本局では初手から「45 金 65 玉 64 歩」とすると打歩詰で失敗です。金を使い、４手掛けて龍を発生させるのが上手い手順で、歩を龍の背後に設置して打歩詰を動歩詰に変えます。
普通詰将棋では打歩詰に関する様々な手筋や構想が考案され、古今の作家が「打歩詰」という主題に対して様々なアプローチをした跡がうかがえますが、それに比べられる成果はフェ

アリーには見られません。新発明と言えば、せいぜい「動歩詰」か「完全打歩」くらいでしょうか。フェアリーにおいても、打歩の主題にもっと深く踏み込んだ作品が作られて良いと思います。

良い機会ですので、作者のコメントにあった「盤上のファンタジア 54 番」を紹介します。上谷氏はこれをフェアリーに翻案したわけではなく、あくまで駒の動きからイメージを膨らませたのだろうと思います。ここでは敢えて解答を省略しますので、未見の方はぜひ解図を試みてください。

〔参考図〕盤上のファンタジア 54 番
若島正氏作（将棋ジャーナル 1989 年 3 月）

詰将棋 21手



持駒 飛 歩

【短評】

変寝夢さん
突歩詰めの味が出ているかは微妙。

一乗谷酔象さん
わざわざ龍を作らせるとは意表を突かれました。

占魚亭さん
上手く出来ていますね。
背面協力詰の出題は珍しいような。

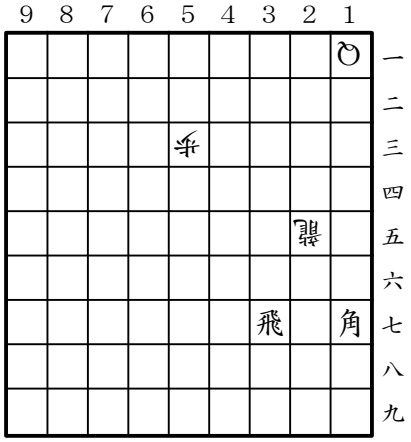
☆ 背面で表現できることは対面でも表現でき、逆もまたしかり。対面ルールの方が若干ポピュラーなので、どうしても背面ルールでの出題は減ってしまうのでしょう。
将棋の駒の性能は上下に非対称なものが多いので、背面と対面を比べると、実は背面の方が作りやすかったりします。

たくぼんさん
47 飛がめちゃめちゃ好手でした。

會場健大さん
4 手目成限定うまい。最初 4 手目 65 玉に 64 歩では？ と思ったけれど打歩詰なんですね。

■ 61-5　上谷直希氏作（正解３名）

クイーン王協力詰 7手



持駒 角
（※Q＝クイーン王）

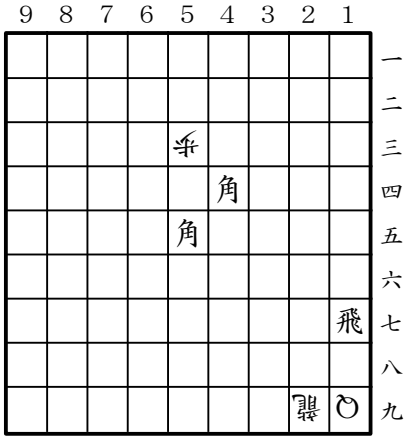
【ルール】

• クイーン王
玉がクイーン（飛と角を合わせた性能）の利きを持つ。

【解答】

55 角 44 金 同角右 19Q 29 金 同龍
17 飛 まで 7 手

（詰上り）



持駒 なし

【作者のコメント】

クイーン協力詰は小駒図式のほうが好みで

すが、たまには大駒を。
　大駒といえば両王手という単純な思考で、目標は決定。
　しかしクイーンに向かっての両王手は、詰め上がりで紐をつけるべき駒が少なくとも2枚必要になり非効率な攻め方になります。ですので創作時にも手順がある程度決められてきます。そうなると作者が決めるべきは手順構成というよりそれを成立させる構図の取り方になりますね。
　クイーン協力詰は駒を置けば置くほど余詰むルールですので、余詰防ぎは1枚が限度。ボツの構図はボツとすぐわかります。そうとなればあとは闇雲流です。

　こういう手順の作は初形から作り物らしさをどれだけ抜くことが勝負だと思いますが、果たして本図はどうなのでしょうか？

【解説】

　クイーンを「包囲」ではなく「両王手」で捕まえる作品。
　クイーンに両王手は通用しません、通常は。クイーンは利きが大きく、容易に逃走したり、逆に王手駒を取ってしまったりするのです。本局では 44 角が両王手を掛ける飛角の２枚を同時に支えており、例外的に両王手の詰みが成立しています。
　まずは紛れをチェックしてみましょう。初形に 25 龍が配置されているので、普通ならこれを壁として使う筋、例えば

　44 角　12Ｑ　32 飛生　23Ｑ　33 角成　21Ｑ　…

という手順が有力です。これに「31 馬」を加えれば詰みですが、持駒を裏向けに打つわけにはいきません。
　また、91 に飛ぶ紛れも有力ですが、53 歩が 17 角の活用を阻止しており上手くいきません。Ｑを捕まえるのには駒が３枚欲しいですね。
　作意の 99 に飛ぶ筋は成れる場所から飛び出す不利感と、25 龍を壁に使いたい心理に反する二重の不利感があります。合駒で得た金で龍を 29 に動かして、壁を作り直す手順も見えにくいでしょう。
　作意手順は両王手の詰上りを中心に、限定打・限定合などを交え、きちんとツボを押さえた作りになっています。特に、金合の取り方は面白いですね。王手した駒ではなく、別の駒で合駒を取り払うのは感触の良い手で、こういう手を入れると「筋の良さ」を解答者に感じさせることができます。
　これで 53 歩がなければ…というのは、誰しも考えると思いますが、これはやむを得ない配置でしょう。むしろ、これ１枚で多くの紛れを封じたのは、お見事です。

【短評】

<u>変寝夢</u>さん（※無解）
　まったく筋が思いつきませんでした。
　両王手の筋を作るときは詰め上がりの邪魔駒（２９竜）をどう持ってくるかで悩みそう。

<u>占魚亭</u>さん
　大駒３枚を連結。

<u>たくぼん</u>さん
　両王手を予測したので一目でした。
　よかったです。

<u>會場健大</u>さん
　これは難しかった…
　詰上がりの場所が初形からは見えないですね。

☆ たくぼんさんの「一目」は驚き。會場さんの「難しかった」が普通の感想でしょうね。

■ 61-6　時風瑞季氏作（正解６名）

量子詰将棋 3手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								∀	一
飼						龍			二
							桂		三
							Ꭰ		四
									五
									六
									七
									八
∀		B							九

持駒 なし
Ａ＝(玉、金)、Ｂ＝(龍、馬)

【ルール】

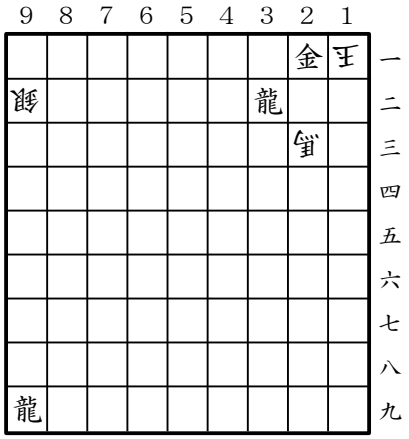
• **量子詰将棋**
　量子将棋の詰将棋。駒の種類に複数の可能性

があり、着手によって駒種が決まる。
→ルール詳細は「https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%88%A9%E7%94%A8%E8%80%85:Katsutoshi_Seki/Ryoshi」を参照。
例題は「http://seki.webmasters.gr.jp/shogi/tume/ryoshi-tsume.html」を参照のこと。

【解答】

99Ｂ（＝龍、24Ｂ＝馬、11Ａ＝玉、持駒＝金）
23 馬 21 金 まで 3 手

（詰上り）



持駒 なし

【作者のコメント】

本作の狙いは作意 99B(龍)と紛れ 11 桂成で後手玉が別の地点に出現するという点と、初手 99B(龍)を指した瞬間に受方 B が馬に確定し 21 金までの詰みが発生するという点です(仮に、受方 B が B(馬、龍)のままだった場合は、作意手順通りに進めて 3 手目の 21 金が B の利きにより打てなくなるという部分も含みにしています)。

【解説】

WFP 初登場となる量子将棋の詰将棋。まずは「玉探し」から始まります。

出題時も書きましたが、量子将棋では「王手」の概念に厳格な制限が掛かっています。玉と確定していない駒に取りを掛けても、それは王手とはみなされないのです。

従って、本局で初手 92 龍は王手になりません。11Ａと 99Ａの両方に取りが掛かっていますが、どちらが玉かは確定していないので、王手とみなさないのです。

となれば初手はどちらかのＡを取ることになりますが、正解は 99 のＡを取る手です。これで 11Ａが玉であること、79Ｂは龍であることが確定し、それに伴って元々99 にあったのが金であること、24Ｂが馬であることが確定します。これで量子状態の駒はすべて重ね合わせの状態から確定状態に移り（手順表記では確定した駒を括弧内に記述しました）、普通の詰将棋になります。残りの２手は簡単ですね。

また、本局は協力詰ではないので、受方は抵抗します。例えば初手に 11Ａの方を取れば、24Ｂ（＝馬）で 79Ｂを取って逃れます。工夫すれば受方の量子効果を使った妙防を主題にすることもできそうですね。新ルールということで解答減を心配しましたが、蓋を開けてみれば今回唯一の解答者全員正解で、担当の心配は杞憂に終わりました。

ただ、量子詰将棋はまだ世に出たばかりなので、ルール設定には検討の余地があると思います。例えば「打歩詰」や「二歩」などもＯＫというルール設定は「指し将棋用」なので、詰将棋でこれが必要かどうか疑問です。「透明駒」や「覆面詰」のようなルールとの棲み分けも考える必要があるでしょう。

なお、92 銀配置は最終手に 91 龍とする「最終手余詰」の防止です。普通詰将棋の延長として考えると確かにこの配置は必要ですが、フェアリー的には無駄合概念の方を排除した方がスッキリするという考え方もあります。量子詰将棋にも無駄合概念を取り入れるかどうか、これも検討の対象となりそうですね。

【短評】

<u>変寝夢</u>さん
正直、望月勘解由の亜流のイメージしか浮かびませんでした。
むしろツインで初手によって玉が入れ替わるタイプがいいのかな？
まぁ正解しているはありませんが。

<u>一乗谷酔象</u>さん
量子詰将棋と呼んでますが違和感がありますね。量子将棋の前に詰をつけた詰量子将棋の方が正しいのではないでしょうか。
量子将棋は詰みで終わりではなく、玉を取るまで指すので、詰『量子将棋』は将棋でいう必至問題のようなものと考えています。『詰み逃れの玉取り』なんて妙手の可能性もありますし。
現在の出題ルールでは、王手の概念が厳しく制限されているとのことですが、攻めが強すぎると感じます。私見ですが、玉方の受け手

順として「確定玉が相手の未確定の効きに入る逃れを主張できる」ルールの方が圧倒的に面白いと考えます。ルール設定上の問題で、設問毎に決めればよいのでしょうけど。
推理『量子将棋』も投稿しないと・・・。

☆ 量子詰将棋より詰量子将棋の方が良いという意見は同感です。「確定玉が相手の未確定の効きに入る逃れを主張できる」と似たコメントをＤＤ++さんがしているので、こういう方向でルールを設定するのも一案だと思います。

ＤＤ++さん
この量子駒配置なら「初手 11 桂成で受けなしに見えて実は２手目 84B という妙防が！」ができるとかっこいいですが、やっぱりそれで完全にするのは難しいんでしょうね。

☆ 王手放置っぽい手で「Ｂ≠龍」を強制するんですね。覆面駒や透明駒向きの構想という気もしますが、量子詰将棋で表現するとどうなるか試してみるのも良いでしょう。

占魚亭さん
最初、８八Ｂ（馬）だと思いましたが、この手もＡの駒種を確定していないため王手にならないのですね。

たくぼんさん
思いつく発想にびっくりする。これからどんな作品が出てくるか楽しみです。

會場健大さん
手が限られているので易しいが、いい例題のような。

■ 61-7　時風瑞季氏作（正解３名）

協力詰 3手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
		角				角			三
									四
		飛				飛			五
					桂	歩			六
				香					七
						王			八
									九

持駒 桂2
※透明駒 攻方0枚、受方7枚

【ルール】

• 透明駒
位置・種類が不明の駒。
着手の合法性、攻方王手義務を満たせる可能性があれば、それを満たしているものとして手順を進めることができる。
→透明駒の詳細及び例題は詰将棋パラダイス 2013 年 11 月号の「透明人間の逆襲」または「詰将棋における透明駒の説明」（http://tsumesyogi.blogspot.jp/2014/03/blog-post.html）を参照してください。

【解答】

58 桂 55 玉 47 桂 まで 3 手

（詰上り）

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
		角				角			三
			▽		▽				四
		飛	▽	王	▽	飛			五
				▽	桂	歩			六
				香	桂				七
				桂		王			八
									九

持駒 なし

（※受方の透明駒の内、場所が確定しているものを▽で表記）

【解説】

たった１手で５枚もの透明駒の位置を確定させる作品。
前局に続き、最初は玉探しから始まります。出題図の誤記と間違えてしまいそうですが、玉も透明なので、見えていないだけなのです。
透明玉の居場所を特定するのは割と簡単です。透明駒のルール設定により、攻方の着手が王手である可能性があれば、それは王手になります。初手 58 桂はこのルールを利用して、66 に玉が居ることを確定させる手です。「66 には 33 角が利いているのでは？」という疑問を持つ方もいるかもしれませんが、44 または 55 に透明駒があれば 33 角の利きは通らないので、辻褄は合っています。
玉の所在が判明したところで、これを 55 玉と移動させます。これは一番詰みやすいところ

に玉を移動させる手ですが、飛角香５枚の利きの真只中に突っ込むように見えるので、少し驚かされます。もちろん、受方が合法手を指したという仮定を満たすことは可能です。飛角香の55 への利きがすべて止まっていれば良いのです。そのため５枚の透明駒の配置が確定されます。駒の種類までは確定しませんが、透明駒の特定が目的ではない（あくまで受方玉を詰めるが目的です）ので支障はありません。

そして最終手 47 桂。これで受けはありません。飛は売り切れ。56 にある透明駒は香でピン留めされており、たとえこれが金や銀だったとしても動けません。

以上の手順でめでたく玉は詰み、透明駒も７枚のうち６枚まで位置が確定しました。でも、ちょっと待ってください。残り１枚の透明駒は、何のためにあるのでしょう？

答えは最終手の余詰防止です。最終手 67 桂の余詰を透明駒で防いでいるのですね。普通の駒で余詰を防いでも良いはずですが、透明駒を使えば見た目がスッキリします。洒落た透明駒の使用法だと思います。

【短評】

変寝夢さん（※誤解）

透明駒は指し手のどの部分まで情報を晒したり、確定するのかいまいち分からない。この解答もおかしいのかな？

（追加コメント）

５５玉であと４４、４５、６５、６４、５６に駒がある。この推理自体間違ってたら、熱が出そう。

☆ 変寝夢さんは最初「67 桂 同Ｘ左引成 47 桂まで３手」の解答。透明駒では元位置の情報を利用することはできないので、66 の駒が移動した可能性が残り、66 の脱出路を塞いでいません。後に追加で送られたコメントはいい線を行っていますが、最初から 55 玉ではなく、55 に行くのがポイントでした。

一乗谷酔象さん

なるほど、第７の透明駒は種類も場所も未定でも詰み。

ＤＤ++さん

棋譜の書き方がよくわからないのですが、初手で玉のありかがバレたので棋譜は 55 玉でいいんですかね？

それともこれは体面上透明として-X と表記すべきなのでしょうか？

☆ 一乗谷さんは-X で表記していましたが、初手で 66 玉が判明しているので、表記は普通に 55 玉で良いと思います。61-6 もそうですが、解けていることが分かれば、棋譜表記は特に何でも構いません。

たくぼんさん（※誤解）

ちょっと自信がない。透明駒は苦手だ。

☆ たくぼんさんは「67 桂 +67 47 桂 迄 3 手」の解答。この解は変寝夢さんの解答と同様、66 地点が埋まっている保証がありません。

會場健大さん

初手で玉が可視化。55 玉で後手の透明駒をさらに 5 枚固定。あとの 1 枚はなんでも関係ない場所から桂吊るしで幕。

大げさな配置の気もするが、3 手でこれだけ透明駒を処理しようという発想の自由さには学ぶところがある。

■ 61-8　橘圭伍氏作（正解４名）※余詰

推理将棋『無愛！？』

Ａ　「華麗に 9 手で負けたと聞いたけど何があったの？」

後手「唯一の不成の手に対して玉の手で応じたのが駄目だったよ。」

Ａ　「終局図の一部を見たけど 1 段目には駒が 9 枚綺麗に並んでたよね？それでも、負けたの？」

後手「先手は、駒を取った次の手でその駒を打つ手を 2 回指したんだ。で、2 回目の着手で良く見たら詰まされていたんだよ。」

Ａ　「愛がないから負けるんだね。」

さて、どんな将棋だったのでしょうか？

【ルール】

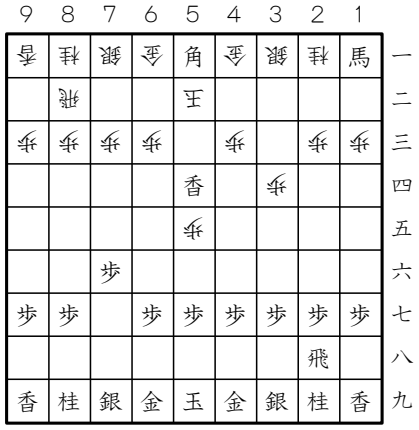
- **推理将棋**

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元する。

【解答】

76 歩 34 歩 22 角生 52 玉 51 角 54 歩
11 角成 55 歩 54 香 まで 9 手

（詰上り）



持駒 なし

【作者のコメント】

推理将棋基本系の一つ。作意で言う事はありません。推理将棋解図の基本である「条件を整理して手を絞る」の練習局として制作してます。練習局なのでかなり絞りやすいはずです。

紛れ等

先手の着手は 76 歩駒取り(歩以外)駒打ち駒取り(歩以外)駒打ちとなっている。よって、2 手目は 34 歩で 3 手目は 22 角生で 4 手目は玉移動となる。7 手目も先手は駒取りであるが取れる駒は銀桂香のみである。

①銀を取る場合、取った位置は 31 である。先手は 51 に駒打ちの必要があるがそれだと詰まない。
②桂を取る場合、後手は 33 桂と跳ねる事になり 21 角打が必須になり不詰
③香を取る場合、最終手は香でありこの形以外にない。

【解説】

「愛がないから負けるんだね」―

「合駒がない詰上り」は推理将棋では人気の主題です。通常の詰将棋では「無駄合だから省略する」ことはあっても、「本当に合駒がないから詰み」という作品にはなかなか出会えません。ですから合駒がない詰上りは新鮮で、故に推理将棋ではそのような詰上りも持つ作品が好んで作られます。

本局では合駒なしの詰上りを、一段目が駒で埋まっていたことと、駒を取った後にすぐその駒を打ったという２つの間接的な条件で実現しようとしたものです。そして、ほとんどすべての解答者は作者の意図通りの手順を解答したのですが……次の余詰がありました。

76 歩 34 歩 22 角生 52 玉 54 角 同歩
31 角成 51 角 53 銀 まで 9 手

この手順は変寝夢氏が自作ソフトで見つけたものです。修正は容易だと思いますが、作者は「修正はせずに、没としたいと思います」とのことでした。

この余詰順は割と基本的なものなので、作者を含め、すべての解答者がこれを見落としていたのはある意味驚きです。「愛がないから負けるんだね」――この言葉に誘導され、合駒の絡まない詰上りを忘れてしまったのかもしれません。

【短評】

変寝夢さん（※無解）

７６歩～２２角生～５２玉で５４角、同歩、３１角成、５１角、５３銀までみたいですが５手目から、５１角、５４歩、１１角成、５５歩、５４香までも成立していると思いますが。

推理ソフトでの発見です。自力でも頑張ったんですが、どうしても金を取る手に拘ってしまいました。解答は無解にして下さい。

一乗谷酔象さん

定番の型の一つ。わかっているけど 5 筋の歩を二つ突く手が指しにくい感触。

ＤＤ++さん

３手目までは必然として、次の 51 角さえ見えれば 11 へ自然と手が伸びますね。

タイトルもヒントになっていますし。

しかし検討する立場となると「76 歩、34 歩、22 角成、？、角打、？、角不成、玉、駒打ち」がかなり怖そう。

占魚亭さん

「愛がない」が最大のヒントでした。

たくぼんさん

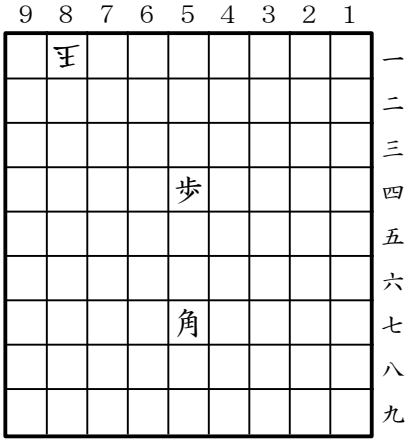
懐かしい手順。条件で生まれ変わる。

☆ 以上、人間の解答はすべて作意解。ソフトだ

けが双方解という結果でした。やはり人は愛（合）という言葉に弱いのでしょうか。

■ 61-9　橘圭伍氏作（正解４名）

キルケ協力自玉ステイルメイト 18手



持駒 香4

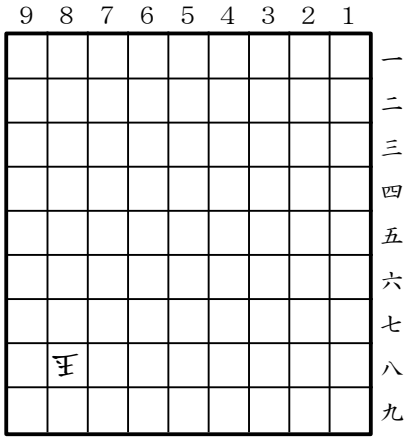
【ルール】

- **キルケ**
  駒取りがあったとき取られた駒が、最も近い将棋での指し始め位置に戻される。
- **協力自玉ステイルメイト**
  先後協力して最短手数で攻方をステイルメイトにする。
- **ステイルメイト**
  王手は掛かっていないが合法手のない状態。

【解答】

88香 72玉 77香 63玉 66香 54玉
55香 同玉/99香 46角 66玉 57角 77玉
68角 88玉 79角 99玉 88角 同玉 まで 18手

（最終形）



持駒 なし

【作者のコメント】

香の斜め連打から戻って詰み。一応往復も出来ますけど個人的にはブーメラン型の軌跡の方が面白いかなと思いました。

どういう形にしても5筋で駒を消去する意味付けがないと限定出来ませんでした。

完全に戯局なのでまぁ楽しんでもらえればという感じです。

てか、直ぐに他の方が作りそうですが……。

【解説】

香連打～香消去で玉が「＞」の軌跡を描く一幕物。解答者のコメントから生まれた作品です。

本局誕生のきっかけは **58-8** に対する変寝夢氏のコメントです。この作品は、香を消去する手順と香を残す手順の対比が主題だったのですが、変寝夢氏が香を斜めに連打して一往復する紛れについて述べたのです。

作者はこれを受けて、それをそのまま採用するのではなく、遠くから玉を呼び寄せる形で作意を設定しました。これなら香打ちが「短打」ではなく「遠打」になり、わざと消える位置に打つ限定打という側面が強調できます。４香が全部打った場所で消えるのではなく、１枚は復活後に再度消えるようにして、キルケの特徴を前面に出したのも良い所です。この香は５筋で取られて復活するので、右か左か、復活場所を考えさせる効果もあります。

本局はステイルメイトということで、駒を消す手順を優先して解けば易しいと思いますが、作意の手順が最短解になることは自明ではありません。99地点を埋め、合駒に香を取らせる紛れが強力だからです。従って 54 歩は省けません（省くと 14 手で早詰）。優しい表の顔（作意）の下には、怖い裏の顔（紛れ）も隠れているのです。

【短評】

<u>変寝夢</u>さん

コメントの張本人です。

コメントからということで何も考えず８２～５５香と決め打って苦労したことは内緒です。何故コメントをヒントに、と解釈できないんだろうと悲しくなります（笑）。

右辺で桂馬はどうかな？とつぶやいておくことにします。

☆この呟きを元にまた新たな作品が…生まれると良いですね。

一乗谷酔象さん
素直に全部消去すればいいんですね。
まず、終図でどの駒を残すべきかを考えてしましました。

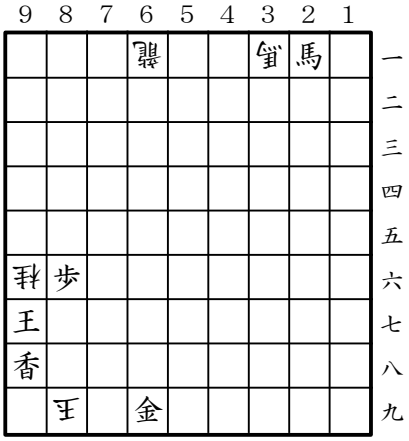
☆ このコメントに思わずニヤリ。
61-11 には、素直に全部消去しない一乗谷さんの作品が出てきます。

ＤＤ++さん
飛合を 82 へ送っておいて開き王手の 99 角から香４枚取らせて 97 玉 88 角同飛まで、だと思って追っていたら全然違いました。

たくぼんさん
逆オーロラ？軌跡が見事。

■ 61-10　橘圭伍氏作（正解３名）

キルケ協力自玉詰 52手

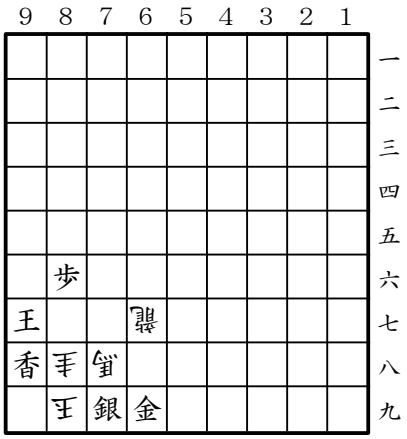


攻方持駒銀2
受方持駒なし

【解答】

79 金 99 玉 11 馬 22 馬 89 金 同玉/69 金
12 馬 23 馬 79 金 99 玉 22 馬 33 馬
89 金 同玉/69 金 23 馬 34 馬 79 金 99 玉
33 馬 44 馬 89 金 同玉/69 金 34 馬 45 馬
79 金 99 玉 44 馬 55 馬 89 金 同玉/69 金
45 馬 56 馬 79 金 99 玉 55 馬 66 馬
89 金 同玉/69 金 56 馬 67 馬 79 金 99 玉
66 馬 77 馬 88 銀 同桂成 89 金 同玉/69 金
67 馬 同龍 78 銀 同馬/79 銀 まで 52 手

（詰上り）



攻方持駒 なし
受方持駒 角 銀

【作者のコメント】

上田氏作をキルケ協力自玉で行った作品。
離れる選択肢はあるが離れると余分に合駒を稼ぐ事になり 2 手長くなります。
かしこと協力系統の差を感じて頂けると幸いです。

【解説】

WFP66 号「伝統ルールを改変する」第３番の上田吉一氏作をもとに作られた作品。
馬に馬をぶつけるような感触は同じですが、上田氏の作品では馬を取れないことを見越して「抵抗」の意味で馬の移動合をしていました。でも本局のルールは協力系です。どんな意味付けで双方馬鋸が成立しているのでしょう？
まず、馬合を挟まない原始馬鋸をやってみましょう。攻方の馬を自玉に近づけ作意と同様 67 馬に同龍と取らせても、96 が空いているので詰みません。つまり、96 地点の脱出防止のために受方の馬を自玉に近づけるのです。
次に攻方の馬についても考えます。67 馬に同龍と取らせるのが目的ですから、馬鋸をするのは自然に思えますが、馬鋸の代わりに 12 馬⇔22 馬の往復運動など適当に馬を動かしていても、作意と同様の効果を得られます。唯一違うのが、作意で「67 馬 同龍」のところで、後者の手順では「12 馬 67 銀 同馬/71 銀 同龍」に変わることです。攻方の馬が受方の馬と歩調を合わせず、適当に道草を食っていると２手損するわけですね。これが本局の双方馬鋸が成立する理由です。
また、趣向を成立させるための機構にも言及しておきましょう。上田氏の作品では馬鋸を継

続するためのエンジンとして「何度でも再生する飛」が使われていましたが、本局では「何度でも再生する金」に変わっています。これは 97 玉と連動して半開放系の密室を構成しており、シンプルながら応用範囲の広そうな機構です。双方馬鋸ではなく、馬鋸による成金の誘導という趣向にも利用できそうですね。

見掛けは同じ趣向でも、協力系と対抗系では意味付けに差が生じ、作り方次第で充分鑑賞に値するものになります。普通詰将棋ではもう新作とはみなされないあの手筋やあの趣向、フェアリーで生まれ変わらせてみませんか？

【短評】

変寝夢さん（※無解）
解を見ればシンプルな意味づけの馬鋸だが、それにしてもすごい収束だ。

一乗谷酔象さん
馬の陰に龍を呼び寄せる形がなかなか発見できなかった。

ＤＤ++さん
趣向を繰り返しながらなんで銀が２枚もいるのか不思議に思ったのですが、なるほど 88 角を復活させるわけに行かないということですか。

たくぼんさん
収束でちょっと悩む。本当に橘氏はキルケの良いところを引き出すのが上手い。

☆ 皆さん苦労された収束部。銀を渡して 78 馬 88 銀で詰める紛れがちらつきます。逆にこれを作意にできないか…そんなことを考えても面白いと思います。

■ 61-11　一乗谷酔象氏作（正解実質１名）

非王手連続ステイルメイト 23手 ※条件付

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	一
	飛						角		二
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	三
									四
									五
									六
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
	角						飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 なし

〔条件〕
・23手目は4回目の4筋の着手
・4連続で不成の手順あり
・4連続で成駒を動かす手順が3回

【ルール】

• 非王手
王手を掛けてはいけない。

• 連続ステイルメイト
片方の手番のみが連続して指し、ステイルメイトにする。
（今回出題の 61-11 では先手のみ指す）

【解答】

76 歩 44 角 53 角成 71 馬 81 馬 91 馬
82 馬 62 飛 93 馬 83 馬 73 馬 63 馬
22 飛成 45 角 23 角生 41 角生 52 角生 61 角生
33 龍 13 龍 11 龍 21 龍 43 角成 まで 23 手

（最終形）

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				玉		銀	龍		一
									二
			馬		馬				三
									四
									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

攻方持駒 金2 銀 桂2 香2 歩9
受方持駒 なし

【作者のコメント】

23 手解があることは知られていましたが、手順は公開されていませんでしたので、条件付けてみました。最終形の馬を玉に近づけるための 62 飛打の発見と 31 銀を残す形が解く鍵となるでしょう。

【解説】

実戦初形から先手だけ指して最短で後手をステイルメイトにせよという問題です。mixi で 23 手という手数は知られていたそうですが、驚くべき短手数ですね。

この短手数を達成するカギは、全部の駒を取らないことです。作意手順の最終形を見てください。31 銀を龍でピン留めすることにより、これを取らずに済ませています。玉以外の駒を全部取ろうとすれば、それだけで 19 手掛かってしまいますから、たった１枚の節約でも効果は大きいのです。

次に盲点になり易いのが 73 歩の取り方です。「王手を掛けてはいけないから 73 と 33 の歩は飛か龍で取るんだな」と早合点してはいけません。33 歩は確かに龍で取るのですが、73 は馬で取るのです。これを可能にするのが８手目 62 飛。73 馬の玉への利きを遮り、連続駒取りを滞りなく行うための巧妙なトリックです。

本局は推理将棋として出題することも視野に入っていたためか、「４」にこだわった条件付けがされています。単純合計で 20 手分が拘束されているわけですが、どれも割と緩い条件なので、それでも手は広いのです。以下は各条件について簡単にチェックしていきましょう。

まず「４回目の４筋の着手」。内２回は 41 金と 43 歩を取る手なので残りは２つ。これは「76 歩 44 角」で「96 歩 97 角」とする非限定を防ぐのと、14 手目 45 角を限定するためです。

次に「４連続で成駒を動かす手順が３回」。連続駒取りのことを考えると、「成駒」は馬または龍になります。

最後の「４連続で不成の手順あり」は分かりやすいですね。玉のそばの金を、王手を掛けずに取るためには、角不成とするのがほぼ必然なので、これは事実上「４連続で角不成あり」という条件になります。

本局は残念ながら解答者が少なく、正解者はＤＤ++さんお一人になってしまいました。非限定だらけになりがちな設問を、巧妙な条件設定で、一定の自由度を残しつつ、唯一解の作品にまとめ上げた作者の手腕が光ります。

【短評】

変寝夢さん（※無解）

割と縛りが多い気がしたが、それ以上になんと手の広いこと。

ＤＤ++さん

mixi 振り返るとどうもこれが 23 手で可能だというのを最初に見つけたのは私のようなのですが、鍵になる 62 飛を思い出せずに３日かかりました。

それにしても非限定めちゃくちゃ多いのによくこれだけ綺麗にまとめあげたものです。

たくぼんさん（※無解）

上手くいかない。44 角じゃないのかな？

☆ その 44 角が正解でした。盲点は、62 飛・31 銀残留のどちらだったのでしょう？

【総評】

変寝夢さん

６１－７が解けず残念でした。

結果稿が楽しみです。

ＤＤ++さん

上谷さんの２作がオアシスらしいですが、どうやら私はオアシスで溺れ死んだようです。というか前半がほぼ全滅……。

たくぼんさん

難易度はいつもより易しいようだが、ルールを理解する時間がかなりかかる。

一乗谷作を解くには心技体が充実していないと無理ですね。

會場健大さん

解けた分だけ初解答です。

☆ 皆さん大量出題と新ルールラッシュで苦労されているようですね。無理に全題を解こうとせず、解けた分だけの解答で良いので送ってください。そういう担当者自身も個々の作品に充分な時間を取ることができず、申し訳なく思っています。解説の至らぬ点は皆さんの鑑賞力で補ってください。

以上

Fairy of the Forest #39解答発表

■　2014 年 02 月 20 日：課題発表：（協力詰）
　　馬または桂馬が活躍する作品
■　2014 年 04 月 15 日：投稿締切
■　2014 年 04 月 20 日：出題
■　2014 年 05 月 15 日：解答締切
■　2014 年 05 月 20 日：結果発表

■　結果発表

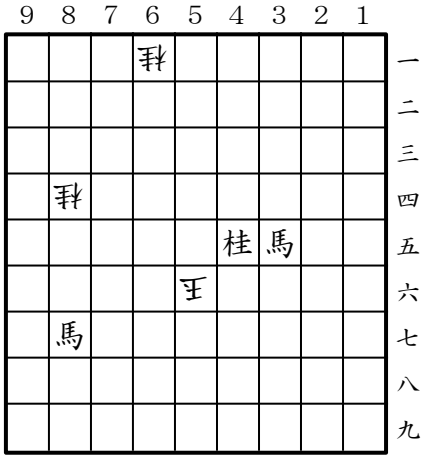
【今回の解答者】(敬称略、到着順)
(○は全題正解者)

○占魚亭、○神無七郎、○隅の老人Ｂ、
変寝夢、○たくぼん

☆たくぼん「(自作が) 客寄せになればいいのですが。」という願いもむなしく、解答者は増えませんでした……。

――――――――――――――――――――――

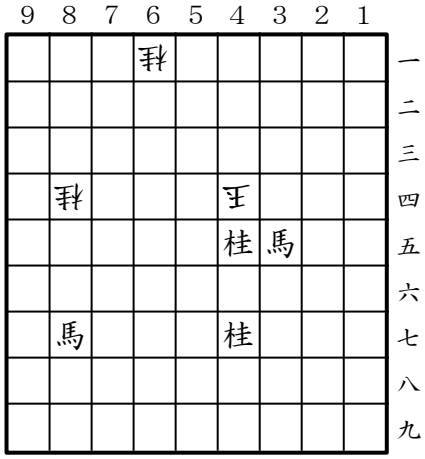
■ 39-01　たくぼん　協力詰５手



持駒 桂

57 馬　55 玉　47 桂　44 玉　35 馬
まで 5 手

（詰上り図）



持駒 なし

作者－とりあえず在庫からですが、課題にあっているかどうか？

☆こちらはともかく、次局の方は気になったのですが……。とりあえずセーフかな？

占魚亭－上に誘い出しスイッチバックで止めを刺す。うまい。

☆35 馬のスイッチバックが印象的。87 馬は睨みを利かせているだけでした。

隅の老人Ｂ－王方、２枚の桂の配置で妙に手強い。初手、桂打から考えて、たくぼんさんを喜ばす。

☆84 桂がないと、68 桂打から余詰みます。これも唯一解なので、ご研究乞う。

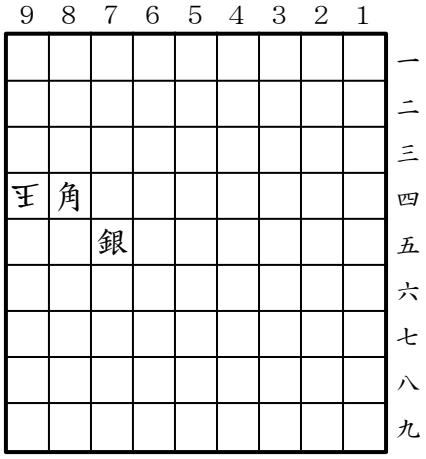
変寝夢－このタイプは得意分野なんで……。左辺の意味はわかりません。

☆拡散型、遠隔戦がお得意？　『撲滅作戦』がそうでしたかね？　61 桂は 78 馬以下 53 馬迄の余詰（駒余り）を、84 桂は上記 68 桂以下 66 馬迄の余詰を防止しています。

七郎－左側の馬と桂馬の配置で紛れ倍増。普通なら 76 角配置で 61 桂 84 桂の２枚は省きそうですが、課題に合わせたのでしょうか。

☆２枚省いた方が、作品的には良さそうですが……。

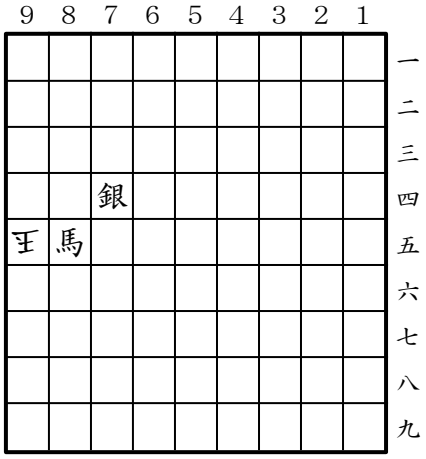
■ 39-02　たくぼん　協力詰７手



持駒 なし

93 角成 85 玉 74 銀 86 玉 75 馬 95 玉
85 馬 まで 7 手

（詰上り図）



持駒 なし

隅の老人Ｂ－初手はこれしかない。ここから、さて？　で、はい、詰みました。

七郎－一見して角を馬に変えたい構図。３手目馬を使う紛れさえ乗り越えれば大丈夫なので、易しい作。

☆３手目銀が急所なだけに、課題との関連が懸念されたのですが……。とりあえず、馬の王手が多いので大丈夫でしたか。

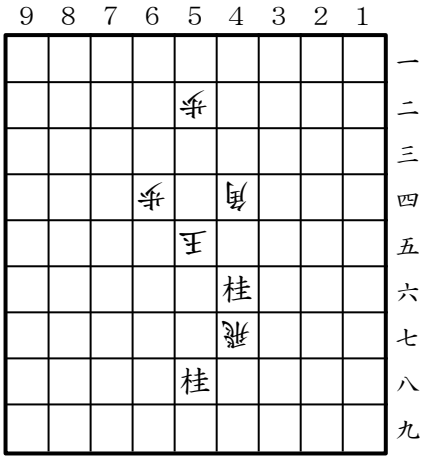
占魚亭－３手目がポイント。同一作がなかったとはビックリです。

☆少なくともフェアリーデータベースではヒットしませんでした。

変寝夢－このタイプは苦手なんで……。大分悩みました。

☆これは意外。収縮型、接近戦の方が一般的には読みやすいと思うのですが。

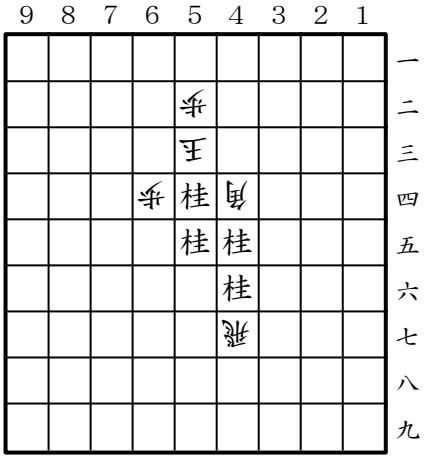
■ 39-03　時風瑞季　協力詰 11 手



持駒 桂2

67 桂 65 玉 57 桂 74 玉 66 桂 63 玉
55 桂 62 玉 54 桂左 53 玉 45 桂 まで 11 手

（詰上り図）



持駒 なし

作者－同じ素材でもう少し練れるかとも思いましたが、よく分かりませんでした。

☆課題に即応した４桂詰。綺麗にできていると思います。

占魚亭－桂馬、怒涛の追撃。

たくぼんーちょっと不思議な４桂詰。桂成を考えた私は負け組かな。

変寝夢ーそうか右桂を残すのか。詰め上がりが見えずかなり苦労しました。

☆意外と紛れがあったようですね。左右対称にに近い形ですが、44 が頭の丸い角なのは、最終手のヒントになったかも。

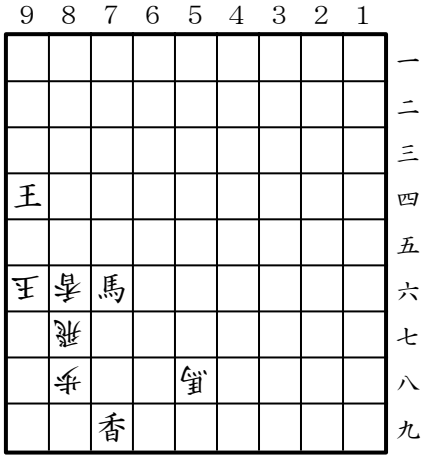
七郎－桂の乱舞の中、飛車の利きを遮断するため、46 桂が自重するのがミソ。最初にこの 46 桂を打つ展開にできれば最高ですが。

☆逆に言えば、飛車の働きが今一つのような気もします。９手目「左」を限定しているだけなので……。初手 47 桂を防いでいるとも言えますが。確かに 46 桂打が入ると最高ですね、最終手の伏線手になっていますから。何とか実現できないものでしょうか。

隅の老人Ｂ－４桂の宣告？　「竜の子」と命名したい詰上がり。

☆竜の落とし子？　なるほど。

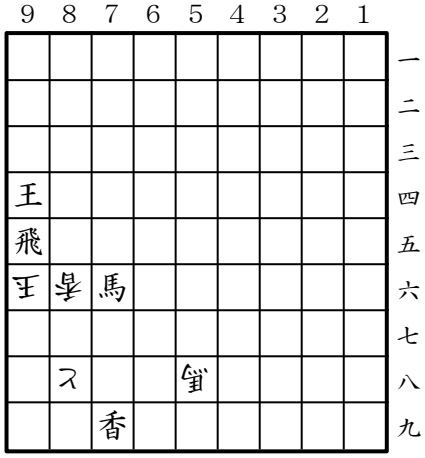
■ 39-04　神無七郎　協力詰 55 手



持駒 桂4歩10

97 歩 同玉 89 桂 同歩成 98 歩 96 玉
97 歩 同飛成 88 桂 同龍 85 馬 97 玉
98 歩 同玉 99 歩 同龍 76 馬 97 玉
98 歩 96 玉 85 馬 87 玉 88 歩 同と
76 馬 96 玉 97 歩 同玉 98 歩 同と
89 桂 96 玉 『97 歩 同と 85 馬 87 玉
88 歩 98 玉 76 馬 89 玉 67 馬 88 玉』
89 歩 87 玉 76 馬 96 玉 88 桂 同龍
85 馬 87 玉 88 歩 同と 76 馬 96 玉
95 飛 まで 55 手

（詰上り図）



持駒 なし

作者－88 歩の動きが真の主題ですが、一応馬と桂馬も活躍します。比較的簡素な配置でできたのが売りです。

変寝夢《無解》－飛車が頑張っているイメージがしました。創作開始局面はどこなのか不思議。

☆確かに飛車（龍）も頑張っていますね。構図や内容は、同じ作者の 38-02 に似通ったものを感じるのですが、出発点はその辺でしょうか？

占魚亭－入れ替えパズル的な手順で、歩も活躍。歩（と金）を初形位置に戻すのは流石です。

☆まず、88 歩を成らせ、次いで 87 飛を成らせます。98 歩～97 歩で成らせるのは、うっかりしやすい所。以下は、と金と龍を巧妙に入れ替えながら、詰上り形まで持っていきます。注意しなければならないのは、76 馬が 58 馬によってピンされていることです。これにより、攻方馬の動きは 85、76、67 の３か所に制限されています。さて、と金と龍の動きに注目してください。龍の移動が先で、97→88→99 と動かします。それから「と」を 89→88→98→97 と移動させます。途中、21 手目 88 桂とか、29 手目 89 桂とか、桂打の誘惑があるのですが、それでは手が続かなくなってしまいます。結局 31 手目に 89 桂と打つことになるのですが、そこか

らの手順が巧妙極まりない。本作の収束は、99龍を 88 に呼んで 89 歩で取るのですが、89 歩打を桂馬が邪魔しています。そこで、89 桂を消去するために、『　』内の手順を経なければならないのです。98「と」を 97 に移動させたのは、その順に備えて 98 地点を開ける意味があったのです。最後は「と」を 88 に戻し、取った飛を打って、見事に詰み上がります。あ、玉も元に戻っていますね。還元玉です！

隅の老人Ｂ－巧妙、じつに都合よく駒を動かしますね。敵馬の影に怯えての一局でした。

たくぼん－何度逆王手で撃沈したことか(笑)。89 桂消去も見事だが少ない使用駒で成立させているのがすごい。

☆このコンパクトな形で豊富な内容。完成度の高い秀作です。

【総評】

占魚亭－今回は作品を投稿できるかもと思っていましたが結局完成せず、いつも通り解答のみの参加です。

☆作品の方も期待しています。

七郎－今回は長編が自作のみということで、解答は楽でした。その分ちょっと物足りないですが、余った時間はＷＦＰ作品展関連の原稿作成に回しましょう。

☆　創作に解説に大忙しですね。お疲れ様です。

隅の老人Ｂ－５月の連休のある日、４題の解図に取り組む。３題は簡単に攻略できたが、39-4 で苦戦。まあ良いやで、これは翌日送り。そんなこんなで連休も終わり？　いいえ、暇な爺さん、今日も休日。

☆いつもご解答いただき、ありがとうございます。04 はさすがに難物でしたね。

変寝夢－なかなか全作正解というわけにはいきませんね。

☆04 のみ無解。残念でした。

たくぼん－とりは七郎さんで定着ですね。質の高い内容で満足感大で終われます。

☆担当者としてありがたい存在です。ずっと高品質を維持されているのに感心。

Fairy of the Forest #39課題発表

■　2014 年 05 月 20 日：課題発表：（協力詰）
　　飛または香が活躍する作品
□　2014 年 07 月 15 日：投稿締切
□　2014 年 07 月 20 日：出題
□　2014 年 08 月 15 日：解答締切
□　2014 年 08 月 20 日：結果発表

■　課題発表

何ともう 40 回になるんですね。年４回ですから足掛け 10 年、細々とはいえ、よく続けてきたと思います。これも神無一族を初めとする皆さんのおかげです。

神無一族と言えば『氾濫』が 40 回目を迎えるとか。回数だけは並んだわけですね。課題の方はそちらと重ならないようにと考えましたが、難しい。「40 にちなむ」作品とはできないんですねえ……。

40 と言えば「不惑」、迷わない→真っ直ぐと連想して、香が浮かびました。ただ香だけだと不安なので、前回と同様の体裁で「飛または香が活躍する」作品とします。

多くの方々のご投稿をお待ちしています。

（投稿先）
→酒井博久（sakai8kyuu@hotmail.com）

推理将棋第７６回出題解説

担当：DD++

出題：　　平成 26 年 3 月 23 日
解答締切：　平成 26 年 4 月 20 日

今回は初級の難易度を完全に読み間違えました。利きの把握が苦手な私でも３分かからなかったので皆さんすんなりだろうと思ったのですが、意外とそうでもなかったようで無解者続出。上級もまた非常に難しいものでしたが、中級１問だけでも解答してくださった方が多数いらっしゃり、なんとか救われました。初級をもっと露骨にヒントを出すべきでしたね。

７６-１　初級　橘圭伍さん作
隅角！？　　９手

A「51 に居た玉に王手を掛けた将棋はその後どうなったの？」
後手「２度目の王手の９手目で詰まされた。けど楽しかったよ」
A「何か、面白い事があったの？」
後手「自身の利き以外の利きがない地点への着手が６回もあったんだ」
A「それは珍しいね。でも、それだけだと分からないよ」
後手「相手が１段目に着手した直後、自分は１段目に着手したのが敗着だったんだ」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

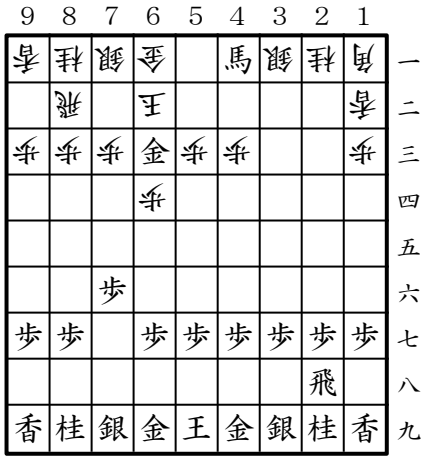
（条件）
・２度目の王手の９手目で詰んだ
・51 に居た玉に王手を掛けた
・自身の利き以外の利きがない地点への着手が６回あった（※）
・先手が１段目に着手した直後、後手は１段目に着手した
※ 利きの有無は着手前の利きで数えるものとします。例えば初手▲26 歩としたら、指す前には飛の直接の利きは歩自身が遮っているので、「自身の利き以外の利きがない地点への着手」に該当します。(作意順にはこのような判断に迷う手はありませんが、念のため)

出題のことば（担当　DD++）
　どこかに既に大ヒントがあるようです。

追加ヒント
　他の駒の利きに着手するのは▲33 角成△62 玉と最終手。２手目８手目はタイトルと練習問題解説がヒント。

推理将棋７６-１　解答
▲７六歩　▽１二香　▲３三角成　▽６二玉
▲２三馬　▽６四歩　▲４一馬　▽１一角
▲６三金　まで９手。

詰上り図



持駒 歩2

他の駒の利きがない地点への着手が６回。全部で９手ですから他の駒と共通の利きへの着手は３回だけ。ところが二段目は後手駒の利きが集中しており一段目も玉金に横利きがあるので、玉周りにまともに着手できません。にもかかわらず王手は２回。だとすれば、この３回の使い方はほぼ「１回目の王手」「その対処」「最終手」に限られます。
三段目の壁をさっさと突破したいので「▲76 歩△何か▲33 角成」で 51 玉への王手もクリアする方針がよさそうですね。ここからもう１枚攻め駒を入手しようと思うと、42 合では苦しいので「△52 玉か 62 玉」と続きます。取る駒は条件から浮き駒でなければいけませんので、△62 玉前提で 41 の金を狙いましょう。33 馬がこれを取りに行く経路は 23 経由、32 経由、42 経由、51 経由と４つありますが、他の駒の利きがない 23 を選びます。
あとはこれを玉頭に打てば詰むので「▲76 歩△何か▲33 角成△62 玉▲23 馬△何か▲41 馬△何か▲63 金まで（どこかで△64 歩)」と予想できます。さて、後手の手が余っていますが、まだ後手側の一段目着手が出ていません。

ということで一段目を見ましょう。51 が空いてはいますが、馬玉金の利きが強すぎて条件を満たすなど不可能。ですが余りは２手あるのがポイントで、「飛車の利きが届かない 12 に香を進め、空いた 11 に角を引く」と隅でこっそり条件手順を進めることが可能です。一段目着手の順から８手目が△11 角、12 香は 23 に馬がいるタイミングでは指せないので２手目△12 香、残った６手目が△64 歩、となります。

この問題、「自身の利き以外の利きがない」という表現が回りくどかったせいか、「自身というのは指し手のことではなく駒のことを指しているのか」という旨の質問をいただきました。「他の駒の利きがない」とするなど、よりわかりやすい表現があったかもしれませんね。

それではみなさんの短評をどうぞ。

はなさかしろう 「これは...難しかった。利きなし６回の手順はいくつかあるものの、１段目条件が満たせない。そこで「隅角」ですが、△72 金～61 玉を誤答しそうになり、最後まで気が抜けませんでした。」

■12 香 11 角は単に無駄手消化かと思わせてこの 61 玉を封じる手段だったりもします。

Pontamon 「まいりました。△12 香、△11 角はあり得ると思ったけど、そうするために▲55 角で小休止して▲33 角の王手と▲11 角での角取りで６回条件のうち５回達成。でも残る一手では何もできず、かと言って▲73 角での王手でも先が続かないし....。推理将棋では 33 角は不成と思いこんでいたのが失敗の原因でした。大サービスの締め切り前ヒントでようやく解けました。」

■なるほど、△11 角▲同角ですか。それをメインに面白い作品ができそうなやりとりですね。

飯山修「後手の１段目の着手は敗着というより１手詰ウッカリという感じ。度々使われるツッコミですが、真の敗着は 33 角成を取らなかった事ですよと初心者には教えましょうね。」

■敗着とまではいかなくとも、12 香もなかなかの失着。

斧間徳子 「「隅角」の２文字がなかったら、相当の難問だったと思う。条件がやや煩雑なのが惜しいが、この手順ではしようがないか。」

■「隅角」の文字があってなお難問だったようです。

EOG 「タイトルで玉方の２手がわかる。」

■と見せかけて 99 角不成からの一段目香打ち、を疑ってみた捻くれ担当。

小山邦明 「23 馬がなかなか気付きにくい手でした。」

■確かに、金を取りに行くのに忘れがちな経路。

NAO 「先手５手+後手２手の基本手順でありながら、１段目着手が妙に見えにくいです「隅」が大きなヒントになりました。」

■41 や 61 が実はガードが薄いことを知らないと見えにくいかも。

波多野賢太郎 「タイトルの「隅角」ってのは何だろうと思いましたが、そういうことだったんですね。「自身の利き以外の利きがないところへの着手」という条件が私にとっては目新しくて面白かったです。」

■それが橘さんの作風ですね。タイトルの意味まで含めて１つの問題。

S.Kimura 「自身以外の利きがない地点への着手が３回しかできないので，最後は飛び道具で玉から離れて詰ませると思い込んだのがいけませんでした.」

■飛び遠具と合わせて吊るし桂は私もかなり警戒していた筋でした。

占魚亭「一段目の着手を１筋の着手と勘違い。」

■ありがちです。

あきら「駒のききがない条件がおもしろくしてますね」

■露骨に攻めにくくなるので、工夫次第でいろいろ面白い順が発掘できそうな条件です。

諏訪冬葉「「他の駒の利きがあるマスへの着手」が最初の王手・それに対する手・最終手だけなので「後手の１段目の手は 11 角」からすんなり決まりました。」

■実際は離し王手とか 72 金からの 61 玉逃げなど例外はあるものの、それを信じて進むと速いですね。

変寝夢 「３手目 33 角成、４手目 62 玉、７手目１段目、８手目１段目、で沢山詰を出して分析、32 馬と後手金銀の着手を禁止、更に詰を出して分析、５手目を２３馬に設定して６解を検出。その中で利き６回の条件をみたしている１つを発見した。利き６回の条件で手順前後を上手く消している。作者名で、２手目を予想する強者がいるかな？。」

■そういう探し方の場合、９手詰全 657904 解の DB を作っておいて抽出した方が速いのでは。使い回しもできますし。

はらたっと「後手は自陣で効きがないところが少ないのでわかりました。」

■23 に利きがないことに気づくと楽ですね。

チャンプ 「一番のヒントは題名でしたか(笑)」

■橘さんの作品はそういうのが多いですね。

正解：１５名

あきらさん　EOG さん　飯山修さん　S.Kimura さん　斧間徳子さん　小山邦明さん　諏訪冬葉さん　占魚亭さん　チャンプさん　ＮＡＯさん　波多野賢太郎さん　はなさかしろうさん　はらたっとさん　変寝夢さん　Pontamon さん

７６-２　中級　チャンプさん作

手掛かりは先手の着手のみ　13 手

少年Ａ「君が５手目に香を取ってた将棋、その後どうなったか教えてよ。」

少年Ｂ「どうなったと言われても 13 手で詰ませて勝っただけだよ。」

少年Ａ「それだけでは何も分からないよ。」

少年Ｂ「９手目に使った歩を、後に空成りしたのが唯一の駒成さ。」

少年Ａ「手掛かりはそれだけか・・・。」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

（条件）

・13 手で詰んだ

・５手目に香を取った

・９手目に（持駒から）使った歩を、その後に空成りしたのが唯一の駒成

出題のことば（担当　DD++）
　前半は詰みよりもまず指定着手クリアを目指してください。
追加ヒント
　歩を取るのは香取りの前。打つのはどちらも６筋です。

推理将棋７６-２　解答
▲７六歩　▽４二銀　▲３三角不成　▽３一角　▲１一角不成　▽２二角　▲６六歩　▽同　角　▲６二歩　▽６四歩　▲６三香　▽５二金右　▲６一歩成　まで 13 手。

詰上り図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	九
							飛		八
歩	歩			歩	歩	歩	歩	歩	七
		歩	角						六
									五
			歩						四
歩	歩	歩	香	歩	歩		歩	歩	三
	飛			金	銀				二
香	桂	銀	と	王	金		桂	角	一

持駒 なし

この問題、13 手と見ると長そうに見えますが、ほぼ５手＋４手＋４手に分割して解くことができるので、案外簡単です。

まず、５手目に香を取る。これがけっこう大変です。全部で４パターンあり、多いのは▲76 歩△74 歩▲55 角△飛をどかす▲91 角不成という順ですが、今回はこれは失敗。というのは、ここから△64 歩▲同角不成と歩を入手しても９手目に歩を打ったら二歩。もう１つよくあるのは▲76 歩△34 歩▲22 角不成△何か▲11 角不成。しかしこれも同じように９手目歩打ちはどうやっても二歩。そして珍しい方の順２つですが、その片方▲76 歩△94 歩▲66 角△93 香▲同角不成もやっぱり９手目が二歩。

というわけで正解は「▲76 歩△42 銀▲33 角不成△31 角▲11 角不成」から始まる順。この順のメリットは３手目に既に歩をとっているので、先手が歩を取らせるために１手使えること。後手角が奥まったところに移動してしまっていますが、ここから「△22 角」とスイッチバックして「▲66 歩△同角」で間に合います。

これで９手目に６筋限定で歩を打てるのですが、▲64 歩では空成になりそうにないので金逃げを期待して「▲62 歩」と打ち、紐をつけるために「△64 歩▲63 香」と続き、予定通り「△52 金右」金を逃げつつと逃げ道を塞ぎ「▲61 歩成」で詰み。

13 手なのでさすがに中級としましたが、簡単に解けてしかも手順に面白みと意外性があるという、気持ちよく解かせる作品として理想的な逸品だったのではないかと思います。

それではみなさんの短評をどうぞ。

チャンプ（作者）「これ、いつ投稿した作品でしたかね?(笑) 忘れた頃に採用されると戸惑いますね。今更ながら条件はもっと練るべきだったように思います。」

■投稿はかなり前ですね。チャンプさんの上級が続いていたので採用の機会を逸したままになっていた作品です。条件が考慮不足とは私は思いませんけどね。

はなさかしろう「５手目香取りは概ね４通り…の４つめが見えず、△74 歩～72 飛に引っかかってしまいました。すり抜けの連続からいきなり匕首を突きつける▲62 歩、手数を感じさせない面白い順でした。」

■４つのうち 93 香と 31 角の２つは作るのもまた難しい。

しまぎろう「どこかの筋の歩を消さないと歩を打てないのは分かりましたが、自ら飛び込むとは！びっくりです！」

■66 角同歩で角を渡す順はけっこうあるのですが、逆は非常に珍しいですね。

Pontamon 「シンプルにまとめられた条件なので一見難しそうだけど、逆に条件がタイト過ぎて変化がないので一本道の推理でした。(初級で難航していたので、気分転換に中級を見てみたら即解けたので逆に驚いています。)」

■詰将棋よりも相性の影響が強いので、初級と中級どころか初級と上級でも同じ現象がしばしば。そして担当は難易度付けに頭を痛めるのです。

飯山修「この解は締切前ヒントが出る前に解けたので５手目香取の方法か６筋の歩打ちのどちらが使われるかを楽しみにしていました。多分６筋のほうが正解増加につながっていると思います。」

■なるほど、ヒントにそんな楽しみ方が！　そして「作問において何を明かせば簡単になって何を伏せれば難しくなるか」を見分けるいい練習になるかもしれませんね。

斧間徳子 「少ない条件は好印象だが、「９手目に（持ち駒から）使った歩」などとせず、素直に「９手目に打った歩」とすべきだと思う。」

■何か意図があるのかなと考え、特に指摘せずそのまま出題しました。何の意図だったんだろう。

EOG 「ヒモ付きでも空成りというのか。」

■ええ、駒を取らなければいいわけなので。

小山邦明「歩を打てそうな場所を６筋と予想したのが良かったです。」

■普通は４筋が一番打ちやすいんですよね。▲76 歩△44 歩▲同角△42 飛▲53 角△47 飛で。よく６筋と見破りました。

NAO 「ヒントの「両方」に一瞬アレッと思いました。香を打つとは想定外でしたので。」

■そういう方もいらっしゃるかと思ってヒント投下直前に「歩打ちは」から書き換えました。よかったよかった。

波多野賢太郎「５手目に香を取るということで、もしかして９一の香を取るのかと思いましたが、考え過ぎでした。今回の３問の中では一番解きやすかったです。」

■本当に考え過ぎなのは香が動くかもと 93 で取る順を追った人かと思います。

S.Kimura 「手がかなり限定されていたため，今回で唯一，ヒントなしで解けました.」

■途中にチェックポイントがあると断然解きやすくなります。

占魚亭「後手に歩を取らせやすい筋はどこか？と考え、歩を打つ筋を確定。」

■香取りがなければ打ちやすいのは４筋、ついで３筋ですが、本問では事情がガラリと変わっています。

隅の老人Ｂ 「31 角から 22 角が上手い手、解けて良かった、嬉しいな。」

■この不思議な手を直接言及なしに実現させているのがまた印象的。

ジェシー「たったこれだけの条件で限定できるんですね。王手の事前防止に貢献しながら最後は退路塞ぎの邪魔者になっている４二銀があまりにも格好良い。」

■攻方の一石二鳥は数あれど、玉方の一石二鳥は希少。

諏訪冬葉 「最初 22 角を残すために「▲76 歩△42 飛▲55 角△74 歩▲91 角△34 歩(以下同じ)」という順で解けたと思ったら歩がなかった。まさかスイッチバックとは。」

■歩を打つのは推理将棋ではけっこう大がかりな仕事なんですよね。

変寝夢 「３手目歩取り、５手目香取り、９手目は 62，63，64 いずれかの歩打ち、10 手目は取らない、11 手目以降 13 手目までに空成１回、12 手目までは成らない、とここまでつけて、30 分 1200 万局面でした。62 歩を実現するために、先後とも協力しているのが面白いですね。」

■３手目歩取りを入れた場合純粋に５手＋４手＋４手になるのに、なぜそんな膨大な局面数に。持ち駒に香があるだけで４手詰がそこまで大変になるものですかね？

はらたっと「42 銀 31 角が見えるまでは苦労しました。」

■推理将棋だと 22 角を 13 や 31 に逃げる手は普通出てこない手ですからね。

正解：１８名

EOG さん　飯山修さん　S.Kimura さん　斧間徳子さん　小山邦明さん　ジェシーさん　しまぎろうさん　隅の老人Ｂさん　諏訪冬葉さん　占魚亭さん　チャンプさん　時風瑞季さん　ＮＡＯさん　波多野賢太郎さん　はなさかしろうさん　はらたっとさん　変寝夢さん　Pontamon さん

７６-３　上級　はなさかしろうさん作
相乗効果　　13 手

「13 手で詰んだって」
「金右と指したら、相手は２筋の手で応じたよ」
「55 への着手で駒柱が完成したね」
「成る手はなかったな」
「それにしても、13 とか金とか、駒柱とかっ

て…」
「マイナス掛けるマイナスはプラスってことで、どうかな？」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

（条件）

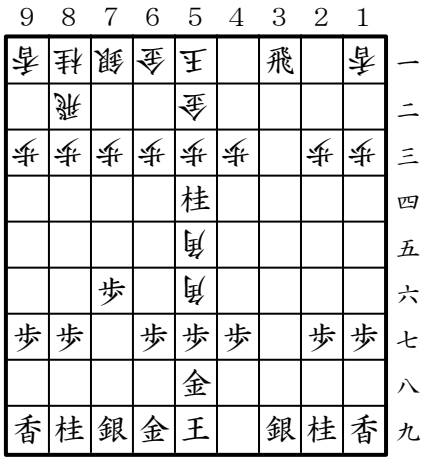
・13 手で詰んだ
・金右の手に対して２筋の手で応じた
・55 への着手で駒柱ができた
・成る手なし

出題のことば（担当　DD++）
　中級と同じ 13 手でもこちらは非常に難しいです。じっくりどうぞ。
追加ヒント
　３筋の手が６回もあり、その中に３種類の駒の不成が登場します。詰みは飛による合い効かず。

推理将棋７６-３　解答

▲７六歩　▽５二金左　▲３三角不成▽同　桂
▲５八金右　▽２五桂　▲３八飛▽３七桂不成
▲同　飛　▽５六角　▲５四桂　▽５五角
▲３一飛不成　まで 13 手。

詰上り図



５筋の駒柱を作って成なしの 13 手で詰み。これだけだと実はかなりの順があります。しかしその中で２筋の手が入るのは手順前後を除いておそらく１つしかありません。順に考えてみましょう。

まず、５筋の駒柱を作りづらい理由は、54 地点と 56 地点の存在。ここを埋めるにはわざわざどこかの駒を取って打つか、歩をついてさらに２手で 53 や 57 を埋め直すか。いずれにせよかなり手間がかかります。加えて詰みを目指すとなれば困難がもう１つあり、後手陣内の５筋が後手駒だらけになるので非常に詰ませにくいこと。その条件でも詰みやすい形は大きく２通りで、△52 玉△51 金左としておいて駒柱完成から▲53 金または銀と歩を取って詰み、もしくは居玉のまま△52 金としておいて飛金の横利きで詰み。

手数としては前者の方が少なくて済みます。玉金の形を作るのに２手、先手が 33 歩をかじり銀を取って 54 に打つのに５手、後手が 99 香を取ってから 55 角と 56 香で３手、58 を埋める１手と 11 手で駒柱ができ、トドメの 53 銀不成で 12 手。ところが金を動かしたせいで 31 の角が成らなければ詰みになりません。31 角不成で 71 の銀を 51 まで持ってくると今度は余り手が消えてしまい、２筋の手を指せるようには見えません。

一方後者。△54 歩から飛銀を取るのに５手、55 角と 56 香で４手、52 金右と 58 を埋める手で２手、53 銀と 71 飛を打つのに２手。または、△54 歩から飛銀を取って▲53 角に７手、55 角で２手、52 金右と 58 を埋める手で２手、56 銀と 71 飛を打つのに２手。いずれにせよ 13 手で２筋の手を指せるようには見えません。

ここでこの問題特有の事情に気がつけるかどうかが運命の分かれ目。通常攻め込んだ先手角を取らせるのはデメリットだらけですが、この問題ではさにあらず。角捨ては 54 や 56 を埋めるのに使ってもらえるので、実はあまりデメリットにならないのです。加えて困難な２筋条件。これらを踏まえると▲33 角△同桂から△25 桂、そして△37 桂という手順が浮かび上がります。

たった 13 手なのにそんなことをしていていいのか？　ということで手数を数えてみましょう。33 角不成で２手、桂跳ね３手、52 と 58 を塞いで２手、55 角で１手、56 に角を打って１手で残り４手。飛車は奪うのではなく自飛車を 31 へ出動させて３手、そしてその途中で取る駒が

桂であることが本手順最大の鍵で、これを 54 へ打つ 1 手が都合よく 42 と 62 を塞いでくれるのです。あとは条件通り並べ替えて手順完成。

普通は駒柱を作る順は無駄手になりやすい中、54 桂（逃げ場封じ）、55 角（31 への利きを外す）、56 角（合駒を消す）と自由度の高い有効手で駒柱を作っていくのが本手順を 13 手で成立させる要因となっています。駒柱と詰みを独立に考えていた方はこの手順にはなかなか気が付かれなかったのではないかと思います。

それではみなさんの短評をどうぞ。

はなさかしろう（作者）「出題コメントにも書いていただいたとおり、「5 筋駒柱からの詰み」の最短手数を探索していて、13 手で最初に見つけた手順がこれ。ところが、、検討中に別の順や 12 手の順にも行き当たりまして、そちらが先ならこの順には気付かなかったのではないかと。。筋悪から生まれた魔の難問…ではなく、△25 桂の決め打ちからさらっと解いていただければ幸せます。」

■いろいろ見つけたなかでキワモノを選んだのかと思っていたのですが、まさかの最初ですか。ところで 12 手って実質ではなくちゃんと指して 12 手でいける順あるんでしょうか？

Pontamon 「12 手で同じ駒柱を完成しても、33 で桂を早く入手すると詰みがずっと遅くなるという不思議。74-1 解説を受けての作品ということで、「駒柱」には何か縁を感じますね。今回も脱線して「最終手で駒柱が完成して飛による合い効かずの詰み」の筋を考えていました。」

■５筋駒柱完成と同時に飛車の合い効かず、15 手あればとりあえずできますね。14 手はどうかな？

飯山修「相当難しそうなので締切前ヒントを待っていました。３筋６手は物凄いヒントで２、３、５以外はたった１手。初手 76 歩でないと到底到達しそうもないので決定。３種目の不成は桂以外考えられないので２筋は桂となり解に到達。このヒントでなければ解けませんでした。助かりました。」

■桂はダイレクトに書いてしまうと面白みがないのでヒント作りが難しかったです。

斧間徳子 「76 歩、52 玉、33 角生、51 金左、同角生、99 角生、58 金右、22 銀、として最後が 42 金打ちとばかり思って苦戦した。4 手目の 33 同桂が非常に思いつきにくい手でした。」

■なるほど 22 銀からの 42 金！　これは私の検討から完全に漏れてました。あぶないあぶない。

EOG 「21 桂を 54 に使う発想がすごい。」

■その前に桂を渡すのに３回も跳ねる発想も普通じゃありません。

小山邦明「５筋にどんどん駒柱を作っていくまでの手順がすばらしい。」

■５筋にかける手数が最少の５手なのがまたすばらしい。

NAO 「ヒント無くては、まず解けそうもない難問。条件から 11 手目に駒柱完成を目指したが、13 手目の詰みに結び付く形に全く届かず途方に暮れました。後手が５筋と関係ない桂に３手も費やすとは驚きました。」

■角捨てと 54 桂にそれだけのメリットがあるんですよね。それが見えないと桂を疑ってもすぐ切り捨ててしまいそう。

波多野賢太郎 「これは本当に難しかったです。これだけの条件でここまで指し手が決まり、５筋の駒柱完成というのがすごいなと思いました。」

■５筋駒柱で２筋というのが非常によく利いています。本当によく作ったもの。

S.Kimura「詰みの形が見えず, 難儀しました. 後手の角の着手は一見すると無駄に見えますが, これらをしていないと詰まないのですね.」

■実はそうなのです。無駄手は 58 金右だけ。

占魚亭 「ギブアップします。31 飛不成までだと思うのですが……。」

■37 桂不成をもう少しヒントで出すべきでしたかね

ジェシー 「時間切れです。詰め上がりの見当すらつきません・・・。」

■２筋条件を無視すれば､解説であげた２つと、あと 51 角 42 金の形も駒柱をかなり作りにくいですが 13 手で間に合うようです。

諏訪冬葉 「最初△54 玉を▲55 金▲56 歩で詰ます手を考えて手数不足。ヒントを見て「▲76 歩△32 飛▲33 角不成△52 玉▲51 角不成△37 飛▲同桂」という手を考えて失敗。よく考えたら「５筋に最低５手」+「３筋に６手」+「２筋の手」+「76 歩」=13 手だった。」

■そう、これで合計 13 手なのです。ヒント投下前に気づいていればもう少し書き方があったのに。

チャンプ「ヒント見て頭の中が真っ白になりました(苦笑)初のギブアップです。無念・・・。」

■そういえばチャンプさん無解は初ですね。残念。

渡辺 「これは白旗。ヒントと裏読みを駆使すれば、76 歩、と 33 の着手２回、37 の着手２回、38 飛、31 飛生、２筋１回、５筋５回を組み立てれば…。」

■白旗と言いつつ正解されてますが、渡辺さんをしてそこまでの苦戦でしたか。

正解：１１名

EOG さん　飯山修さん　S.Kimura さん　斧間徳子さん　小山邦明さん　諏訪冬葉さん　ＮＡＯさん　波多野賢太郎さん　はなさかしろうさん　Pontamon さん　渡辺さん

総評

はなさかしろう「今回は難題が揃ってしまいましたか。固唾をのんで見守ります。。」

■本当に初級が想定外でした。

しまぎろう 「これからは、ガンガン投稿していきたい、と書きたいところですが在庫管理（詰将棋の）もままならない状態なので、もう少し先になりそうです。」

■無事合格されたそうで、おめでとうございます。投稿、楽しみにしていますね。

斧間徳子 「今月は久々に骨のある難問が 2 題（１＆３問目）あり、堪能しました。」

■しかし初級が難問ではいけませんでした。

小山邦明「今回の推理将棋のコーナーも楽しむことができました。どの作品も本当に良く考えられた手順だと思います。」

■３題とも一見遠回りに見える手段が作意の一部に含まれるのです。

NAO 「第 76 回は初手 76 着手特集ですか。３問ともヒント待ちは初めて。難しかったー。」

■最終手 76 歩な作品とかあれば面白かったですけどね。にしても NAO さんが初級ヒント待ちはさすがに私の読み間違いがすぎますね。

波多野賢太郎「締め切り前ヒントなしで解けたのは２問目だけでした。練習問題が１問目のヒントになってたことに全然気づきませんでした。３問目はうまくできていて、とても印象に残りました。」

■最近は練習問題を決めるのに本出題を見ながら考えているので３問のどれかと何らかの関連があることがほとんどです。

隅の老人Ｂ 「今回は１題しか解けず、残念。解答の発表を楽しみに待っています。」

■初級でこのようなことが再び起こらないよう心がけます。

諏訪冬葉 「76 回だけに全問▲76 歩スタートですね。」

■さすがに 76 歩が絡まない作品は選べませんでした。

変寝夢「今月はなかなかハードそうな気がしました。たまには趣向手順などをみたい気がしますが・・・。」

■推理将棋は初形が決まっているので舞台作りから始める必要があって大変なのですよね。作るのもそうなのですが、それ以上に解く側が大変。

チャンプ「ヒントを見たことによって想像してたものが全部吹き飛んで何も考えれなくなったのは私だけでしょうか?(笑) 来月はがんばります。」

■ヒントは正解へ導くものですから、間違ったものを本命だとあまりに強く思い込んでいるとそうなっても不思議ではないかも。

推理将棋第７６回出題全解答者：　２０名

あきらさん　EOG さん　飯山修さん　S.Kimura さん　斧間徳子さん　小山邦明さん　ジェシーさん　しまぎろうさん　隅の老人Ｂさん　諏訪冬葉さん　占魚亭さん　チャンプさん　時風瑞季さん　ＮＡＯさん　波多野賢太郎さん　はなさかしろうさん　はらたっとさん　変寝夢さん　Pontamon さん　渡辺さん

推理将棋番外編

神無七郎

推理ハム将棋

A　「ハム将棋と対戦してみたよ。」
B　「ハム将棋？　この前は『ＧＰＳ将棋攻略法を見つけるぞ！』と言ってなかったっけ？」
A　「それが…ずっと負けっぱなしで…」
B　「ハム将棋と指して気分転換をしようとしたわけか。」
A　「うん。それでハム将棋相手に平手で指してみたんだ。この時はたまたま後手になったんだけど…」
B　「ああ、ハム将棋の平手戦は、ランダムで先手後手が決まるんだったね。」
A　「たった９手で詰まされちゃった。」
B　「おい！」

さて、どんな将棋だったのでしょうか？

【コメント】
昔、井上裕氏が「コンピュータ将棋次の１手」という記事を「稲棋」(早稲田大学将棋部の部誌)に書いていました。コンピュータ将棋で着手にランダム性がないものは、その「癖」を利用したパズルが作成可能ですが、これはそれを推理将棋に応用したものです。最近のコンピュータ将棋ソフトは、癖を読まれないためにランダム性を入れたものが多いので、ここではランダム性の少ない「ハム将棋」を題材にしています。

推理将棋のように見える何か

A　「ちょっと君に見て貰いたいものがあるんだ。」
B　「何だ、ハム将棋に９手で負けたＡ君じゃないか。いったい何を見せたいんだい。」
A　「あの後、Ｃ君にアドバイスを貰いに行ったんだ。そうしたら、推理将棋っぽいものを見せられてさ。」
B　「『っぽい』って何だよ。えらく曖昧じゃないか。」
A　「これがそうだよ」
「ダミーですよ」
「ダミーですってば」
「疑り深い人ですね・・・」
「では王でも上がってみますか」
「さらに飛車先も突いてみましょう」
「ん？もう分かりました？」
「まぁここまで来たんだからもう少し」
「あと一息です」
「という訳で詰まされました。お疲れ様でした」

B　「何これ？　これが推理将棋？」
A　「Ｃ君に聞いたら『分かる人には分かるよ』だって。」
B　「それは『分かる人にしか分からない』って意味だよね。最初のセリフが鍵なのかなぁ…」

さて、Ｃ君がＡ君に見せたものは一体何で、どんな将棋だったのでしょうか？

【コメント】
文面からコンピュータ将棋絡みであることが推測できるかもしれませんが、かなりのマニアでないと分からないと思います。

解答はP83をご覧下さい

Fairy TopIX2013投票結果

2013 年の Fairy TopIX 投票結果発表です。

投票者は、変寝夢、橋本孝治、酒井博久、DD++、橋圭伍、上谷直希、たくぼん　計 7 名でした。（敬称略）投票ありがとうございました。

2013 年にネット上で発表された候補作は、短編 144 作（前年 175 作）、中編 21 作（前年 39 作）、長編 31 作（前年 12 作）、推理将棋 62 作（前年 44 作）の計 258 作（前年 270 作）でした。昨年に比べると長編、推理将棋がかなり増えて、短編、中編は減少でした。特に中編の減少が止まらない感じです。作家の皆さんの奮起を期待します。

では各部門別に発表します。申し訳ありませんが敬称は略させていただきますのでご了承下さい。

【短編部門】

投票者：橋本孝治、橋圭伍、酒井博久、変寝夢、上谷直希、たくぼん　計 6 名

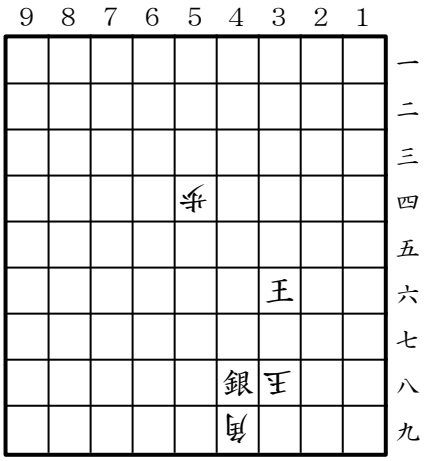
1 位は 14pt を獲得した神無太郎氏の安南協力自玉ステイルメイトが 2 位に大きく差を広げて受賞しました。2 位にはこの期初登場の幻想咲花氏が、この期初登場のルールである透明駒作品で受賞。3 位は 1 位票 1 名を獲得した 3 作が入りました。投票者数が少ないのでこういう事が起こります。2013 年は、新たなルールや複合ルールが吹き荒れた 1 年でした。

記載は、順位、一覧の番号、作者名、出題年月、出題場所、ルール、手数、お気に入り投票ポイントです。同位の場合は一覧の番号順に記載しています。

---

1 位　短 45　神無太郎　2013/8
第 55 回 WFP 作品展　55-11
安南協力自玉ステイルメイト　12 手

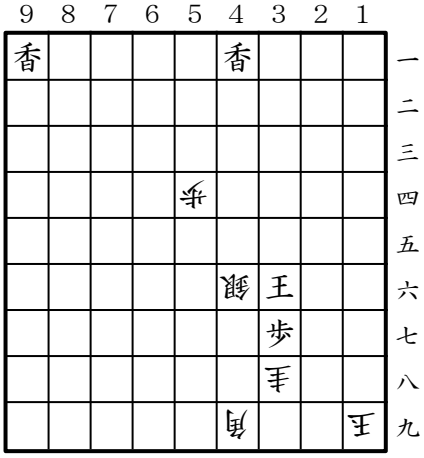
14pt



持駒 角香2歩

92 角 56 桂 47 香 48 桂成 41 香生 28 玉 91 香 46 銀 38 角成 19 玉 37 歩 38 圭 まで 12 手

詰上図



持駒 なし

受賞コメント　神無太郎

通常ルールでは行きどころのない駒を二枚発生させるシリーズのひとつ。49 角と 54 歩は 8 手目の合駒限定の意味しかなく、コストが高すぎるのが大きな不満だったので、受賞は正直驚きです。七郎さんの詳解のおかげだと思っています。

★　この時期行き所のない駒を発生させる作品を発表されていた作者ですので 1 段目の香発生は予想できる所でしたが軸駒 48 銀を取らせる

駒を 56 桂という合駒で発生させる順が秀逸。実際に解いた人にはそれが実感出来ると思います。

橋本孝治　1 位

盤上一杯に駒が舞う中、異彩を放つ渋い 56 桂合。華麗な手順をメリハリの利いた構成で演出した正統派短編です。順位付けには少し迷いましたが、一番短編らしい短編ということで、本作を 1 位で推します。

上谷直希　次点

まさに充実の手順。

橘圭伍　1 位

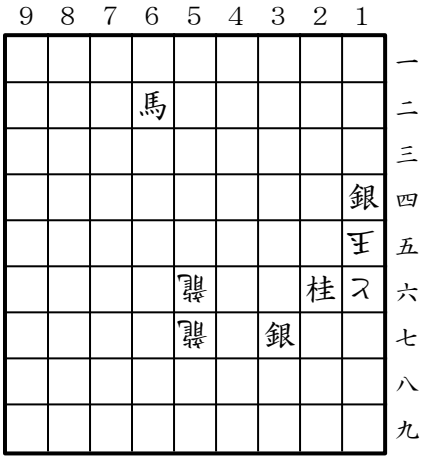
本作品を 1 位に押します。初形からは見えない展開で私は偶然が無ければ解けなかったでしょう。

たくぼん　2 位

56 桂もすばらしい。王を歩に変える収束もすばらしい。すべてすばらしい。

2 位　短 68　幻想咲花　2013/11
第 58 回 WFP 作品展 58-11
詰将棋（透明駒使用）　11 手

7pt

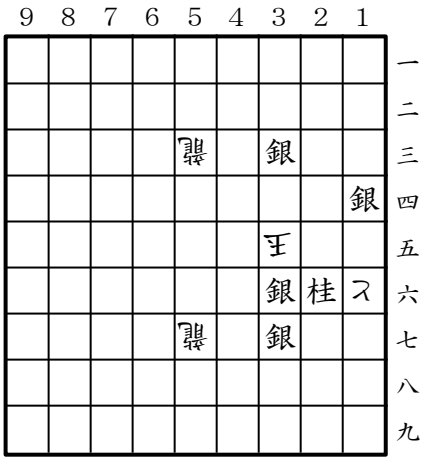


持駒 なし

※透明駒　攻方 1 枚、受方 0 枚

51 馬　42 角　同馬　33 銀　24 角　同玉　+33(銀生)
35 玉　53 馬　同龍　36 銀打　まで　11 手

詰上図



持駒なし

受賞コメント　幻想咲花

自作が受賞したとのこと。正直意外も意外で驚きを隠せません。選んで頂いた方々にお礼申し上げます。ありがとうございました。さて、受験勉強のせい(？)か最近かしこすらまともに創れない状況に陥っており、さすがにフェアリーまで手が回りそうもありません。とは言っても、某 STG のゲームやら同人誌やらにドハマりしてる時点で言い訳にしかならないでしょうが・・・やりたいことしかやりたくない、という典型的ダメ人間である自分はたまに起こる「詰将棋を創りたい」という衝動に駆られた時しか創らないタイプなのですが、ここのところその衝動が滅多に起きなくなったようです。ちょくちょく手がけはするのですが、作品がまとまるということは極稀です。自分のような作風の作家は寡作になりやすい傾向にあるし、自分自身でも「一年一作の傑作を」ということを意識してはいるのですが、とにかく何か創らなければ何も始まらない訳で。そういう意味で少し焦りがちではあるこの頃ですが、何分気まぐれこの上無い人間ですので、気長に見てくだされば私としても助かります。この度は自分のためにこれだけのスペースを取っていただき、ありがとうございました。長文失礼致しました。

★　昨年デビューした透明駒というルール。どんな特徴が潜んでいるのでしょう。フェアリーでは初登場の作者が見せてくれた本作はその答えの 1 つを見事に例示してくれたのではないでしょうか。詰将棋がベースフィールドの作者ですが、受験終了後には新たなフェアリー作品を見せてくれることを期待しています。

橋本孝治　２位

まだ海の物とも山の物とも分からない新ルールだけど、何だか凄い可能性がありそう、そう思わせる点において、昨年度最高の作。新ルールのお披露目には何が必要か、この作品が良い手本を示していると思います。

橋圭伍　２位

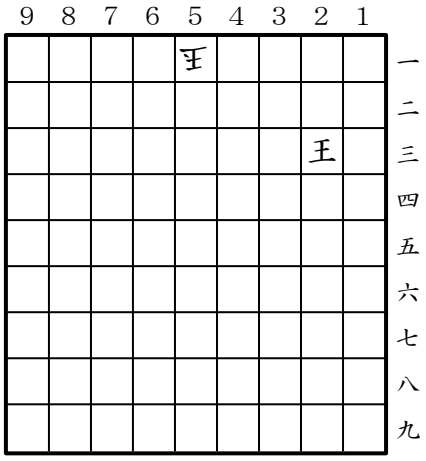
明確な論理による連続合が素晴らしいです。今後の発展も見据えて投じておきます。

たくぼん　次点

１度は無解で解答を送り、その後閃いて正解を入れられた記憶が・・・。その閃いた時の嬉しさが忘れられない。

３位　短 44　神無太郎　2013/8
第 55 回 WFP 作品展 55-10
対面協力自玉ステイルメイト　10 手

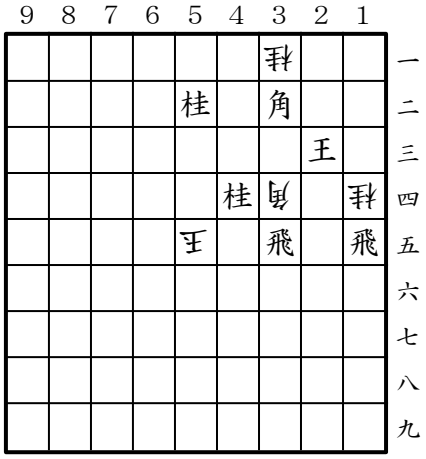
5pt



持駒 飛2角桂2

52 桂 43 玉 32 角 31 桂 44 桂 55 玉 15 飛 14 桂 35 飛打 34 角 まで 10 手

詰上図



持駒 なし

受賞コメント　神無太郎

65 玉型 6 手の非限定を解消するための逆算が極めてうまく行きました。私らしいコンパクトさがよく出ていると思います。

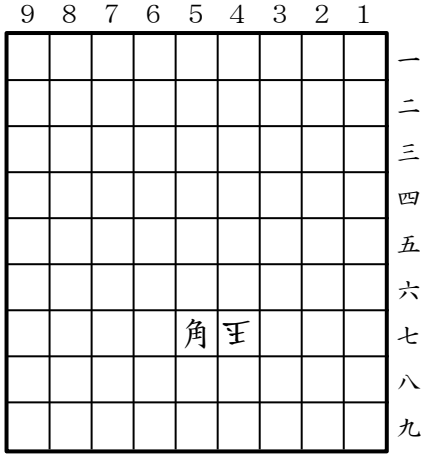
★　３位は１位票１名を獲得した３作が同ポイントで並びました。上谷氏が１位に押したのは初形双裸玉から詰上り 10 枚になってステイルメイトとなる意外な１作。

上谷直希　１位

双裸玉の手順中で統一感を表現するのはかなり難しいはず。すごく高いレベルで作図していらっしゃるのでしょう。

３位　短 51　神無太郎　2013/9
第 56 回 WFP 作品展　56-6
安東西協力自玉ステイルメイト　12 手

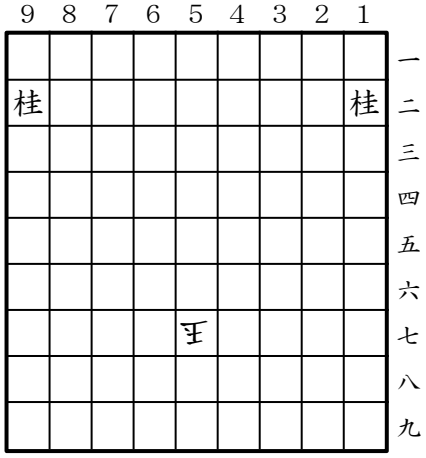
5pt



持駒 桂4

39 桂 37 玉 49 桂 38 玉 47 桂打 39 玉 92 桂生 49 玉 67 桂 48 玉 12 桂生 57 玉 まで 12 手

詰上図



持駒 なし

受賞コメント　神無太郎

通常ルールでは行きどころのない駒を二枚発生させるシリーズのひとつ。作例の少ないルールを適用することでコンパクトに表現できました。

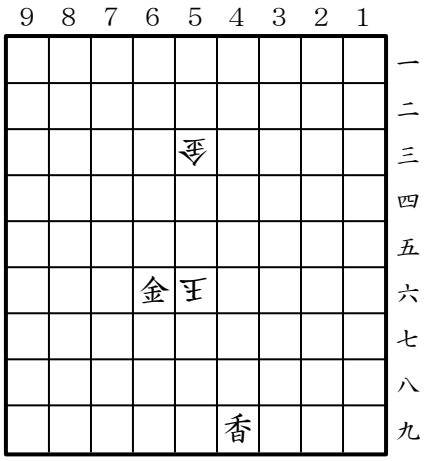
★　続いても神無太郎氏のステイルメイト。こちらは安東西というめったに見かけないルールですが双裸玉からのこの詰上りには度肝を抜かれた人も多かったでしょう。記憶に残る１作。

変寝夢　１位

趣向が成立しているとは驚いた

3位　短 27　変寝夢　2013/5
第 53 回 WFP 作品展　53B-2
Koko-PWC 協力詰　11 手

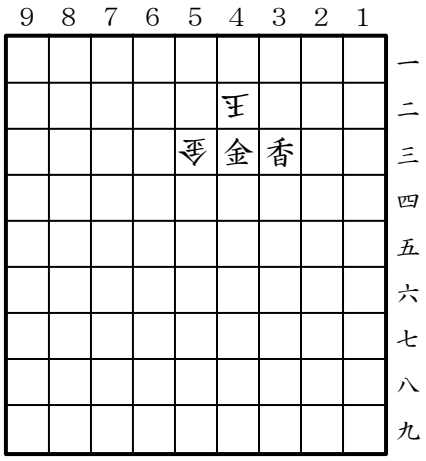
5pt



持駒 なし

46 香 45 玉 56 金 54 玉 45 金 43 玉 34 金 33 玉 42 香生 同玉/33 香 43 金 まで 11 手

詰上図



持駒 なし

受賞コメント　変寝夢

拙作が短編部門３位ということで、皆様に感謝しております。短編７，３０，４３，６５，６６のどれかと思っていたので、この結果は意外でしたが。本作は、狙いも全くなく単にＶＭでＫＯＫＯのテスト用にでっち上げたものです。４２香生が私が思ったより好手だったんでしょうか。実はよくわかっていません。これからも私らしい意外性のある作品を創っていきたいと思っておりますので、皆様今後とも末永くよろしくお付き合いのほどよろしくお願い申し上げます。ところでＶＭですが、おかげさまで大好評につき閑古鳥が大鳴きしている有様です。本作は０秒で、また極光２、Ａｕｒｏｒａを百数十局解けたりしますので、Ｍａｃ使いのフェアリストの皆様、是非是非ご試用して頂ければ幸いです。

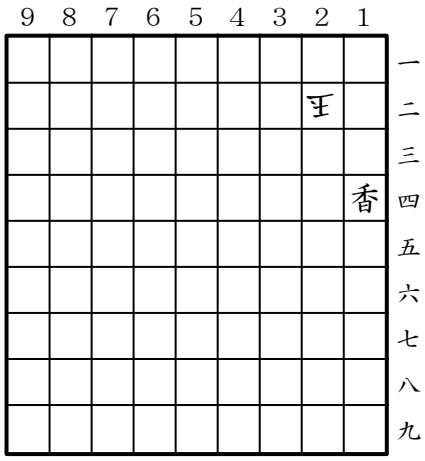
★　作者がびっくりされるのも当然。私が１位に押しただけで３位入賞だからです。創り手と解き手の評価の違いはよく言われることですが、本作がまさにその典型かもしれません。

たくぼん　１位

どれほど考えたことでしょう。ルールに不慣れな部分もあり、解けた～いや詰んでいないを何度となく繰り返したり、七郎さんに余詰ではとメールしたり、で結局解けず。解答見て 42 香生には驚きました。こんな手が･･･だから詰将棋は面白い。

6位　短 49　神無太郎　2013/9
第 56 回 WFP 作品展　56-4
安南協力自玉ステイルメイト　12 手

3pt



持駒 桂4

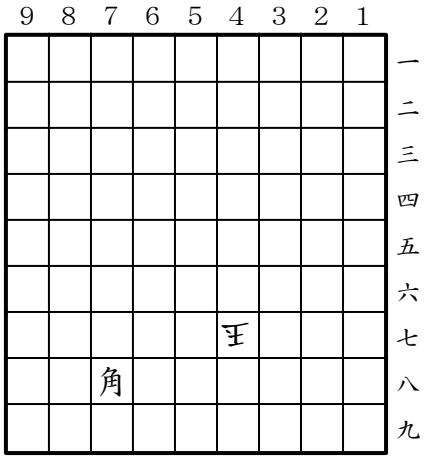
15桂 11玉 13桂 12角 22香成 同玉 14桂 13玉 23桂成 31玉 22桂打 23角 まで 12手

上谷直希　２位

氾濫の安東西には感動しましたが、こちらもいいですね。全く隙がない手順のなかでも、特に最後の畳み込みが強く印象に残りました。

６位　短52　神無太郎　2013/9
第56回WFP作品展　56-7
安南北協力自玉ステイルメイト　12手

3pt



持駒 桂4

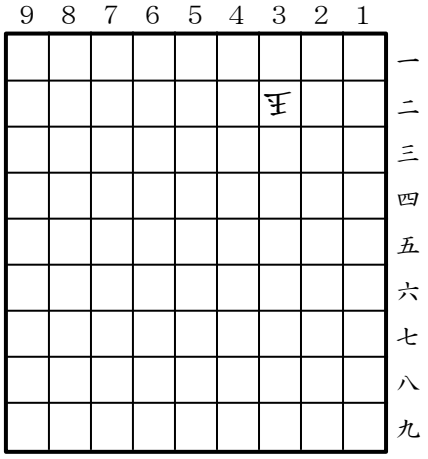
59桂 57玉 69桂 68玉 77桂打 69玉 11桂生 59玉 77桂 69玉 22桂生 78玉 まで 12手

変寝夢　２位

明後日の方向に駒が飛ぶのが楽しい

６位　短59　上谷直希　2013/10
第57回WFP作品展　57-7
安南マドラシ打歩協力詰　13手

3pt



持駒 銀桂

43銀 22玉 34桂 42桂 同銀成 23桂 32全 12玉 24桂 22歩 同桂生 11玉 12歩 まで 13手

変寝夢　次点

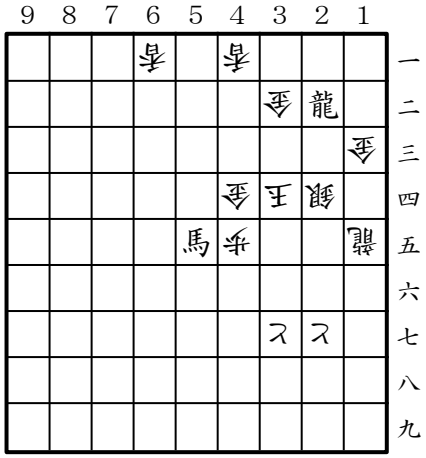
２２歩に妙味感あり

たくぼん　３位

合駒なしで歩を発生させる謎解きが面白かった。紛れも多くルールにも不慣れでしたが楽しめた１作。

６位　短98　DD++　2013/6
解くのに頭を悩ます５手協力詰作品展　B-3
協力詰　5手

3pt



持駒 角

45馬 同龍 35歩 同銀 25角 まで 5手

橋本孝治　３位

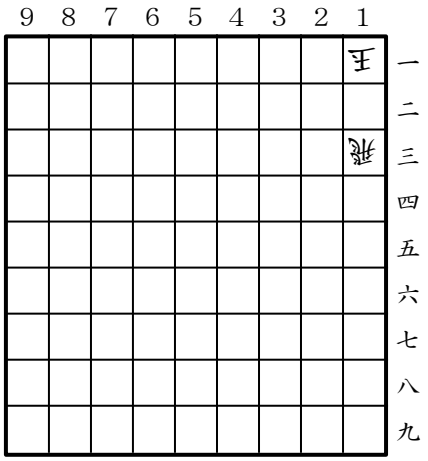
普通の評価基準だと箸にも棒にも掛からない作品ですが、「頭を悩ます５手詰」として考えれば最高の出来。芋筋、俗筋、無筋……極めればそこに価値が生まれます。

たくぼん　次点

３０分で解けなかったので（そんな偉そうな言い方も変ですが）敬意を表して１票。いろいろな紛れ筋を残して作図されておりこれは作者の勝利でしょう。

10 位　短 39　橘圭伍　2013/8
第 55 回 WFP 作品展　55-5
キルケ協力詰　7 手

2pt



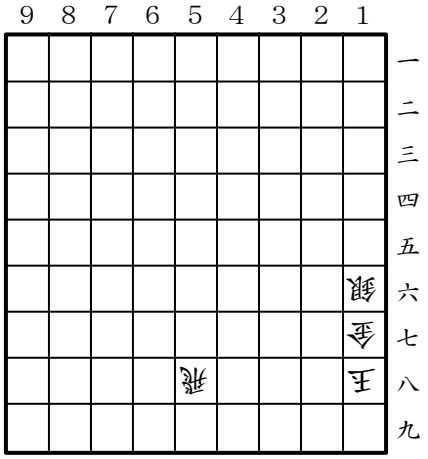
持駒 香

12 香 21 玉 11 香成 同玉/19 香 13 香生/82 飛 12 角 同香成/22 角 まで 7 手

上谷直希　3 位
この形がよく残っていたもの。手順にも捨てがたい味がある。

10 位　短 42　上谷直希　2013/8
第 55 回 WFP 作品展　55-8
背面マドラシ協力詰　5 手

2pt



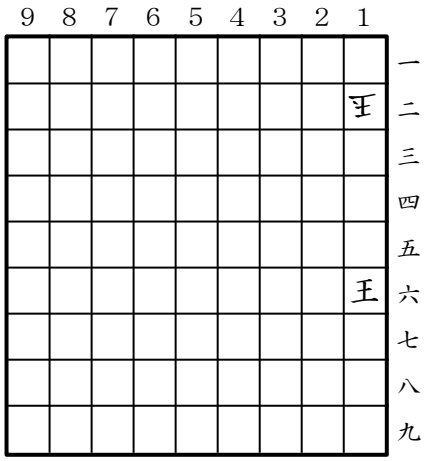
持駒 角金銀

36 角 27 金 19 金 37 金 28 銀 まで 5 手

橘圭伍　3 位
変身系＋マドラシという事で今後に期待しています。出来れば長編とかも見てみたいかな。

12 位　短 4　神無太郎　2013/1
第 49 回 WFP 作品展　49-4
側面協力自玉ステイルメイト　8 手

1pt



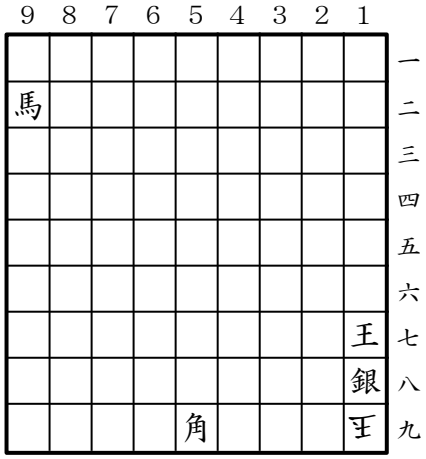
持駒 桂4

24桂 34飛 22桂打 24玉 36桂 同飛 26桂 28飛成 まで 8 手

変寝夢　3 位
側面シリーズの中では、様式的なものも含めてエレガントさを感じた

12 位　短 28　橘圭伍　2013/5
第 53 回 WFP 作品展　53B-3
協力詰　11 手

1pt



持駒 なし

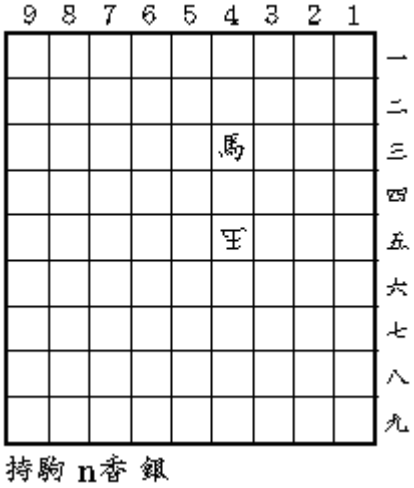
91馬 82飛 同馬 46飛 49飛 同飛成/28飛 58飛 同龍/28飛 48飛 37銀 49飛 18龍/39銀 まで 12 手

変寝夢　次点

力技になりがちなところをスッキリと纏まっている。

12 位　短 48　変寝夢　2013/9
第 56 回 WFP 作品展　56-3
協力詰（中立駒使用）　3 手

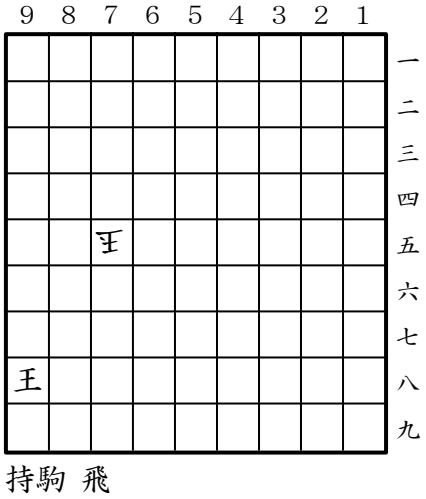
1pt



上谷直希　次点
中立駒の魅力を伝えるのに最適な作品。こういう小品が好きなんです。

12 位　短 60　橘圭伍　2013/10
第 57 回 WFP 作品展　57-8
PWC 協力自玉ステイルメイト　8 手

1pt

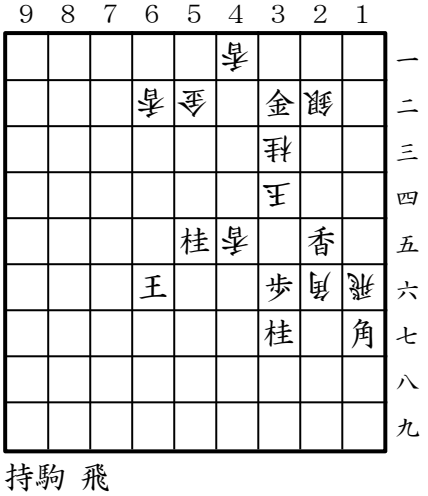


79 飛 78 香 同飛 86 玉 89 香 88 飛 同飛/78 飛 87 桂 まで 8 手

上谷直希　次点
桂馬限定が素晴らしい。桂馬でなくてはならない理由が 2 つあるのは少し気になりますが、一石二鳥と見るべきでしょう。

12 位　短 84　小林看空　2012/11
Fairy of the Forest #37-06
協力詰　7 手

1pt

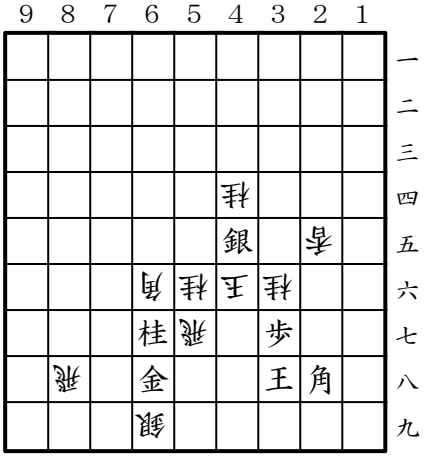


64 飛 44 角 33 金 同銀 46 桂 同香 35 歩 まで 7 手

酒井博久　次点
「順列七種詰」のセットに各 1 点。

12 位　短 85　小林看空　2012/11
Fairy of the Forest #37-07
協力詰　7 手

1pt



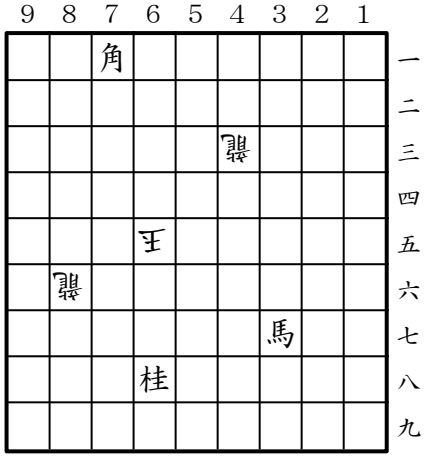
36 歩 28 香生 58 桂 同銀成 57 金 同角生 47 飛 まで 7 手

酒井博久　次点

「順列七種詰」のセットに各１点。

12 位　短 93　変寝夢　2013/6
解くのに頭を悩ます５手協力詰作品展　A-7
協力詰　５手

1pt



持駒 桂

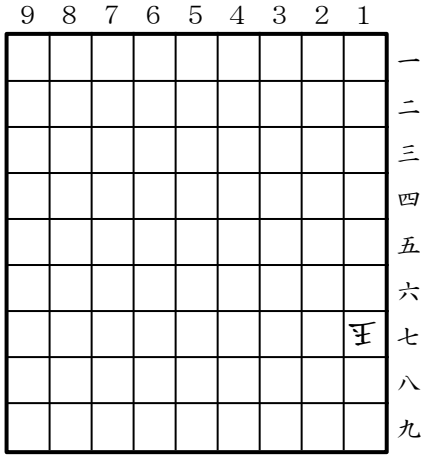
38 馬 55 玉 47 桂 46 玉 35 角成 迄　５手

上谷直希　次点

５手ばか詰として理想的。まだまだそっぽ馬は新鮮。

12 位　短 118　上谷直希　2013/1
裸玉鑑賞～という名の「性能変化系+マドラシ」のススメ～
背面マドラシばか詰　７手

1pt



持駒 桂歩

19 桂 37 桂 36 歩 18 玉 17 桂 25 桂 24 歩 まで ７手

上谷直希　次点

本作は私がつくったものではないからということで投票（笑）フェアリーには作者の心情がひしひしと伝わってくるタイプの良さもあれば、人間らしさの入り込む余地のないタイプの良さの２つがあると思いますが、本作は当然後者でしょう。

【総評】

橋本孝治

昨年は多くの新ルールが登場しましたが、そのルールの持つポテンシャルを感じさせるという点では、物足りない作品が多かったと思います。というわけで投票は「正統派」「新ルール」「異筋」という、それぞれのキャラクターが際立った作品から一つずつ選びました。

変寝夢

短編は繋ぎの１手が特に緩く感じてしまう。繋ぎの１手が排除されているかを注視したつもりです。

上谷直希

透明駒、中立駒を含め、本年は目新しいルール（特にフェアリー駒）の草創期だったと思います。それだけに、熟しきった作品に乏しかった印象。私自身も、粘り強く一作に取り組むような創作ができなかったなぁと反省しております。

橘圭伍

混戦ですが変身系＋新ルールという事になりました。変寝夢氏のフェアリー駒や混合ルールは使い捨て感が強いので今回はパスさせて頂きました。中立駒の方に力を入れているようなので今年はそちらに期待しています。

【中編部門】

投票者：変寝夢、橋本孝治、酒井博久、橘圭伍、上谷直希、たくぼん　計６名

中編部門の投票者は６名でした。投票ありがとうございました。2013 年の中編は発表数が少なくやや寂しい部門となりましたが上田氏の登場など質は高いものになりました。

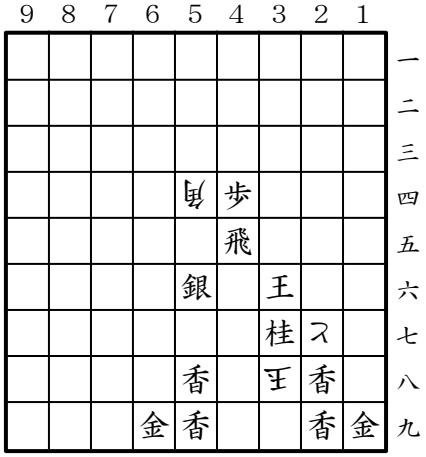
１位を獲得したのは神無七郎氏の狭い範囲で駒をやり繰りする協力詰。２位は 2013 年初参入の上田吉一氏の PWC 自玉ステイルメイト。３位は再び神無七郎氏のキルケ協力自玉詰と大御所が上位を占めました。

中編の発表数が昨年の３９作から２１作と減少しています。短編や長編の狭間にあって中編らしい作品を創りだすのは難しいことなのでしょうか？作家の皆さんの奮起を期待しています。

---

1 位　中 20　神無七郎　2013/7
Fairy of the Forest #36-03
協力詰　35 手

12pt

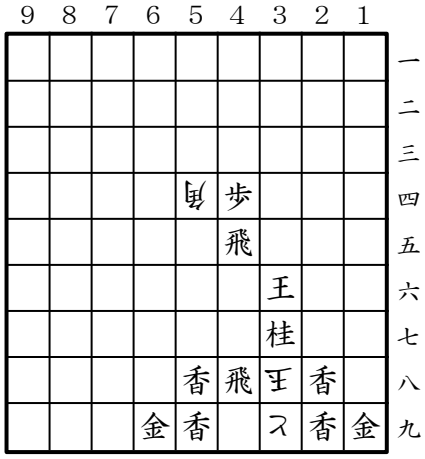


持駒 飛歩

受方持駒なし

39 歩 同玉 38 飛 同玉 47 銀 48 玉 38 銀 47 飛 49 銀 39 玉 48 銀 38 玉 47 銀 48 玉 38 飛 同と 同銀 47 飛 49 銀 39 玉 48 銀 38 玉 47 銀 48 玉 38 銀 47 歩 49 銀 39 玉 48 銀 同歩成 49 飛 38 玉 39 歩 同と 48 飛上 まで 35 手

詰上図



持駒 なし

受賞コメント　神無七郎

本作に投票して下さった皆様、ありがとうございます。昨年発表した自作の中では、本局が自分でも一番気に入っています。Fairy of the Forest には「わざと駒を渡す」という手順を含んだ作品を何作か投稿していますが、「余分に渡した駒を回収する」というのはこれが初めてです。この構想はサイクル数を増やそうとして、半ば偶然に見つけたものですが、見つけた後は前例がないことが不思議に思えました。本当に前例がないのか、実は前例があるのに気付いていないのか、今でも確信が持てません。

★　渡したくない飛まで渡してしまいそれを 10 手かけて回収する。そんな不思議な新構想の実現。作者が昨年発表した中で１番のお気に入りというだけでその充実した内容に納得できます。

酒井博久　１位

「過剰な譲渡と回収」の新構想。

橘圭伍　１位

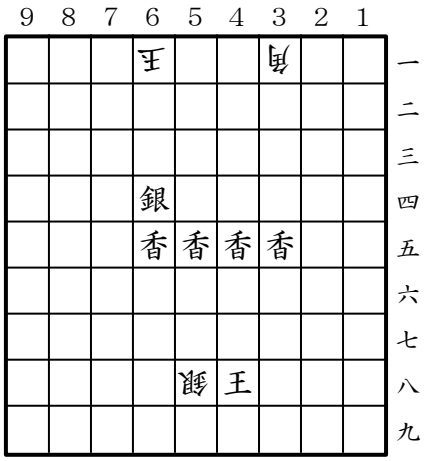
何とも言えない不思議な展開が楽しめます。まだまだ、協力詰も楽しい世界がありそうです。

たくぼん　３位

一言で言うと不思議な感覚。なかなか味わえないと思う。

2位　中 17　上田吉一　2013/11
第 58 回 WFP 作品展　58-10
PWC 協力自玉ステイルメイト　36 手

11pt

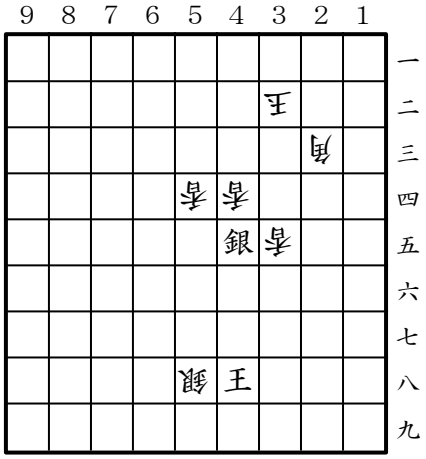


持駒 なし

受方持駒：なし

73 銀生 64 角 62 銀生 72 玉 73 銀生 同角/64 銀 63 銀生 61 玉 54 銀生 62 角 同香/65 角 同玉 53 銀生 51 玉 44 銀生 54 角 同香/55 角 52 香 同香/54 香 同玉 43 銀生 41 玉 34 銀生 44 角 同香/45 角 42 香 同香/44 香 同玉 33 銀生 31 玉 24 銀生 32 香 同香/35 香 同玉 23 銀生 同角/45 銀 まで 36 手

詰上図



持駒 なし

受賞コメント　上田吉一
　最後のステイルメイト系で駒が全て働くようにしたらできた作品。コメントが難しい。

★　８段目の駒以外は全て動く。紛れもぎりぎり、解答者の心理も読まれているかのような駒繰り。まさに至極の１作。

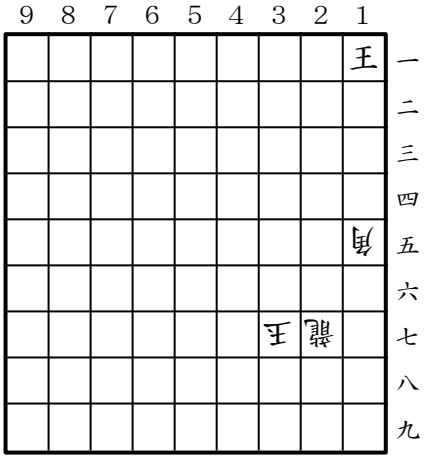
橋本孝治　１位
　昨年の中編ではこれが頭一つ抜けている印象があります。趣向と構想の融合は上田氏の得意分野。フェアリーでも変わらない腕の冴えを見せてくれます。

たくぼん　１位
　規則正しくない趣向の極みのような作。あと１歩及ばない紛れの中に埋もれる作意の発見は解答者冥利に尽きる。

変寝夢　次点
　手が込んでいるなとは思うのだが、並べ終わった後に今ひとつ気持ちが盛り上がらなかった。

3位　中 4　神無七郎　2013/4
第 52 回 WFP 作品展　52-2
キルケ協力自玉詰　20 手

7pt

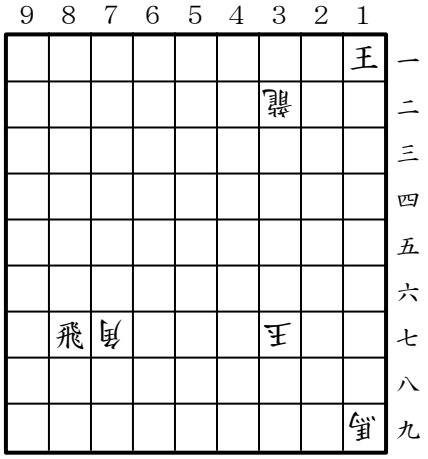


持駒 飛角

*37 玉は不動　受方持駒：なし

32 飛 36 龍 19 角 32 龍/28 飛 24 飛 同角/28 飛 68 飛 同角成/28 飛 58 飛 同馬/28 飛 48 飛 同馬/28 飛 38 飛 同馬/28 飛 29 飛 同馬/28 飛 88 飛 19 馬 87 飛 77 角 まで 20 手

詰上図



持駒 なし

受賞コメント　神無七郎

この回の WFP 作品展は珍しく作品数が少なかったので、穴埋めに自作を出しました。簡潔に角の呼び出しが表現できたので、自分でも気に入っています。最近は担当業務が結構忙しく、あまり大規模な作品を手掛けることができないので、小さな思い付きを、応用や拡張など考えず、そのまま図化してストックしています。いずれ、こうした作品のお披露目をする機会もあるでしょう。

★　37 王不動条件でさらりとした配置実現。紛れも少なくし楽しめる１局。

上谷直希　１位

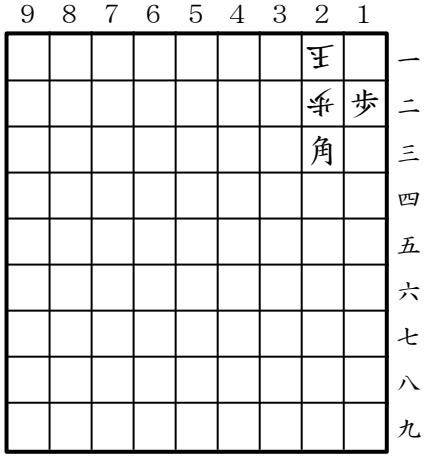
不動玉にすれば、充実の手順をこんなにさらりと表現できるというアイデアに脱帽。

変寝夢　３位

うまく纏まっている。３７の不動玉指定がどう評価されるか興味ある。私は３７は「石」でいいと思う。ロイヤル駒が玉でなければいけないという意識が元々ないんで。

４位　中 16　上田吉一　2013/11
第 58 回 WFP 作品展　58-9
PWC 協力千日手　20 手

6pt



持駒 香

32 角生 12 玉 23 角生 11 玉 19 香 21 玉 12 角生 11 玉 89 角生 12 歩 同香生 21 玉 98 角 12 玉 89 角 23 香 同角生 11 玉 12 歩 21 玉 まで 20 手

変寝夢　２位

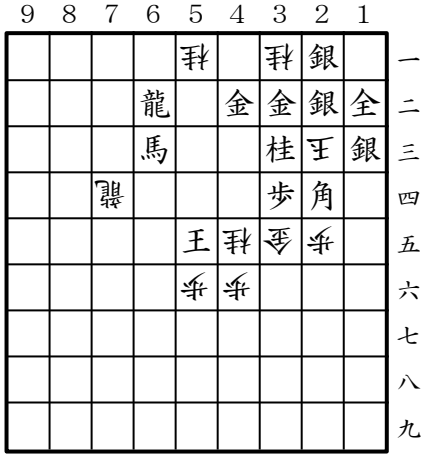
ＰＷＣでは遠打＋行き所の無い駒は真っ先に読むところだが、それを考慮してもなお新鮮味がある。少し「モザイク」が頭によぎった。

たくぼん　２位

右上隅での攻防から急に離れる 89 角生。その手順を簡素な形で表現しているのが素晴らしい。

５位　中 18　神無七郎　2013/1
Fairy of the Forest　34-02
協力詰　25 手

5pt



持駒 金香4

14金 同玉 19香 18金 17香 同金 16香 同金 15香 同金 同香 23玉 14金 34玉 52馬 43香 64龍 54香 同龍 44香打 45龍 同香 26桂 同金 35香 まで 25手

酒井博久　3位

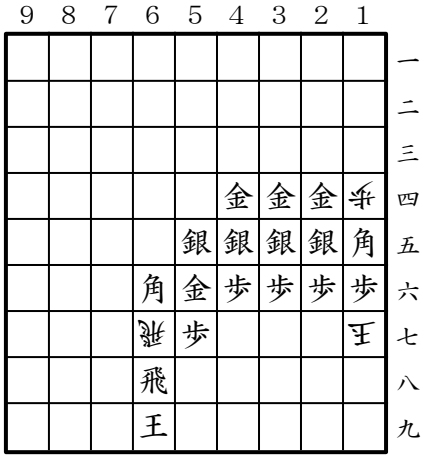
巧妙な駒渡しとその処理。

橋圭伍　2位

非常に分かりやすいのが良いです。香3枚を敢えて相手に渡す展開は見て感動しました。

5位　中19　小林看空　2013/1
Fairy of the Forest　34-03
協力詰　35手

5pt



持駒 香

19香 18香 同香 27玉 29香 28香 同香 18玉 27香 同玉 29香 28香 同香 37玉 39香 38香 同香 47玉 49香 48香 同香 38玉 47香 37玉 39香 38香 同香 28玉 37香 27玉 29香 28香 同香 17玉 19香 まで 35手

橋本孝治　3位

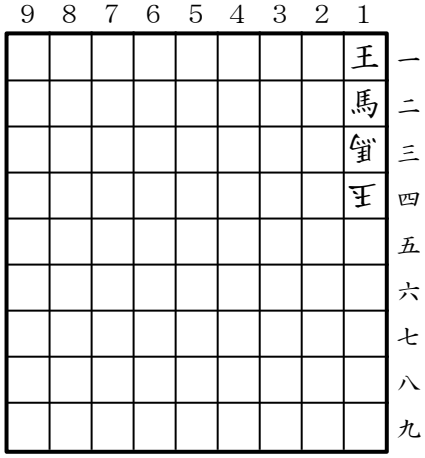
最初から最後まで香尽くしの楽しい手順。
でも意味付けは「駒を盤上に配置して品切れにする」という、凝ったものです。知らず知らずのうちに解ける構想作……こういう作品は良いですね。

酒井博久　2位

明快な論理と趣向的手順の融合。

5位　中21　神無七郎　2013/12
2014年年賀詰作品展2b
PWC協力自玉ステイルメイト　18手

5pt



持駒 桂

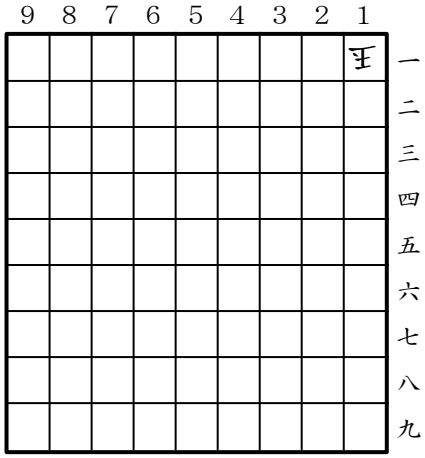
23馬 25玉 14馬 35玉 13馬/14馬 34玉 35馬 23玉 15桂 同馬/14桂 13馬 34玉 12馬 23銀 同馬/12銀 44玉 22馬 33馬 まで 18手

変寝夢　1位

ステイルメイトって詰将棋とは違う世界だなと思わせる妖しい作品。

8位　中1　たくぼん　2013/1
第49回WFP作品展　49-8
歩王協力詰　31手

4pt



持駒 桂3

23桂 12玉 11桂成 13玉 12圭 14玉 13圭 15玉 14圭 16玉 15圭 17玉成 16圭 27宝 17圭 37宝 49桂 36宝 27圭 35宝 26圭 45

宝 57 桂 44 宝 35 圭 43 宝 55 桂 53 宝 63 桂成 54 宝 45 圭 まで 31 手

変寝夢　次点

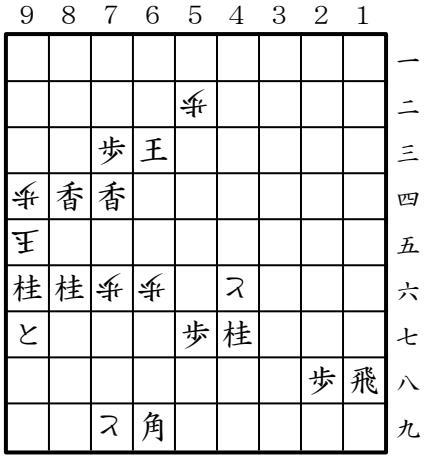
空中で捕まえるのは意外。「宝」ではなく単に「歩」としたほうがいいと思います。

上谷直希　２位

後世に残すべき作品。初心者もニッコリ。マニアもニンマリ。本作をみると、「これからフェアリーを始めたい人にオススメする作品集」などがあったらいいなぁと思ったり。橘さんの小品集はとても良かったです。

９位　中 11　橘圭伍　2013/7
第 54 回 WFP 作品展　54-9
キルケ協力自玉詰　28 手　「Pleiades Ⅰ」

3pt



持駒 なし

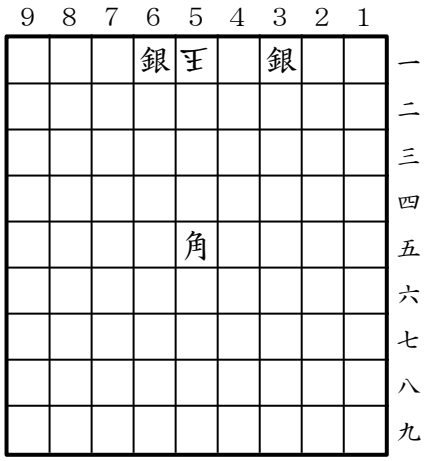
15 飛 25 銀 同飛/31 銀 35 銀 同飛 45 銀 同飛 55 金 同飛/61 金 65 金 同飛 75 金 同飛 85 金 同飛 同玉 95 金 75 玉 85 金 65 玉 56 銀 同と/39 銀 55 金 同と/49 金 54 銀 同と 64 金 同と まで 28 手

橘本孝治　２位

連続合駒にこだわった橘氏の「星座シリーズ」。代表を選ぶとすれば、７連続合の「Pleiades Ⅰ」か「Pleiades Ⅱ」ですが、ここはシンプルさを重視して「Pleiades Ⅰ」に投票します。

10 位　中 5　DD++　2013/4
第 52 回 WFP 作品展　52-3
将限定協力詰　37 手

2pt



持駒 歩18

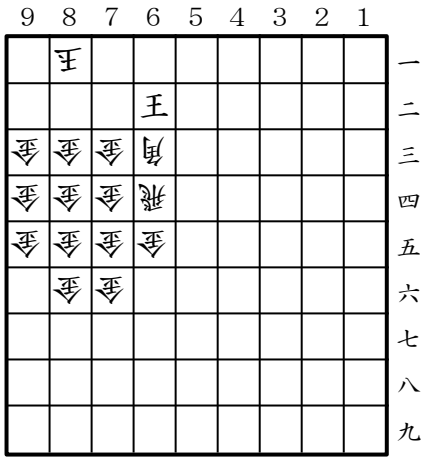
52 歩 61 玉 62 歩 52 玉 53 歩 41 玉 42 歩 31 玉 32 歩 21 玉 22 歩 32 玉 33 歩 42 玉 43 歩 同玉 44 歩 53 玉 54 歩 62 玉 63 歩 71 玉 72 歩 同玉 73 歩 81 玉 82 歩 91 玉 92 歩 82 玉 83 歩 同玉 84 歩 92 玉 93 歩 91 玉 72 歩成 まで 37 手

橘圭伍　３位

ほぼ理詰で解ける中に若干の盲点がある作品。

11 位　中 14　橘圭伍　2013/9
第 56 回 WFP 作品展　56-9
キルケ協力詰　47 手

1pt



持駒 桂9香6

受方持駒:なし

82 香 91 玉 92 香 同金/99 香 81 香成 同玉 93

桂 同金引/89桂 82香 同玉 94桂 91玉 82桂成 同金引 83桂 81玉 71桂成 91玉 81圭 同金 83桂 82玉 94桂 83玉 82桂成 同玉 94桂 同金寄 84香 91玉 83桂 82玉 71桂成 91玉 82 香成 同金寄 83 桂 同金上 92 香 同玉 84桂 82玉 72桂成 91玉 92香 同金上 81圭 寄 まで 47手

変寝夢　次点

面白いことを考えるもんだなぁ。発想に投票。

【総評】

橋本孝治

昨年の中編部門は作品数が少ないですね。かつてフェアリーは深刻な中編不足の時期が続きましたが、その状態が再発しつつあるのでしょうか。

酒井博久

ここはＦＯＦからは３作。いずれも好作です。

変寝夢

もっと気色の変わったものがあってもいいかな？。連続系なんかどうでしょうね。

上谷直希

中編はそもそも絶対数が少なかったかな。

橋圭伍

全題協力詰という結果になりました。珍しい事もありますが自作を除く中編が意外に少なかったのも影響しています。

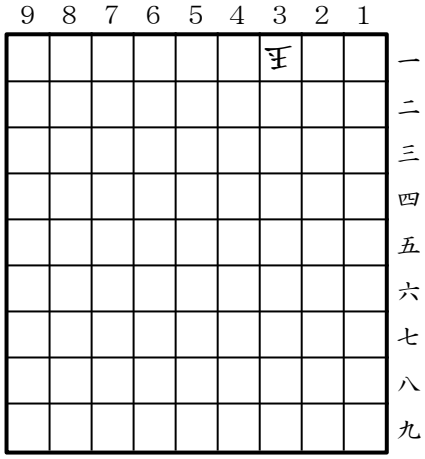
【長編部門】

投票者：変寝夢、橋本孝治、酒井博久、橋圭伍、上谷直希、たくぼん　計６名

長編部門の投票者は６名でした。今期の長編は大豊作の年で激戦となりましたが、制したのは神無太郎氏の「柔らかな回廊」まさに様式美の極致の１作。２位は 2013 年初参戦上田氏の PWC の趣向作。３位は橋氏のキルケ「世界線」特徴ある作品が上位を占めました。荻絵氏の超長編や糟谷氏の特別出題など話題の多い１年でした。

1位　長 9　神無太郎　2013/8
第 55 回 WFP 作品展　55-12 「柔らかな回廊」
取禁協力詰　83 手

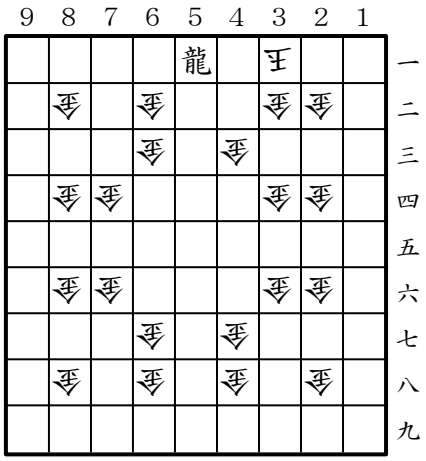
18pt



持駒 飛
受方持駒：金 20

41飛 22玉 42飛成 32金 31龍 23玉 21龍 22金打 12龍 34玉 14龍 24金 23龍 35玉 33龍 34金打 44龍 26玉 46龍 36金 35龍 27玉 25龍 26金打 16龍 38玉 18龍 28金 29龍 47玉 49龍 48金 38龍 57玉 37龍 47金打 46龍 68玉 66龍 67金 57龍 78玉 58龍 68金打 69龍 87玉 89龍 88金 98龍 76玉 96龍 86金 87龍 75玉 77龍 76金打 66龍 84玉 64龍 74金 75龍 83玉 85龍 84金打 94龍 72玉 92龍 82金 81龍 63玉 61龍 62金 72龍 53玉 73龍 63金打 64龍 42玉 44龍 43金打 53龍 31玉 51龍 まで 83手

詰上図



持駒 なし

受賞コメント　神無太郎

『龍踊り』の収束の合駒ブロックを精錬したもの。後手の持駒制限は安易すぎる創作手法だと思っていて、これまで一度も使ったことはなかった（はず）のですが、とうとうその禁断の手を使ってしまいました。創作上のハードルは格段に低くなるので、そういう意味で受賞は驚きです。これまた七郎さんの詳解のおかげでしょう。それで、だいぶ横道にそれてしまうし、しかも長くなってしまうのですが、『柔らかな回廊』というタイトルの由来について書いておきたいと思います。いまだに聴き続けているプログレの中に、チェンバーロックというカテゴリーがあります。チェンバー＝室内楽で使われる楽器を取り入れた編成で演奏されるロックのことです。アコースティック・アストゥーリアスもそういうバンドのひとつで、チェンバーの純度が極めて高いのが特徴です。明快な旋律と緊張感のある展開は、まさしく越境するロックそのもので、私的には完全にプログレなのですが、バイオリン、クラリネット、ピアノ、ガットギターというおよそロックバンドとは思えない編成なので、ヒーリングミュージックに分類されたりもしています。しかし変拍子で癒される人はその筋の人だけだと思うんですが。で、『柔らかな回廊』はそのアコーステック・アストーリアスのクラリネット奏者である筒井香織さん（リコーダーやウィンドシンセサイザーも操る）の手になる曲。2012 年のライブ観戦時のメモを引用しておきます。大山（曜）さんはバンドリーダー。

ライブ観戦メモ引用（開始）

Corridoio Molle(柔らかな回廊)

筒井さんの新曲。ベタスプレンデス系統。数年前のイタリア・南フランスツアーのとき、ハードなスケジュールの中で観光した状況を曲にしたとのこと。 眠いけど、入ってくる情報は凄い・・・。よい。眠い感じは分からなかったけど。

2012/02/12 筒井さんのつぶやきより

廊下が柔らかいなと思うのは、沢山の衝撃的な情報が脳内に洪水のように押し寄せて鋭く覚醒しているけど、比例して肉体が酷く疲弊しているとき。体と心がちぐはぐです。今朝は体温が高くなってしまって、いろんなものが柔らかいです。これからレッスンへ(^-^)

大山「2 年前にデモを聴いたときには、とても演奏できないと思った。その後、改良と練習を積み重ねて本日の披露となりました」

大山「拍子の切り換えがすさまじくて、すごくいやらしい」

ライブ観戦メモ引用（終了）

本作の龍の軌跡で浮かび上がる金の壁が、なんとなく『柔らかな回廊』という言葉からイメージされるものと同じような気がしたので、タイトルとして勝手に借用させてもらいました。ちなみに、『新約・神詰大全』の表紙の絵も筒井さんが描かれたもので、こちらは筒井さんのご好意で使わせてもらっています。

筒井さんは現在、作曲の勉強のためにフランス留学中で、アコースティック・アストゥーリアスの活動も休止中なのが残念なところです。早く復帰して、『ベタスプレンデス』や『ルカ組曲』など、ロックが本業の大山さんが「エグイ」と降参するような楽曲を提供してくれることを期待しています。

★　昨年の長編部門を「矢絣Ⅱ」で受賞した作者が２年続けて１位を獲得。「矢絣Ⅱ」は双裸玉で本作は裸玉とまさに繋がっていたかのような流れです。３年目の今年は果たして・・・期待が膨らみます。

橋本孝治　１位

ルールは作るものではなく生まれるもの。この作品のように自明でない規則性が自発的に生成される手順を見ると、将棋盤がまるで宇宙のように見えます。長手数裸玉の傑作です。

変寝夢　２位

序と収束が絡み合っていないと話にならないのだが、それでもいざそれを実現されるとビックリしてしまう。プロブレムの Sentinelles の様な感じもした。

上谷直希　１位

自然美の結晶。

橘圭伍　３位

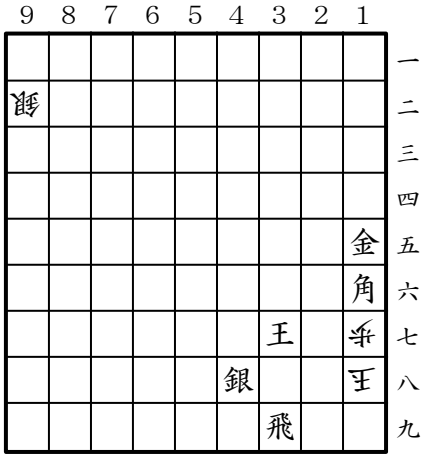
盤上に描かれる美しい模様。

たくぼん　２位

解くのは根性があれば解くことが出来るがこれを創るのは才能が必要でしょう。素晴らしい。

２位　長 16　上田吉一　2013/10
第 57 回 WFP 作品展　57-10
PWC 協力自玉詰　102 手

12pt

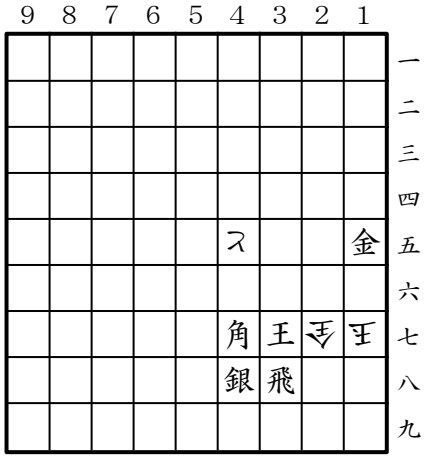


持駒 なし

受方持駒：なし

38 飛 19 玉 18 飛 同歩成/17 飛 同飛/17 と 29 玉 38 角 18 玉/29 飛 27 角 29 玉/18 飛 28 飛 同と/17 飛 18 角 19 玉 72 角生 18 と 同飛/17 と 29 玉 83 角生 同銀/92 角 28 飛 19 玉 29 飛 18 玉 81 角生 29 玉/18 飛 28 飛 同と/17 飛 18 角生 19 玉 63 角生 18 と 同飛/17 と 29 玉 74 角生 同銀/83 角 28 飛 19 玉 29 飛 18 玉 72 角生 29 玉/18 飛 28 飛 同と/17 飛 18 角生 19 玉 54 角 18 と 同飛/17 と 29 玉 65 角 同銀/74 角 28 飛 19 玉 29 飛 18 玉 63 角生 29 玉/18 飛 28 飛 同と/17 飛 18 角生 19 玉 45 角 18 と 同飛/17 と 29 玉 56 角 同銀/65 角 28 飛 19 玉 29 飛 18 玉 54 角 29 玉/18 飛 28 飛 同と/17 飛 18 角 19 玉 36 角 18 と 同飛/17 と 29 玉 47 角 同銀生/56 角 28 飛 19 玉 29 飛 18 玉 45 角 27 と 同角/45 と 29 玉/18 飛 38 角 同銀生/47 角 28 飛 19 玉 29 飛 18 玉 28 飛 17 玉 27 飛 同銀成/38 飛 まで 102 手

詰上図



持駒 なし

受賞コメント　上田吉一

大塚播州さんの曼荼羅家にある分類の内、敵駒を呼ぶパターンは以下の２つあります。１．限定打を打って合駒を呼ぶパターン２．鋸引きを使って呼ぶパターン。この２つは既にかしこで発表されているので、かしこで発表されていない開き王手を利用して呼んでくるパターンを目指して創作したもの。

★　まさに PWC ならではの趣向。普通詰将棋では見られない特徴で見事に軌跡を描いている。今年もたくさんの発表を期待しています。

変寝夢　１位

ＰＷＣも行き所のない駒ばかりだな、と思っていたらガツンと飛び込んできた。氏の成銀の作品にも相当びっくりしたが、そこから３０数年経った今もまた同じような体験をしたことにびっくり。

上谷直希　２位

まばゆいばかりの完成度です。もし仮に趣向部分を思いついたとしてもこうもうまくはまとめられません。

橘圭伍　２位

PWC で完全に新しい世界を見せてくれた本作品が今年の WFP 上の氏作中最高の作品だと思っています。

たくぼん　次点

手前で止まるかのような角移動、そして透過してまだ戻る不思議な軌跡の趣向作。

3位　長10　橋圭伍　2013/8
第55回WFP作品展　55-13　「世界線」
キルケ協力自玉詰　180手

7pt

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
馬		全		龍					一
		圭		歩	と			馬	二
王	歩		と	歩	歩		歩	香	三
								玉	四
銀									五
							香		六
					歩	金	金	桂	七
					桂	桂	銀	歩	八
									九

持駒 香
受方持駒：なし

15香 同玉/19香 16金 同玉/49金 27銀 同玉/39銀 37馬/41金 16玉 27馬 15玉 16馬 14玉 15馬 同玉/88角 33角成 16玉 34馬 27玉 45馬 37玉 55馬 27玉 54馬 同杏/88角 28銀 16玉 27銀 15玉 16銀 14玉 15銀 同玉/39銀 33角成 16玉 34馬 27玉 45馬 37玉 55馬 27玉 54馬/11香 同と/88角 28銀 16玉 27銀 15玉 16銀 14玉 15銀 同玉/39銀 33角成 16玉 34馬 27玉 45馬 37玉 55馬 27玉 54馬/53歩 37玉 64馬 27玉 63馬 同圭/88角 28銀 16玉 27銀 15玉 16銀 14玉 15銀 同玉/39銀 33角成 16玉 34馬 27玉 45馬 37玉 55馬 27玉 54馬 同圭/88角 28銀 16玉 27銀 15玉 16銀 14玉 15銀 同玉/39銀 33角成 16玉 34馬 27玉 45馬 37玉 55馬 27玉 54馬/21桂 37玉 64馬 27玉 63馬 37玉 73馬 27玉 72馬 同全/88角 28銀 16玉 27銀 15玉 16銀 14玉 15銀 同玉/39銀 33角成 16玉 34馬 27玉 45馬 37玉 55馬 27玉 54馬 37玉 64馬 27玉 63馬 同全/88角 28銀 16玉 27銀 15玉 16銀 14玉 15銀 同玉/39銀 33角成 16玉 34馬 27玉 45馬 37玉 55馬 27玉 54馬 同全/88角 28銀 16玉 27銀 15玉 16銀 14玉 15銀 同玉/39銀 33角成 16玉 34馬 27玉 45馬 37玉 55馬 27玉 54馬/31銀 37玉 64馬 27玉 63馬 37玉 73馬 27玉 72馬 37玉 82馬 27玉 81馬 37玉 91馬 同龍/88角 まで 180手

詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
龍					全	銀	桂	香	一
				歩	と			馬	二
王	と			歩	歩		歩	香	三
									四
銀									五
							香		六
					歩	玉		桂	七
	角				桂	桂		歩	八
					金	銀		香	九

持駒 なし

受賞コメント　橋圭伍

キルケ創作の切っ掛けとなった構想が10年以上掛けて図面となったのでそれだけで満足です。当時、妥協せずに創作するように応援？して頂いた方には感謝しています。今後は、創作活動・解答活動を縮小するようになりますが細々と参加していきたいと思います。

★　昨年キルケ、PWCの作品をたくさん世に送り出した作者の総決算とも言える1作。難解な作品もありましたが構想がしっかりしていて解答者を飽きさせない所がさすがと言えます。

橋本孝治　3位
人間が一つのルールを熟知するには長い時間が掛かります。でも掛けた時間と手間の分、内容は深くなります。フェアリーというと、何が何でも新しくなければいけないという論調に流されがちですが、フェアリーにおいても熟成された作品を見る楽しみがあることを、この作品は教えてくれます。

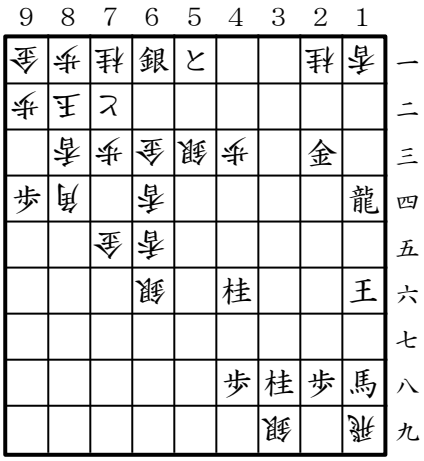
変寝夢　次点
奇跡ではなく、「読み」を感じさせた本作にも1票。

上谷直希　3位
面白い！まさしくつくりものという感じで、知的好奇心をくすぐられます。

たくぼん　3位
前に進んでいくさまがRPGみたいでした。

4位　長13　荻江香木　2013/9
第56回WFP作品展　56-12
協力詰　2571手

6pt



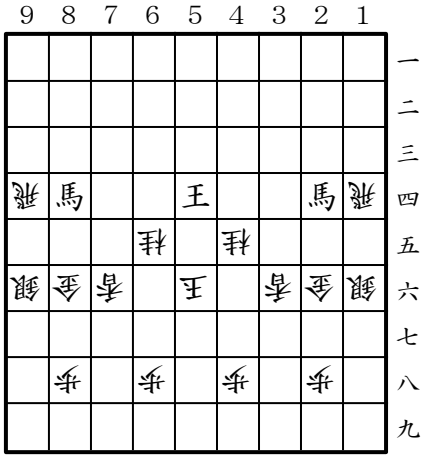
持駒 歩7

手順はWFP65号をご覧ください。

たくぼん　1位
今期一番解図していて楽しめた（苦しめられた）長編が本作。裏道の発見は歓喜の一瞬でした。
橘圭伍　次点
コメントなし

4位　長17　神無七郎　2013/5
Fairy of the Forest #35-03
協力詰　53手

6pt



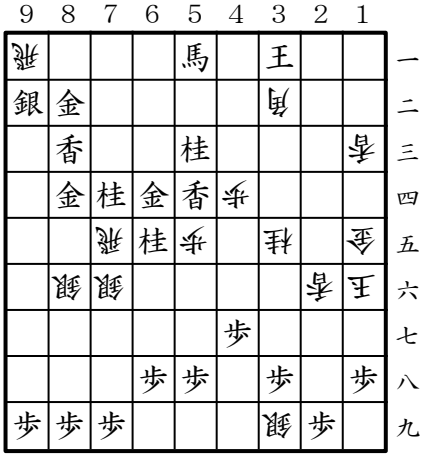
持駒 歩7

57歩 同桂左成 34馬 46玉 47歩 同成桂 24馬 56玉 57歩 同桂成 74馬 67玉 34馬 77玉 44馬 78玉 34馬 67成桂 79歩 77玉 78歩 同成桂 44馬 67玉 34馬 57玉 24馬 46成桂 58歩 67玉 34馬 66玉 44馬 55桂 84馬 56玉 34馬 45成桂 74馬 46玉 47歩 同桂生 64馬 55桂 24馬 56玉 74馬 66玉 67歩 同桂生 84馬 56玉 57歩 まで 53手

酒井博久　1位
様式美とパズル性の融合。
橘圭伍　次点
コメントなし

6位　長14　荻江香木　2013/9
第56回WFP作品展　56-13　「BATACO」
協力詰　4247手

5pt



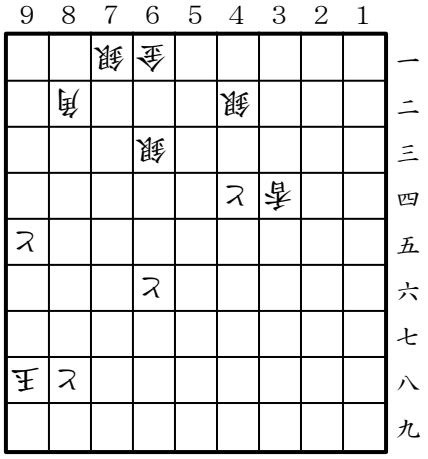
持駒 なし

手順はWFP65号をご覧ください。

橋本孝治　2位
「金鋸」×「寿限無」なんて９×９の盤に収まるはずがない――普通ならそう考えて創作に手を付ける前にやめてしまうものですが、これに挑み、実現してしまったことに驚きます。同時に行われた「寿限無」に見られた歩下げ機構の系統的研究にも大きな価値があると思います。
変寝夢　次点
長手数に１票だが、正直下段の歩の並びをみると・・。同じ理由でかしこの扇形の龍追いも苦手。
たくぼん　次点
構想、手数がすごい。超長編解図は解答者冥利に尽きます。

6位　長19　神無七郎　2013/6
JIGSAW BOX　＃08-01
取禁対面協力詰　83手

5pt



持駒 桂

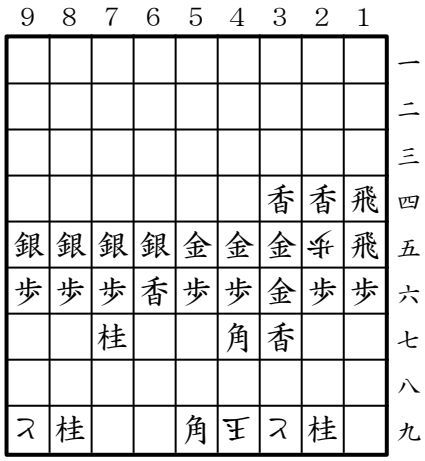
89桂 87玉 79桂 76玉 67桂 65玉 57桂 54玉 45桂 43玉 55桂 52玉 43桂生 62玉 54桂生 72玉 62桂生 83玉 72桂生 74玉 83桂生 64玉 56桂生 73玉 64桂 83玉 75桂 72玉 83桂生 62玉 74桂生 73飛 54桂 72玉 62桂生 83玉 72桂生 74玉 83桂生 75玉 74桂生 86玉 78桂 85玉 86桂 77玉 74桂 67玉 79桂 56玉 67桂 45玉 57桂 56飛 37桂 54玉 45桂 43玉 55桂 52玉 43桂生 62玉 54桂生 72玉 62桂生 83玉 72桂生 74玉 83桂生 75玉 74桂生 86玉 78桂 85玉 86桂 77玉 74桂 87玉 79桂 78角 57桂 96玉 97桂 まで 83手

橘圭伍　1位

混戦過ぎて泣ける今期ですが第1位にはこれを押します。恐らく、大半の人が忘れていて投票しないでしょうし。並べるだけで楽しめるそんな作品で是非、後世に分かるようにしておきたいです。

8位　長18　たくぼん　2013/5
Fairy of the Forest #35-04
協力詰　95手

3pt



持駒 なし

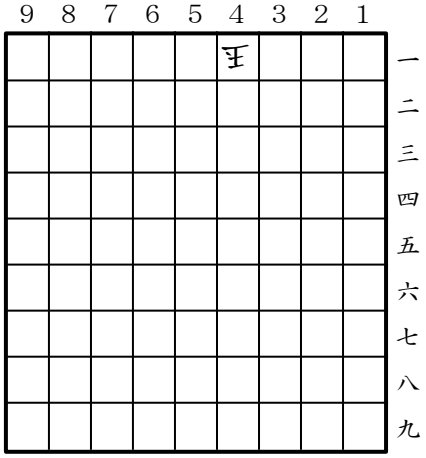
38角 58玉 49角 69玉 58角 79玉 68角 89玉 67角 78歩 同角 88玉 79角 77玉 88角 68玉 69歩 59玉 77角 68歩 同角 49玉 67角 58歩 同角 38玉 49角 同と 39歩 同玉 57角 48角 同角 同と 17角 28角 同角 49玉 27角 38歩 同角 58玉 47角 67玉 58角 同と 68歩 57玉 39角 48角 同角 68玉 57角 同と 69歩 59玉 77角 68角 同角 48玉 59角 38玉 39歩 49玉 27角 38歩 同角 58玉 47角 67玉 58角 78玉 67角 同玉 68歩 77玉 67歩 68角 同角 88玉 79角 77玉 88角 67玉 49角 58歩 68歩 同玉 79角 59玉 68角 48玉 59角 47玉 38角 まで 95手

酒井博久　2位

巧妙な伏線を蔵した難解作。

9位　長6　神無七郎　2013/2
第50回WFP作品展　50-8
成禁強欲協力詰　65手

2pt



持駒 銀桂歩16

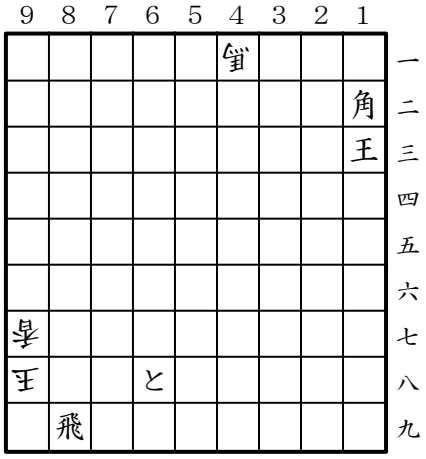
42歩 同玉 43歩 同玉 44歩 同玉 45歩 同玉 46歩 同玉 58桂 45玉 46歩 54玉 66桂 63玉 74銀 62玉 63歩 72玉 73歩 82玉 83銀 73玉 74銀 82玉 83歩 93玉 94歩 同玉 85銀 83玉 84歩 93玉 94歩 82玉 83歩 同玉 84歩 72玉 73歩 63玉 74銀 62玉 63歩 71玉 72歩 同玉 83銀 63玉 74銀 72玉 83銀 62玉 74桂 71玉 72歩 81玉 92銀 72玉 83銀 81玉 82銀 92玉 93歩 まで 65手

変寝夢　3位

思わず機械と人間との関係性を考えてしまった。これの何乗のボリュームがあるものもきっとあるのだろう。命尽きるまでに是非見てみたいものである。

9位　長24　上田吉一　2013/12
伝統ルールを改変する3
Circe　57手

2pt



持駒 なし

後手持駒：なし

88飛 同玉/28飛 78と 99玉 29飛 98玉 21角成 32馬 99飛 同玉/28飛 22馬 33馬 29飛 98玉 32馬 43馬 99飛 同玉/28飛 33馬 44馬 29飛 98玉 43馬 54馬 99飛 同玉/28飛 44馬 55馬 29飛 98玉 54馬 65馬 99飛 同玉/28飛 55馬 66馬 29飛 98玉 65馬 76馬 99飛 同玉/28飛 66馬 77馬 29飛 98玉 76馬 87馬 99飛 同玉/28飛 77馬 88馬 29飛 98玉 87馬 同馬/88角 99飛 迄 57手

橋本孝治　次点

上田氏のＷＦＰ誌登場は今年度の長編部門の充実に大きく貢献しました。趣向作中心で、どの作品もあまり難解でなかったのも良かったです。中編のＰＷＣ作品が特に印象的だったのですが、長編群では「協力系」でないこの作品が一番好きです。馬を押し付け合う手順の奇妙な感触に加え、収束や序奏に余計な駒がなく、素材そのままで完成されていることも、評価ＵＰの要因です。

橘圭伍　次点

コメントなし

9位　長31　糟谷祐介　2013/12
詰将棋メモ　2014年新春特別出題「茫々馬」
協力詰　11929手

2pt

手順は詰将棋メモ茫々馬解答よりご覧ください。

橋本孝治　次点

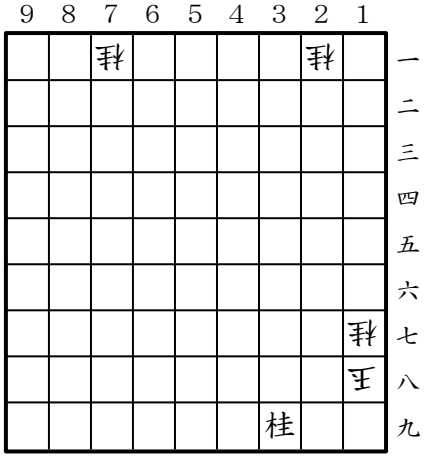
拡大盤を使えば、単に規模が大きいだけでなく、通常の盤では実現できない機構が実現できる…理屈の上では分かっていても、それを実行に移せる人がどれだけいるでしょう？そんな苦難をものともせずに大海に乗り出した勇気に１票を入れます。作品だけでなく拡大盤に関する考察も（少し脱線も多いですが）面白かったですね。長編に関する系統的分析、フェアリーも含めた創作論は共に非常に少ないので、もっと多くの人に手掛けて欲しいと思います。

たくぼん　次点

とにかく楽しめた。余詰指摘が出来て完全作として修正となり解図した甲斐がありました。こういう作品にも賞を上げる機会が欲しい所です。

12 位　長 7　神無七郎　2013/3
第 51 回 WFP 作品展　51-3
成禁協力詰　61 手

1pt



持駒 歩10

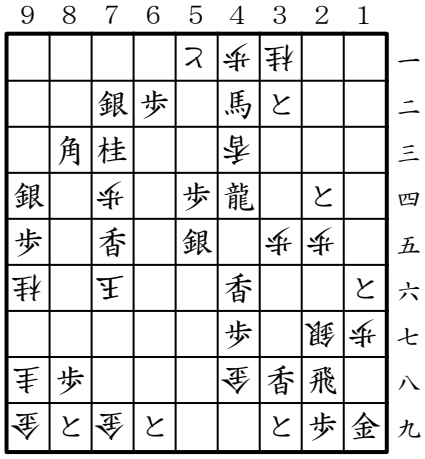
19 歩 28 玉 29 歩 37 玉 38 歩 36 玉 37 歩 35 玉 47 桂 44 玉 45 歩 54 玉 55 歩 63 玉 64 歩 53 玉 54 歩 43 玉 55 桂 52 玉 53 歩 51 玉 63 桂 同桂 52 歩 62 玉 63 歩 61 玉 62 歩 52 玉 53 歩 43 玉 44 歩 同玉 45 歩 35 玉 36 歩 同玉 37 歩 27 玉 28 歩 37 玉 29 桂 26 玉 27 歩 25 玉 17 桂 24 玉 36 桂 33 玉 25 桂 32 玉 33 歩 同桂 44 桂 41 玉 33 桂 42 玉 54 桂 51 玉 52 歩 まで 61 手

変寝夢　次点

どんな理屈で完全限定されているのか、と考えてしまった。玉を再度上げる構成が面白かった。

12 位　長 12　たくぼん　2013/9
第 56 回 WFP 作品展　56-11
強欲協力詰　77 手

1pt



持駒 なし

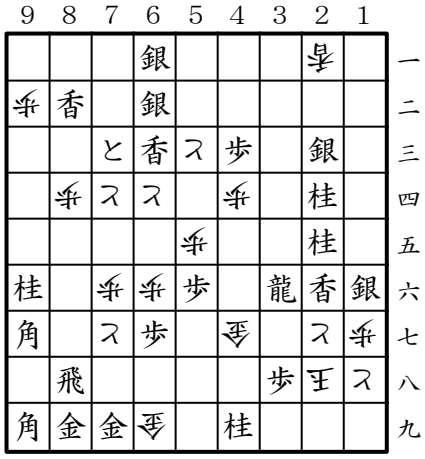
85 銀 同玉 74 角成 95 玉 96 馬 同玉 41 馬 同と 97 歩 同玉 98 と 同金 89 桂 同金上 98 歩 88 玉 79 と 98 玉 89 と 同玉 88 金 同玉 87 金 同玉 79 桂 77 玉 66 銀 同玉 55 龍 同玉 67 桂 54 玉 63 銀生 同玉 55 桂 62 玉 61 桂成 同玉 71 香成 同玉 63 桂生 61 玉 51 桂成 同玉 41 と 同玉 43 香生 同桂 42 香 同玉 33 と 同玉 35 香 同桂 34 歩 同玉 25 と 同玉 27 飛 同桂生 36 銀 同玉 37 歩 47 玉 48 と 同玉 39 金 37 玉 28 金右 26 玉 17 金 同玉 18 歩 同玉 19 歩 同桂成 28 金 まで 77 手

橘圭伍　次点

コメントなし

12 位　長 30　たくぼん　2013/12
強欲な世界 6
強欲協力詰　85 手

1pt



持駒 なし

27 龍 39 玉 28 龍 49 玉 48 飛 同金 19 龍 38 玉 18 龍 同歩生 27 銀 同玉 28 歩 26 玉 27 歩 25 玉 26 歩 24 玉 25 歩 同玉 34 銀生 同玉 35 歩 43 玉 53 銀成 同玉 64 角 同玉 74 と 同玉 75 歩 63 玉 72 銀生 同玉 84 桂 82 玉 92 桂成 同玉 93 歩 同玉 94 歩 同玉 95 歩 同玉 77 角 同歩生 96 歩 同玉 97 歩 同玉 88 金直 86 玉 77 金 75 玉 66 金 64 玉 55 金 53 玉 44 金 同玉 45 歩 同玉 46 歩 56 玉 57 歩 67 玉 68 歩 同金 同金 同玉 59 金 57 玉 48 金 46 玉 37 金 35 玉 26 金打 同香 同金 同玉 29 香 28 金 同香 17 玉 27 金 まで 85 手

橋本孝治　次点

たくぼんさんの煙詰特集の中から一番気に入った作に本作に投票します。純煙でなく準煙ですが、冒頭の手順から難しい紛れがあり、収束に密接に絡む伏線と相まって、かなり難解でした。強欲煙も数が多くなったので、手順のメリハリで付加価値を高めることが今後ますます求められます。

【長編部門・総評】

橋本孝治

今年の長編は豊作の上、どれも個性的で無理に順位を付けるに忍びない作品が並びました。ですから今回の投票は、短編のように「好みの差」で選んでいます。話はそれますが、糟谷氏の作品はぜひ看寿賞の「特別賞」候補にノミネートされて欲しいですね。「特別賞」は他の賞に漏れた作に賞を与える「次点賞」とするより、この作のように通常の規格を外れた作品を選考対象とする方が良いと思います。

酒井博久

ここはＦＯＦからは２作。１位に推すまでは躊躇されるのですが、他の大作・力作を見ていない以上、これらを１位・２位とします。

変寝夢

人間の力が及ばない奇跡が感じられる作品が好きだが、それでも長１６は外せない。

上谷直希

今期は長編にもっとも現代的フェアリーの醍醐味を感じました。

橋圭伍

今年はどうしようかと思う程素晴らしい作品だらけです。普段は次点を入れないのですが今回は大量の次点を入れさせて頂きます。本当に豊作過ぎると困りますね。

【推理将棋・プルーフゲーム　短編部門】

投票者：DD++、たくぼん　計２名

新しく設けた推理将棋・PG 短編部門ですが、周知が上手くいかず投票者２名と寂しい結果となりました。

---

1 位　推 14　チャンプ　2013/6
詰将棋メモ　第 67 回出題　第 2 番
歩の行進　14 手

10pt

「はい、この不成の初王手で詰みだね。」
「君（後手）は１つの筋の歩の手しか指してないのに、たった 14 手で負かされちゃったや。」

「歩を笑う者は歩に泣くってね（笑）」
「初手に 68 の升目へ指した手がマズかったかなぁ？」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

68 飛 14 歩 48 玉 15 歩 38 玉 16 歩 28 玉 17 歩不成 同香 16 歩 19 玉 17 歩不成 28 銀 18 歩不成まで 14 手

詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	一
	飛						角		二
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩		三
									四
									五
									六
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩		七
	角		飛				銀	歩	八
香	桂	銀	金		金		桂	王	九

持駒 歩

受賞コメント　チャンプ

過去２年連続で授賞（いずれも２位）させて頂いておりましたが、今回の１位はこれまでにも増して望外の出来事で戸惑っております。

拙作にしては珍しく軽いミスディレクションを狙った作品ではありましたが、予想外に初手▲68 玉から考えられた方が多数おられたことを知り驚いたのを覚えています。ただ、そのような作品が１位に選ばれて良いのだろうかと申し訳ない思いもあります。改めて創り手と解き手では評価が異なるというのを痛感しました。

解答ならびに投票して頂いた方々に厚く御礼申し上げます。今後もたくさんの方が悩み喜んで頂けるような作品を創作していきたいと思います。

★２名の投票ですが共に１位を獲得しダントツの１位となりました。作者の意とはやや異なるようですが、解図後のインパクトが大で解答者の心には響いたようです。

DD++　１位

ミスディレクションがここまで綺麗に炸裂した問題は2013年に限らず見たことが ありません。

たくぼん　１位

この初手はやられました。詰上がり、手順も見事で言うことありません。

２位　推３　渡辺秀行　2013/2
詰将棋メモ　第52回出題　３番
歩と駒成　10手

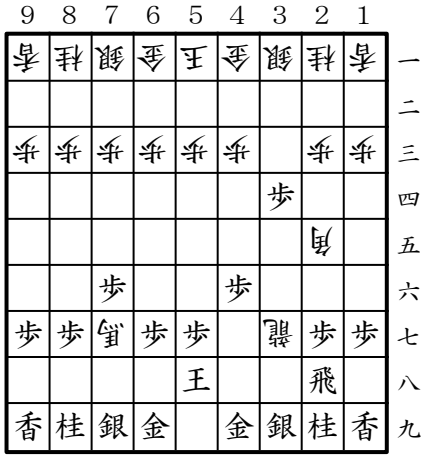
5pt

「さっきの将棋 34 歩に対して成る手で応じていたよね」
「うん。３回目の成る手より後にも歩の着手があったよ」
「それで結局どうなったの？」
「10 手目 25 の着手で詰んだよ」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

76 歩 32 飛 33 角成 同飛 58 玉 37 飛成 34 歩 77 角成 46 歩 25 角 まで 10 手

詰上図



持駒 なし

受賞コメント　渡辺秀行

ご投票頂いた方々ありがとうございます。H25の年賀詰ということで、36 角で良いところをわざわざ条件によって 25 角までの詰にすることで先手 34 歩打に意味を持たせたものです。先手 34 歩打がない場合に丁度作意と双子の紛れができたのがこの作品の面白いところでした。

★　34 歩が先手の手と考えるのはひねくれものだけです。問題文が見事でした。

DD++　２位

この 34 歩は強烈でした。

たくぼん　３位

この 34 歩には参りました。印象に残る１手と言えばこの１手。

３位　推 55　DD++　2013/6
WFP５周年記念コンクール　推４
眠れぬ獅子　12 手

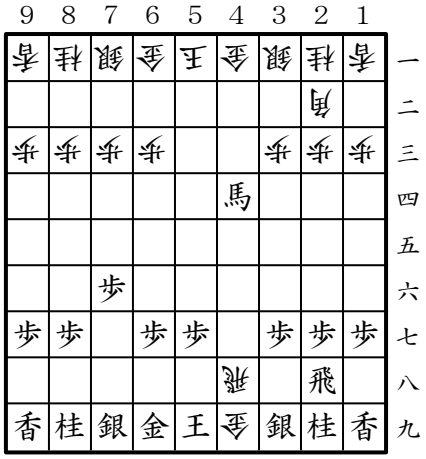
3pt

「――まで、第五期迷人戦は 12 手で迷人が挑戦者玉を詰ませて迷人位を防衛しました。この将棋を振り返ってどうでしょうか先生」
「興味深い手がたくさんありましたね。この 44 の手、この 44 の手、あとはこの 44 の手やこの 44 の手も研究してみたい手です」
「その中でも勝敗を分けた１手はどれになるのでしょう」
「それはこの４手のどれでもなく、11 手目の『44 角成』ではないでしょうか。これで急に先

手大変になりましたね」

76 歩 44 歩 同角 42 飛 53 角生 47 飛生 44 歩 同飛生 48 金 同飛生 44 角成 49 金 まで 12 手

詰上り図



持駒 歩

受賞コメント　DD++

作者としては 11 手目を露骨に明かしている点に不満の残る作品だったのですが、思わぬ好評で驚いています。ありがとうございます。

★　徹底した手順がインパクト大です。私の投票だけですので申し訳ないのですが好きな１作です。

たくぼん　２位

私も昔 666 に拘った事がありましたが、この徹底した 44 に脱帽です。

4 位　推 18　チャンプ　2013/2
詰将棋メモ　第 57 回出題　3 番
半分は 9 筋の着手　12 手

2pt

「さっきの 12 手で詰んだ将棋、半分の 6 手は 9 筋への着手だったって？」
「うん、後手の人が 2 手続けて王手で駒を打ってたよ。」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

96 歩 94 歩 97 桂 93 桂 85 桂 同桂 97 角 同桂不成 68 王 76 桂 78 玉 89 角 まで 12 手

DD++　３位

シンプルな条件で驚くような詰め上がり。すばらしいです……余詰返送された回数を除けば。

【推理将棋・プルーフゲーム　短編部門総評】

DD++

素晴らしい作はたくさんありましたが、ベスト 3 に絞ってみました。

【推理将棋・プルーフゲーム　中長編部門】

投票者：橋本孝治、橘圭伍、DD++、たくぼん 計４名

こちらは WFP の作品が多いせいか、４名の投票がありました。上位は混戦でした。

---

1 位　推 47　一乗谷酔象　2013/6
第 57 回 WFP 作品展　57-12
明日があるさ　70 手

10pt

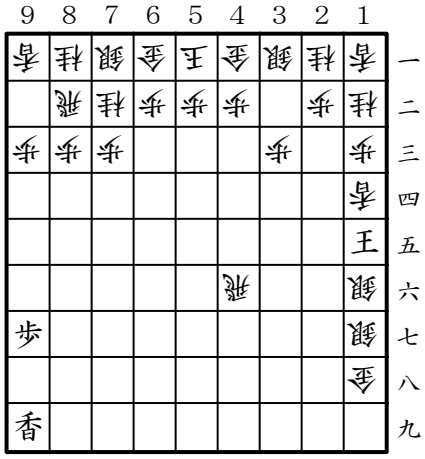
「駒をぼろぼろ取られた後ぺたぺた打たれて 70 手で負かされたよ」
「何枚ぐらい駒を取られたの？」
「連続王手で 17 枚も取られたよ」
「そんなに駒を取られて未だ投げずに粘ったのかい？」
「そうなんだ。でも、取る駒がなくなった後、今度は 17 回続けて駒を打つ連続王手をかけられたんだ。初手の着手地点に飛車を打たれる手もあった。最後詰まされたとき一つの筋には駒が８枚もあった」
「残念な一局だったね。でも、駒柱詰を免れたのがせめてもの救いだ。明日があるさ」

さて、どんな将棋だったのでしょうか？

46 歩 34 歩 36 歩 77 角生 68 銀 同角生 48 玉 57 角生 47 玉 46 角成 58 玉 36 馬 68 玉 69 馬 77 玉 87 馬 66 玉 88 馬 77 桂 同馬 57 玉 67 馬 48 玉 49 馬 37 玉 27 馬 46 玉 28 馬 47 玉 29 馬 37 玉 19 馬 28 銀 同馬 26 玉 17 馬 同玉 18 金 26 玉 17 銀 25 玉 16 銀 34 玉 35 金 43 玉 42 歩 53 玉 64 角 63 玉 62 歩 64 玉

72 桂 55 玉 54 歩 同玉 53 歩 同玉 52 歩 44 玉 46 飛 35 玉 34 歩 同玉 33 歩 23 玉 22 歩 24 玉 12 桂 15 玉 14 香 まで 70 手

詰上図



持駒 角2金歩8

受賞コメント　一乗谷酔象

本作品は、17 枚連続駒取りの後 17 枚連続駒打ちの手順に条件付けしたものです。70 手の長手数にも関わらず、趣向問題を僅か 4 条件で限定できたことが幸運でありました。これまでの拙作長編は殆どがてんこ盛りの条件付けだったのですが、趣向＋僅かの鍵条件の本作品が評価されて光栄に思います。本作品で難しいのは 8 枚の歩打ち手順ですが、前作「人生いろいろ」での検討が活き 5 つの筋で 8 枚歩を打つ基本手順が決まりました。1 筋の準駒柱で手順が狭まって、最後に初手と飛金の非限定が残りましたが、幸いにも条件 4)が両者を同時に限定可能な一石二鳥の鍵条件になり作品が完成しました。解図に挑戦された方々、投票してくださった皆様に感謝いたします。

★今期の推理将棋長編は一乗谷氏の作品が全て質が高く難解という中 1 位となったのは明日があるさでした。いつも思うのですが一乗谷氏の作品群はもっとたくさんの方に尻込みせず挑戦して頂きたいですね。

橋本孝治　1 位

「4 手目から 17 連続王手駒取り」という、究極の条件を推理将棋として仕立てた作品。「準駒柱」という条件を上手く使って、取った駒を消費する後半部にも抜かりがありません。正答者ゼロは残念でしたが、一つの命題を徹底的に掘り下げると、自然に難度も上がるのでしょう。昨年度の推理将棋部門でもっとも印象に残った作品です。

たくぼん　1位

17 枚連続駒取りの手順が見つけられず討ち死にしましたが、解を見て素晴らしい手順に感嘆しました。

2 位　推 44　DD++　2013/8
第 55 回 WFP 作品展　55-14
午後のマネ将棋　55 手

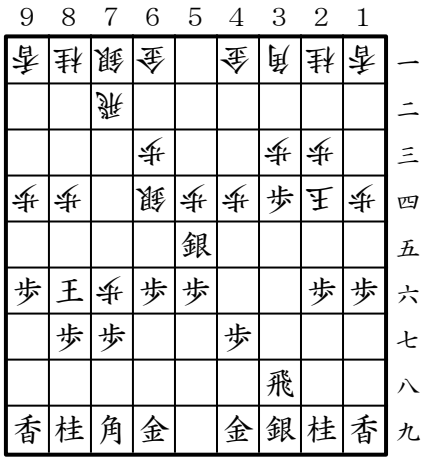
8pt

「昨日午後、道場で指してたら真似将棋を仕掛けられたんだ」
「それって 1 手負けるだけだと思うんだけど。でも君のことだ、ただでは済まさなかったんだろう？」
「ああ、もちろん屈辱的になるよう 55 地点の手で詰ませたよ。それも 55 手目にして 55 ヶ所目の着手だった」
「あいかわらず君は意地が悪いなあ。どんな手順だったんだい？」
「駒取りはなかったね。着手した駒は 5 種の生駒だけで、最終手以外は安い順に着手したよ。歩は互いに自分から見て右側にあるものから順に着手して、玉の手は歩の手より多かった。飛車の手は縦に動く手が横に動く手より 4 手多かったね。さあこれでわかるだろう？」
「……あいかわらず君は意地が悪いなあ」

さて、どんな将棋だったのだろうか。

16 歩 94 歩 26 歩 84 歩 36 歩 74 歩 35 歩 75 歩 34 歩 76 歩 56 歩 54 歩 66 歩 44 歩 96 歩 14 歩 68 銀 42 銀 57 銀 53 銀 46 銀 64 銀 79 角 31 角 27 飛 83 飛 28 飛 82 飛 18 飛 92 飛 17 飛 93 飛 37 飛 73 飛 38 飛 72 飛 48 玉 62 玉 59 玉 51 玉 58 玉 52 玉 67 玉 43 玉 78 玉 32 玉 88 玉 22 玉 98 玉 12 玉 97 玉 13 玉 86 玉 24 玉 55 銀 まで 55 手

詰上図



持駒 なし

受賞コメント　DD++

55 手にするためにくっつけた玉と飛の手順が好評価の理由なのでしょうね。こういう手順で元の位置に戻る手の意外性がよかったのかな？。

★　超難解ではないところが良いところでしょうか。

橋本孝治　2位

「真似将棋で最終手 55」、この条件だけで充分作品価値がありますが、55 手という比較的余裕のある手数を有効に使って、推理将棋らしい「余分な手順」を上手く組み込んでいます。

橋圭伍　1位

一乗谷氏の 2 作品の起点となった本作品を今年の 1 番に押したいと思います。作品も分かりやすい条件でシンプルに出来ています。

3位　推 45　一乗谷酔象　2013/9
第 56 回 WFP 作品展　56-14
堂々巡りの果て　56 手

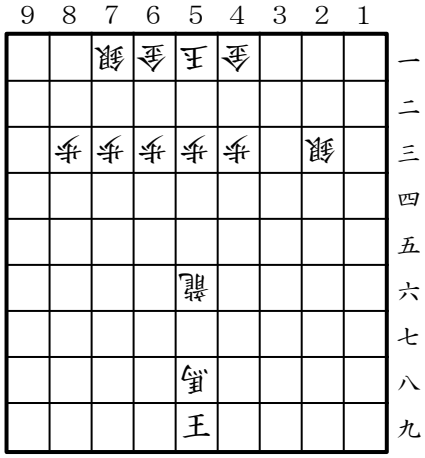
7pt

「全駒で勝ったよ。
たったの 56 手で詰ましちゃった」
「ホントかい？どんな将棋だったんだい」
「動いた金は全て大駒に取られたし、不成の手は 1 回だけだったよ。後手の角が動き出す前に先手の駒打ちが 3 回もあって序盤は先手ペースで進んだ。なんとか、打たれた駒は全部『同Ｘ』で取ったけどね」
「相手は抵抗しただろ」
「ああ、先手は指し手の順番に不思議なこだわりがあって、先手の大駒着手は必ず歩突きと歩突きの間だった。『歩を突く手、大駒の手、歩を突く手』の順番で指したってことだ。癪に障ったから、歩も大駒も全部『同Ｘ』で取ったけどね」
「相変わらず君は意地悪いな。それから？」
「もう一つ、先手の金の着手は必ず『歩を突く手、香の手、金の手』の順番に指してきたんだ。歩も香も金も全部『同Ｘ』で取ったけどね」
「全く強欲な奴だな。まだあるんだろ？」
「強いて言えば 4 手目から最後まで後手は『同Ｘ』の手を指し続けたってことかな」

さて、どんな将棋だったのだろうか。

76 歩 32 飛 33 角成 同飛 36 歩 同飛 16 歩 同飛 26 歩 同飛 13 香成 同桂 25 歩 同桂 17 歩 同香成 同桂 同桂成 32 香 同銀 66 歩 同角 75 歩 同角 96 歩 同飛 23 飛成 同銀 46 歩 同飛 93 香成 同桂 48 金 同飛生 28 歩 同圭 同銀 同飛成 85 桂 同桂 97 歩 同桂成 同桂 同香成 88 桂 同杏 同銀 同龍 86 歩 同龍 56 歩 同龍 57 香 同角成 58 金 同馬 まで 56 手

詰上り図



持駒 なし

受賞コメント　一乗谷酔象

本作品は同の手を連続する同々巡り問題です。最後詰みとなる最長数を更新(54 手→56 手)でき 3 年越しの謎が氷解しましたので、個人的に印象深い作品で今回の入賞をたいへん嬉しく思います。同々巡りの条件付けは、道標条件(何手目着手)とする方が限定も解くのも楽なのですが、本作は敢えて道標を入れず純粋な謎解き要素の強い推理将棋問題としました。条件 3)6)が最も工夫したつもりでしたが、結果的に条件 3)が解答挑戦された方(たくぼんさん)を悩

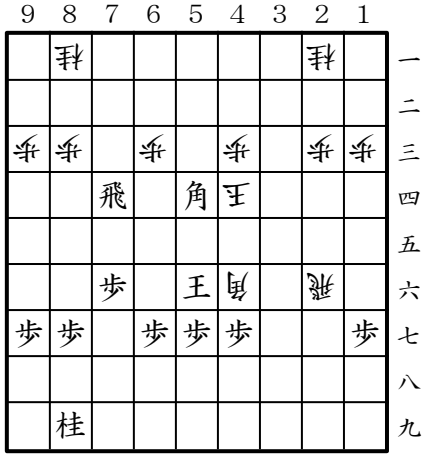
ませることになりました。

★　堂々巡りの集大成。作者の思いがひしひしと感じられる１作です。

DD++　１位
数年がかりでついに 56 手で詰みが実現。すばらしい。
たくぼん　3位
謎が見破れなかった。56 手詰みまで辿り着けず無念。

4 位　推 51　一乗谷酔象　2013/7
王手が 9 割　第 3 問
王手が 9 割詰　570 手
6pt

【条件】
1）実戦初形から指し始め、途中図を経由して、570 手で詰んだ。途中図は 98 手目 44 同玉まで(67 回目の王手から逃れた局面)
2）同一局面なし



持駒 金3銀3香3歩3　（途中図）

手順は WFP65 号をご覧下さい。

DD++　２位
かなり長時間費やしても 570 手には届きませんでした。完敗。
橘圭伍　2 位
結果稿が楽しかったです。こういう創作競争は見ていて楽しい。
*橘さんは王手が9割全体への投票でしたが、この作品に加点しました。(順位に変動がないので)

5 位　推 42　一乗谷酔象　2013/5
第 53 回 WFP 作品展　53B-7
泣く金、マネ゛ゲーム　79 手
3pt

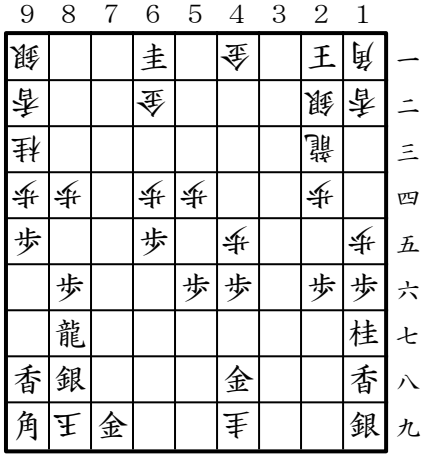
・「マネーゲームに手を出したって。危ない奴だなあ」
☆『真似将棋の相手をしただけだよ』
・「初めのうちは、不況だから景気を様子見てから、慎重に商品(タマ)を比較した上でお金を銀行に預けていたのに」
☆『初手から歩香桂、玉飛角金銀の順に８種の駒を一回ずつ動かしたんだ』
・「後に不況が続いた後、景気が跳ね上がったら、今度はすぐ銀行の金を大きく動かしたね」
☆『後で歩香桂銀金の順に小駒を一回ずつ動かし、その直後に大駒を動かす一連の手順があっただけだよ』
・「連夜に金を動かしたって」
☆『金寄りの手は連続した２回だけで、他に連続して金を動かす手順はなかったよ』
・「空売りを２回やって、頭に来て金を動かしたって」
☆『空成りの手が２回あっただけだよ。２回目空成りのすぐ後に玉頭の歩を突いてから金を動かしたけど』
・「箸も付けないで一人で動き続けたんだって」
☆『一つの駒を８回続けて動かした直後、端の手を指しただけだよ』
・「それなのに太ったんだって」
☆『駒取りは歩取りが２回あっただけだよ』
・「全ての物事は一歩ずつ地道に進めないと痛い目に会うよ」
☆『盤上にある自分の歩を全て右の筋から左の筋の方に順番に各筋１路ずつ前進させる一連の手順もあったよ』
・「せっかく稼いできた金が泣くよ。マネーゲームから早く抜け出さないと」
☆『79 手で 79 箇所着手して 79 金迄。真似将棋は先手が勝ったよ』

さて、どのような将棋だったのでしょうか？

96 歩 14 歩 98 香 12 香 97 桂 13 桂 68 玉 42 玉 38 飛 72 飛 99 角 11 角 48 金 62 金 28 銀 82 銀 85 桂 25 桂 73 桂生 37 桂生 61 桂成 49 桂成 33 飛生 77 飛生 39 飛成 71 飛成 66 歩 44 歩 58 金上 52 金上 16 歩 94 歩 26 歩 84 歩 46 歩 64 歩 56 歩 54 歩 65 歩 45 歩 86 歩 24 歩 95 歩 15 歩 18 香 92 香 17 桂 93 桂 88

銀 22 銀 59 金 51 金 29 龍 81 龍 57 玉 53 玉 47 玉 63 玉 36 玉 74 玉 35 玉 75 玉 34 玉 76 玉 43 玉 67 玉 32 玉 78 玉 21 玉 89 玉 19 銀 91 銀 27 龍 83 龍 87 龍 23 龍 69 金 41 金 79 金 まで 79 手

詰上図



持駒 歩2

たくぼん 2位

解けなかった作品の中で、解きたかったなあと1番思ったのが本作品。まさに作者の読みを打ち破れませんでした。完敗です。

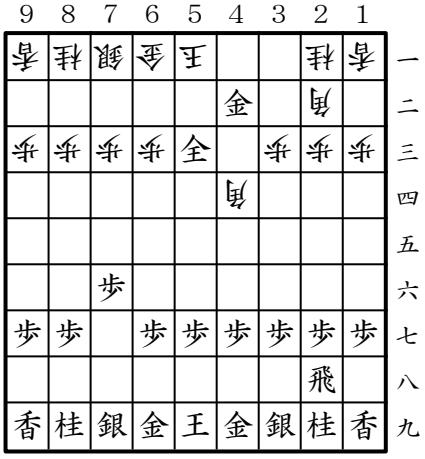
6 位　推 4　渡辺秀行　2013/3
詰将棋メモ　第 64 回出題　1 番
４箇所着手３局（A）　17 手

2pt

A 氏「昨日、最初から最後までたった４箇所しか指さない珍しい将棋を見たんだ」
B 氏「偶然だね、僕もだよ」
C 氏「俺もだ」
A 氏「17 手目に後手玉が詰んだんだけど、駒成が２回あって少なくとも一方は、直前の相手の着手を取る手ではなかったな」
B 氏「僕のは 20 手目に先手玉が詰んだときに、初期配置から先後の向きだけが逆になっている駒があったんだ」
C 氏「俺のは 25 手で詰むまでに『同』と付く着手は５回だったけど不成の着手はなかったね。」
B 氏「うん、僕のは先手は後手の駒成の着手を『同』と取ったんだけど、その駒を打ったら直に後手に『同』と取り返されてそのまま先手が取り返すことはなかったんだ。先手は同じ種類の駒を４連続で着手したよ」
C 氏「俺のは後手が最後から２～４番目に着手した駒は順に、角、金、角だったね」
A 氏「それで後手が最後に着手した駒は?」
C 氏「それは言えないね」

76 歩 44 歩 同角 42 飛 53 角成 44 飛 同馬 42 銀 53 飛 同銀 同馬 42 金 44 銀 53 金 同銀成 44 角 42 金 まで 17 手

詰上図



持駒 歩2

橘圭伍 3 位

メモからは渡辺氏作に投票させて頂きます。最もシンプルな条件で綺麗な手順です。

6 位　推 6　渡辺秀行　2012/11
詰将棋メモ　第 64 回出題　3 番
４箇所着手３局（C）　25 手

2pt

問題文　6 位　推 4 と同じ

76 歩 32 飛 33 角成 同飛 36 歩 同飛 33 歩 76 飛 32 歩成 33 桂 同と 36 飛 32 と 33 飛 同と 32 銀 同と 33 角 36 飛 32 金 33 飛成 76 角 32 龍 36 歩 33 角 まで 25 手

詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	九
							飛		八
歩	歩		歩	歩	歩		歩	歩	七
		角				歩			六
									五
									四
歩	歩	歩	歩	歩	歩	角	歩	歩	三
						龍			二
香	桂	銀	金	王				香	一

持駒 金銀桂

DD++　３位

この手順は目から鱗でした。

【推理将棋総評】

橋本孝治

今回、この部門は２つに分かれていますが、投票したいと思った作が、中長編部門だけになってしまいました。短編をあまり見ていないせいもあると思いますが、私の嗜好として、トリックや意外性より、「ある条件での究極の手順を求める」というタイプの作品を好む傾向があるからだと思います。

DD++

やはり推理長編は一乗谷氏が強い。

橋圭伍

推理将棋自体は余り迷う所はありませんでした。WFP 上で推理将棋の発表が今後増えて行けばよいのですが。

【総評】

酒井博久

他の作品を見る暇がないので、ＦＯＦからのみ選びました。上記理由により、推理・プルーフは投票を棄権します。

★　投票ありがとうございます。良い作品なら酒井氏に投票いただけるかも・・・で FOF 投稿が意外と狙い目かもしれませんね。

上谷直希

やっぱり選ぶとなると相当に好みが出ますね。私に客観的評価は無理だと開き直るしかありません…。

★　お気に入り投票ですので好みで選んで頂いて OK です。

橋圭伍

自作が多かったとはいえ、悩ましかったです。自作に投票するとすれば PWC 協力自玉 STM8 手・強欲協力自玉詰 28 手・「世界線」・「逃避行」となりますかね。前３つは自身の思い入れが深い作品になりますが。今年は早い段階から新しい作者が参入・変寝夢氏のソフトの公開と楽しめる展開が待っていそうです。

★　見事「世界線」が受賞おめでとうございます。今年はいろいろ忙しそうですがフェアリー界の発展に是非協力お願いします。

★　できれば投票者２ケタ位が希望なんですがなかなか難しいです。毎回思うのは作者自身が自作に投票しないので上位候補になった時に若干不利となってしまうと言うこと。作品発表された全ての方が投票頂ければ問題ないのですが強制は出来ません。何か良い案はないでしょうか。

★　ともあれ今回受賞された皆様、急な授賞コメント依頼にもかかわらず対応頂きありがとうございました。また投票頂きました皆さんありがとうございました。また来年投票よろしくお願いします。今年はどんな傑作が誕生するか楽しみです。

Andernachの紹介　　変寝夢

WFPにてAndernachのフェアリー詰将棋を出品させていただきましたが、説明が不足していたため一部の解答者の方を混乱させてしまった部分がありました。この稿にてお詫びさせていただくとともに、改めて説明させていただきたいと思います。

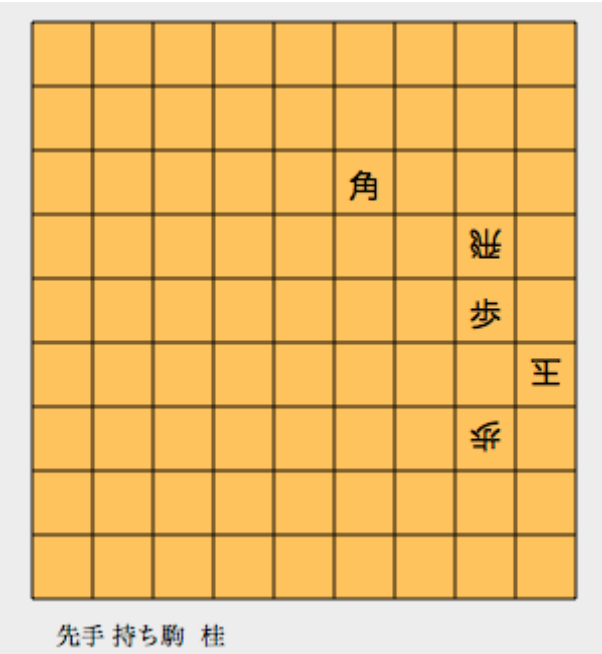
また以下の設定に絶対性はありません。解釈の一つと捉えていただければ結構です。

1. おおまかな説明

一部のケースを除き、駒を取った場合にその駒の所属が変わります。この稿ではその行為を「転」、「転する」と表現することにします。

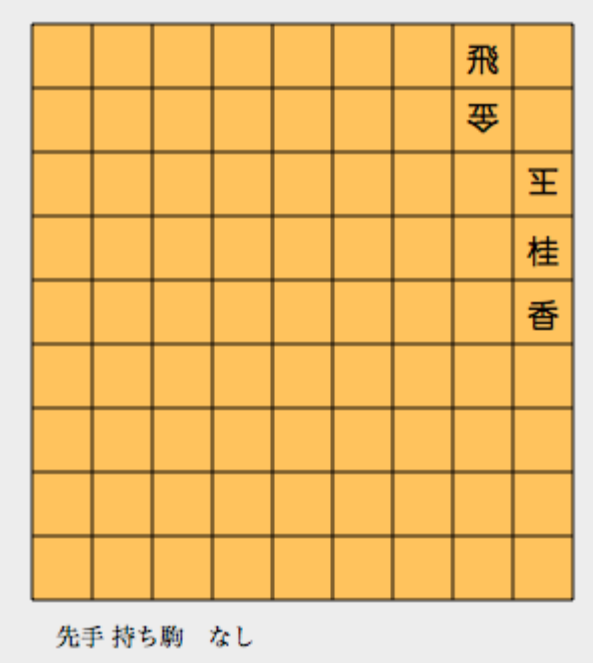
２．全ルール共通

1. 転すると二歩になってしまう場合は、転を行いません。例えば下の図（Andernach協力５手）ですが、正解は、２８桂、同歩成転、２４歩転、１５玉、１６飛までの５手。２手目歩生だとどうなるか？。２筋に先手の歩がいるので転はしない。単に２８歩生です。次に作意同様２４歩としますが、こちらも２筋に後手の歩がいるので転はしません。そして以下１５玉、１６飛と進めると２４が先手の駒なので、２４玉で逃れになります。



2. 転する前に行き所のない駒になる場合でも不成で転できます。次の図（Andernach協力３手）ですが、正解は２２桂生転、１４桂、２３金までの３手。２２桂生とした一瞬行き所のない駒にはなります

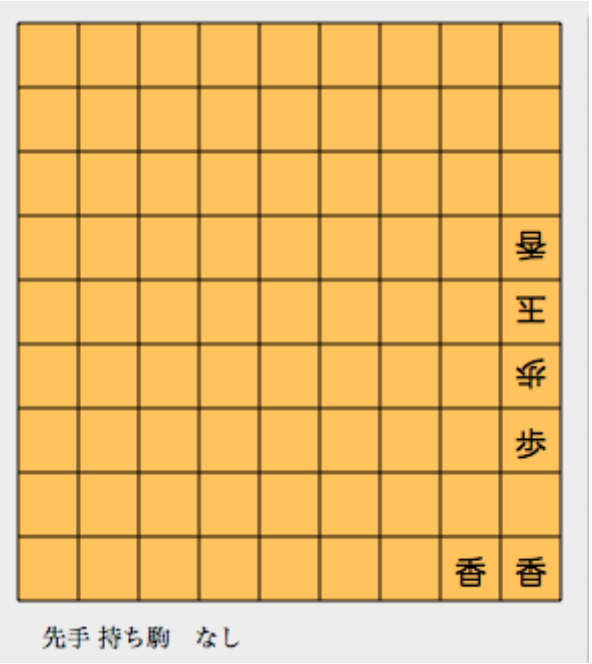
が、転完了までが一つのプロセスと考えて下さい。もちろん初手２２飛成は転するので王手ではありません。



３．他のルールとの併用について

1. キルケ

A. キルケの移動より転の方が早い　次図は、キルケ+Andernachです。１６歩で詰んでいるでしょうか？。



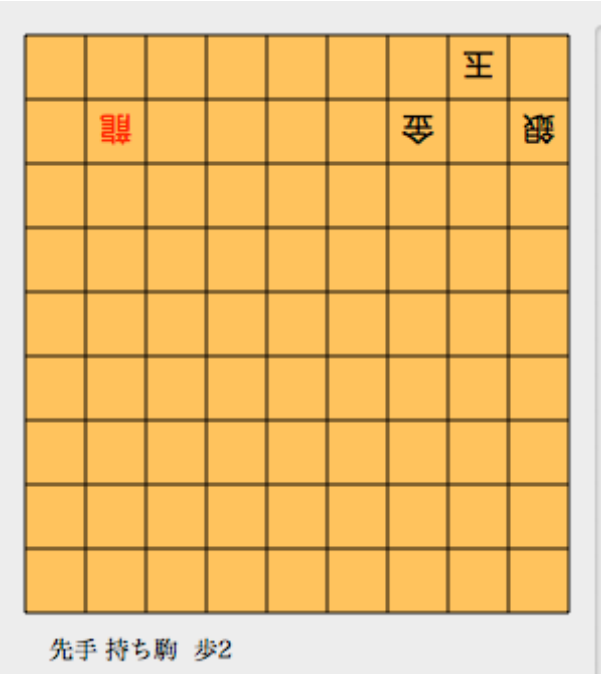
１７歩で１６歩を取ります。この瞬間１６歩は空中に浮かんでいるような形になります。そこで転が始まります。１６歩は玉方の駒になりました。続いて浮かんでいる１６歩の移動です。キルケですので１３に向かい着地をしようとしましたが、すでに１６に玉方の歩があります。

そして泣く泣く、先手の駒箱移動するという流れです。つまり１６歩（転）は王手ではないという結論になります。もちろん、キルケの移動の方が早いルールもありかと思います。

2. アンチキルケ

A. 転よりアンチキルケの移動の方が早い

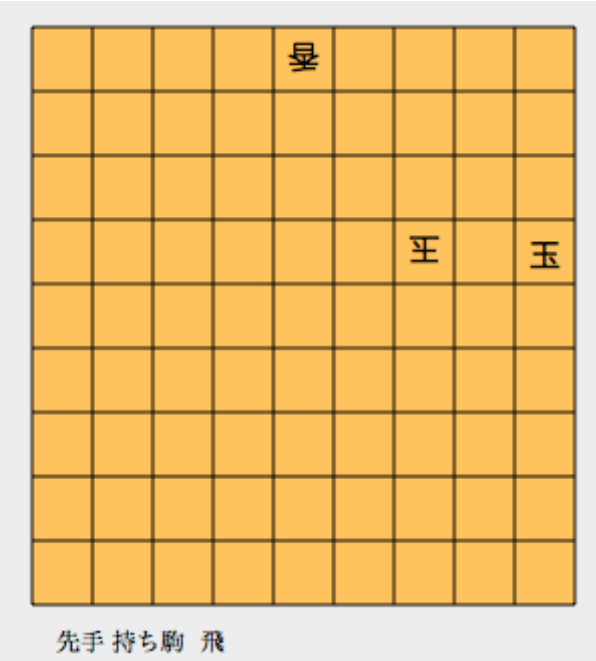
次図は（アンチキルケ+Andernach 協力５手）です。



作意は２２歩、同金/４１金転、２２歩、同龍/８２龍転、２２龍まで５手です。２手目アンチキルケ移動の前に転をすると４９にいってしまいます。単なるキルケと転のタイミングが違いますが、成駒が移動の際の問題など考えますと、「アンチ」がついてる分、部分的に逆の性質を持ってしまうのは必然なのかなと思ったりもします。

B. 所属が変わったら行き所のない駒になる場合は転しない

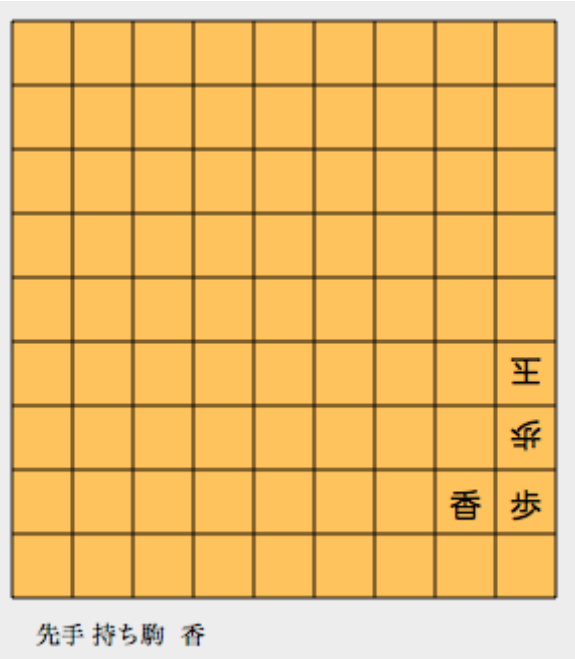
次図も（アンチキルケ＋Andernach 協力自玉２手）です。まぁ単なるアンチキルケでいいんですが。初手は５４飛の一手。続いて香で飛を取ります。取った香は Andernach なので転して攻め方になるのですが、既に香は１１にいますので行き所のない駒になってしまいます。よって転しません。自玉は詰んでいます。



3. PWC

A. 転より PWC の移動及びＰＷＣ特殊処理の方が早い

次図（PWC+Andernach 協力 3 手）です。



通常のＰＷＣなら初手は１７歩の場合はどうなるでしょうか。１７歩を取ります。この瞬間取られた歩は１８に移動します。移動後１７歩は転しようとしますが、二歩状態になるため転しません。ですから初手は１７歩/18 歩となります。以下１５玉、１６香までです。次に左図を１段下げた図はどうなるでしょうか？

初手は１８歩ですが、取られた直後１８歩は１９に移動しますがＰＷＣルールで持ち駒になり

ます。すると今度は転をしても二歩にならないので、転しなければなりません。よってこの図は王手が掛からず不詰となります。

4. Isardam

ＷＦＰ７０号及びその結果稿で確認願います

４．終わりに

ルールによっては非連続王手又は連続系との併用が望ましいかと思います。やはり日本の将棋は持ち駒という概念がある分、プロブレムのAndernachと比べて気色が違うような気がします。キルケ類とともにまだまだ未開発の分野と思いますので皆さんもチャレンジしてみてはいかがでしょうか？

解答募集締切一覧

ネットでのフェアリー詰将棋の解答募集締切一覧です。締切日が早いもの順です。解答先は各々異なりますのでお間違えにないように。

6 月 15 日（日）

第 62 回 WFP 作品展
フェアリー作品　１０題　推理将棋　３題

WFP 作品展特別出題
フェアリー作品　２題

8 月 15 日（金）

第 63 回 WFP 作品展
フェアリー作品　２０題

作品募集締切一覧

Fairy of the Forest #39

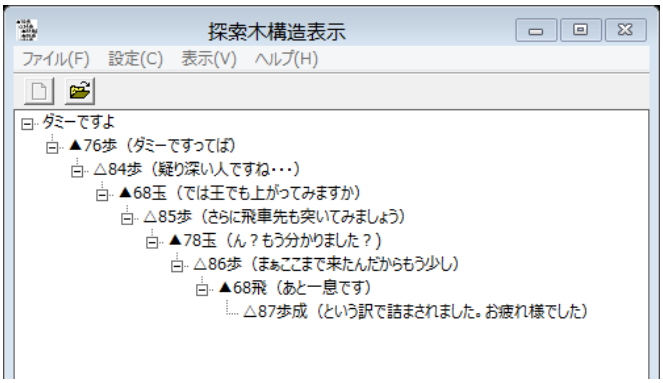
課題：飛または香が活躍する協力詰
投稿締切：平成 26 年 7 月 15 日（火）
（投稿先）
→酒井博久（sakai8kyuu@hotmail.com）

詳細は P40 をご覧ください。

推理将棋番外編（P50）解答

推理ハム将棋解答
78 金　34 歩　76 歩　32 銀　22 角成　31 金
同馬　62 銀　42 金　まで　9 手

推理将棋のように見える何か　解答
この文は YSS（AI 将棋）で有名な、山下宏氏の YssTree（探索木を TreeView で簡易表示させるツール）に埋め込まれた、ダミーデータです。棋譜を指定せずに、YssTree を起動すると、次図のような棋譜が表示されます。



というわけで手順は、

76 歩　84 歩　68 玉　85 歩　78 玉　86 歩
68 飛　87 歩成　まで　8 手

となります。
これを取り上げたのは、第 3 回電王戦に YSS が登場したからです。動画には山下氏の真面目な表情しか映っていませんが、目に見えないところで茶目っ気を発揮されているようです。

（神無七郎）

【あとがき】

最近新しいルールが多いせいか、解答を送っても誤解が多くなりちょっと沈んでいます。年かなあと思っていた所。昨日、地区の運動会があり運営の手伝いをしておりましたら、65 歳以上が参加の競技の前に、私のところへ 1 人の女性が来て、「あなた人がおらんので出てくれる？65 歳超えてるでしょ！」と言われました。その晩、布団の中で泣きました・・・。

2014 年　第 71 号
Web Fairy Paradise

非売品
平成二十六年五月号
平成二十六年五月廿日発行

発行所　愛媛県新居浜市
発行兼編集人　須川卓二
発行所　Web Fairy Paradise 編集部
問合先　takuji@dokidoki.ne.jp